

落衣長者屋敷遺跡

発掘調査報告書

2001

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

おと も ちょう じゃ や しき
落衣長者屋敷遺跡

発掘調査報告書

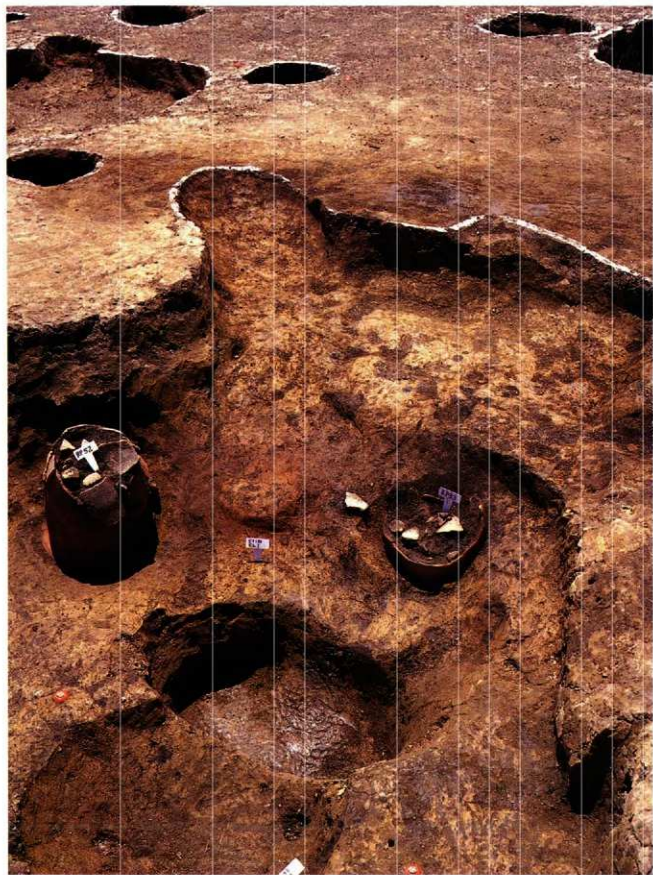
平成13年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区全景（南東から）



ST180 EL1 (北から)

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、落衣長者屋敷遺跡の調査成果をまとめたものです。

落衣長者屋敷遺跡は、山形県のほぼ中央に位置する寒河江市にあります。寒河江市は、西に出羽三山の主峰である月山、南西には朝日連峰をのぞむ山形盆地の西端に位置します。盆地の中を最上川、寒河江川が流れ、自然条件に恵まれた地です。

この度、東北横断自動車道酒田線（寒河江～西川間）建設工事に伴い、工事に先立って落衣長者屋敷遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代は狩猟場として使われた陥穴列、奈良時代・平安時代の集落跡、中世の落衣長者屋敷や巨海院に関連すると考えられる遺構が確認されました。特に、奈良時代・平安時代の集落跡は高瀬山遺跡群の西端にあたり、竪穴住居跡からは、土師器・須恵器などの土器がまとまって出土しています。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成13年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は、東北横断自動車道酒田線建設工事に係る「落衣長者屋敷遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、日本道路公団東北支社山形工事事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

遺跡名	落衣長者屋敷遺跡	遺跡番号	433
所在地	山形県寒河江市大字柴橋字金谷他		
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
調査期間	平成6年4月1日～平成13年3月31日		
現地調査	(第1次調査)	平成6年10月24日～平成6年11月8日	
	(第2次調査)	平成7年5月8日～平成7年11月30日	
	(第3次調査)	平成8年4月23日～平成8年7月9日	
発掘担当者	(第1次調査)	調査研究課長	佐々木洋治
		主任調査研究員	野尻 侃
		調査研究員	安部 実
	(第2次調査)	調査研究員	伊藤 邦弘
		調査研究員	須賀井新人
		調査研究員	水戸 弘美
		調査研究員	丸山 晶子
		調査研究員	齋藤 健
		嘱託職員	青山 崇
	(第3次調査)	調査第二課長	佐藤 庄一
		調査研究員	阿部 明彦
		調査研究員	黒坂 雅人
		嘱託職員	青山 崇
		調査第一課長	佐藤 庄一
		主任調査研究員	阿部 明彦
調査研究員	黒坂 雅人		
調査研究員	伊藤 元		
嘱託職員	須賀井明子		

- 4 発掘調査および本書を作成するにあたり、日本道路公団東北支社山形工事事務所、寒河江市教育委員会、山形県教育庁文化財課、山形県寒河江建設事務所、西村山教育事務所など関係機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は、黒坂雅人・伊藤 元、須賀井明子が担当した。編集は、須賀井新人が担当し、全体については佐藤正俊が監修した。
- 6 委託業務は下記の通りである。
基準点測量 株式会社寒河江測量設計事務所
遺構の写真測量・実測 株式会社シン技術コンサル
- 7 出土遺物・調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

ST…竪穴住居跡	SB…掘立柱建物跡	SK…土坑	SD…溝跡
SE…井戸跡	SP…ピット		
EL…カマド跡	EP…遺構内柱穴	EK…遺構内土坑	EB…掘立柱
RP…登録土器	RQ…登録石製品	RM…登録金属製品	S…礫

2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3 報告書執筆基準は下記の通りである

- (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構平面図中の方位は磁北を示す。
- (2) グリッドの南北軸は、 $N-34^{\circ}-E$ を測る。
- (3) 遺構実測図は $1/50\sim 1/200$ 他の縮尺で採録し、各々スケールを付した。なお、実測図中の網点は焼土を表す。
- (4) 遺物実測図は $1/3$ 、 $1/2$ で採録し、各々スケールを付した。なお実測図断面中の黒べたは須恵器を、石器実測図中のアミは節理面を表す。
- (5) 遺物計測表中の計測値の()は復元による推定値、[]は残存値、-は計測不能、空欄は計測不要を示す。また単位は特に断りがないかぎりmmを使用している。
- (6) 遺物図版は約 $1/3$ 、 $1/2$ の縮尺で採録した。
- (7) 遺物番号は、押図・付表・図版ともに共通とした。
- (8) 土層断面図中の色調の記載は、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	2
III	調査の概要	5
1	第1次調査の概	5
2	第2次調査の概要	7
3	第3次調査の概要	8
IV	遺跡の概要	11
1	基本層序	11
2	遺構と遺物の分布	12
V	遺構と遺物	14
1	竪穴住居跡	14
2	掘立柱建物跡	78
3	井戸跡	92
4	溝跡	104
5	陥穴状遺構	115
6	土坑	119
VI	調査のまとめ	144
1	平安時代の遺構と遺物について	144
2	調査のまとめ	147
	報告書抄録	148

表

第1表	S T 610出土土器観察表	19	第13表	S T 3350出土土器観察表	73
第2表	S T 180出土土器観察表	25	第14表	S T 260出土土器観察表	75
第3表	S K 411出土土器観察表	25	第15表	S T 570出土土器観察表	77
第4表	S T 250出土土器観察表	28	第16表	S B 3360出土土器観察表	89
第5表	S T 270出土土器観察表	35	第17表	井戸跡出土土器観察表	103
第6表	S T 3214出土土器観察表	41	第18表	溝跡出土土器観察表	115
第7表	S T 3219出土土器観察表	44	第19表	土坑・ピット観察表(1)	137
第8表	S T 280出土土器観察表	49	第20表	土坑・ピット観察表(2)	138
第9表	S T 3370出土土器観察表(1)	58	第21表	土坑・ピット出土土器観察表	143
第10表	S T 3370出土土器観察表(2)	59	第22表	陶磁器観察表	145
第11表	S T 3330出土土器観察表	66	第23表	石器・石製品・陶磁製品・ 金属製品観察表	146
第12表	S T 3340出土土器観察表	67			

挿 図

第1図	遺跡位置図	3	第21図	S T 270出土遺物分布図	31
第2図	遺跡周辺の史跡分布図	4	第22図	S T 270出土遺物(1)	32
第3図	第1次調査概要図	6	第23図	S T 270出土遺物(2)	33
第4図	第2次・第3次調査概要図	9	第24図	S T 270出土遺物(3)	34
第5図	調査区配置図	10	第25図	S T 3214	36
第6図	遺跡の層序	11	第26図	S T 3214出土遺物分布図	37
第7図	S T 610	15	第27図	S T 3214出土遺物(1)	38
第8図	S T 610出土遺物分布図	16	第28図	S T 3214出土遺物(2)	39
第9図	S T 610出土遺物(1)	17	第29図	S T 3214出土遺物(3)	40
第10図	S T 610出土遺物(2)	18	第30図	S T 3219	42
第11図	S T 180	20	第31図	S T 3219出土遺物	43
第12図	S T 180出土遺物分布図	21	第32図	S T 3219出土遺物分布図	44
第13図	S T 180出土遺物(1)	22	第33図	S T 280	45
第14図	S T 180出土遺物(2)	23	第34図	S T 280出土遺物分布図	46
第15図	S T 180出土遺物(3)	24	第35図	S T 280出土遺物(1)	47
第16図	S K 411	25	第36図	S T 280出土遺物(2)	48
第17図	S T 250	27	第37図	S T 3370(1)	50
第18図	S T 250出土遺物分布図	28	第38図	S T 3370(2)	51
第19図	S T 250出土遺物	29	第39図	S T 3370出土遺物分布図	52
第20図	S T 270	30	第40図	S T 3370出土遺物(1)	53

第41图	S T 3370出土遺物(2)·····	54	第77图	S E 3400·····	98
第42图	S T 3370出土遺物(3)·····	55	第78图	S E 3400·S E 550·S E 3002···	99
第43图	S T 3370出土遺物(4)·····	56	第79图	井戸跡出土遺物(1)·····	100
第44图	S T 3370出土遺物(5)·····	57	第80图	井戸跡出土遺物(2)·····	101
第45图	S T 3370出土遺物(6)·····	58	第81图	井戸跡出土遺物(3)·····	102
第46图	S T 3330·····	61	第82图	S D 3010(1)·····	106
第47图	S T 3330出土遺物分布图·····	62	第83图	S D 3010(2)·····	107
第48图	S T 3330出土遺物(1)·····	63	第84图	S D 3035·····	108
第49图	S T 3330出土遺物(2)·····	64	第85图	S D 3055·····	109
第50图	S T 3330出土遺物(3)·····	65	第86图	S D 3271·····	110
第51图	S T 3340·····	66	第87图	S D 110·····	111
第52图	S T 3340出土遺物·····	67	第88图	S D 3272·····	113
第53图	S T 3340出土遺物分布图·····	68	第89图	溝跡出土遺物(1)·····	114
第54图	S T 3350·····	69	第90图	溝跡出土遺物(2)·····	115
第55图	S T 3350出土遺物分布图·····	70	第91图	陥穴状遺構分布图·····	116
第56图	S T 3350出土遺物(1)·····	71	第92图	陥穴状遺構(1)·····	117
第57图	S T 3350出土遺物(2)·····	72	第93图	陥穴状遺構(2)·····	118
第58图	S T 3224·····	74	第94图	S K 15·S K 17·S K 3017···	120
第59图	S T 260·····	75	第95图	25~31-344~352区遺構分布图···	121
第60图	S T 3369·····	76	第96图	25~31-344~352区検出土坑···	122
第61图	S T 570·····	77	第97图	24~31-356~365区遺構分布图···	123
第62图	S B 630·····	79	第98图	24~31-356~365区検出土坑(1)···	124
第63图	S B 18·····	80	第99图	24~31-356~365区検出土坑(2)···	125
第64图	S B 20·····	81	第100图	31~37-361~365区遺構分布图···	126
第65图	S B 418·····	82	第101图	31~37-361~366区検出土坑···	126
第66图	S B 577·····	84	第102图	23~27-367~373区遺構分布图···	127
第67图	S B 3238·····	85	第103图	23~27-367~373区検出土坑···	127
第68图	S B 578·····	87	第104图	28~34-365~374区遺構分布图···	128
第69图	S B 3360·····	88	第105图	28~34-365~374区検出土坑(1)···	129
第70图	S B 440·····	89	第106图	28~34-365~374区検出土坑(2)···	130
第71图	S B 430·····	90	第107图	23~29-379~388区遺構分布图···	131
第72图	S B 560·····	91	第108图	23~29-379~388区検出土坑···	132
第73图	S E 640·····	94	第109图	30~34-378~384区遺構分布图···	133
第74图	S E 640·S E 3150·····	95	第110图	30~34-378~384区検出土坑···	133
第75图	S E 240·····	96	第111图	26~32-389~393区遺構分布图···	134
第76图	S E 3380·S E 3388·····	97	第112图	26~32-389~393区検出土坑···	134

第113図	16~22-404~408区遺構分布図……135
第114図	16~22-404~408区検出土坑……135
第115図	土坑・ピット出土遺物(1)……139

第116図	土坑・ピット出土遺物(2)……140
第117図	土坑・ピット出土遺物(3)……141
第118図	土坑・グリッド出土遺物……142

図 版

巻頭図版1	遺跡遠景
巻頭図版2	調査区全景
巻頭図版3	ST 180 E L1
図版1	長者屋敷跡・巨海院跡
図版2	第1次調査トレンチ設定他
図版3	表土除去前の調査区全景
図版4	A調査区表土除去作業状況他
図版5	A調査区遺構検出状況他
図版6	C調査区面整理作業状況他
図版7	C調査区遺構検出状況他
図版8	第2次調査区完掘状況
図版9	第3次調査C区西半完掘状況
図版10	25・26-334区テストピット土層断面
図版11	ST 610調査状況他
図版12	ST 610 E L1付近遺物出土状況他
図版13	ST 180検出状況他
図版14	ST 180床面検出状況他
図版15	ST 180 R P 52・53出土状況他
図版16	S K 411土層断面他
図版17	ST 250調査状況他
図版18	ST 250 R P 54出土状況他
図版19	ST 250 E L1・E K 6土層断面他
図版20	ST 270検出状況他
図版21	ST 270 E L1付近遺物出土状況他
図版22	ST 270 E L1完掘状況他
図版23	ST 3214検出状況他
図版24	ST 3214床面検出状況他
図版25	ST 3214 R P 6・7・9出土状況他
図版26	ST 3219検出状況他
図版27	ST 3219調査状況他
図版28	ST 280検出状況他

図版29	ST 280床面検出状況他
図版30	ST 280 E L1完掘状況他
図版31	ST 3370検出状況他
図版32	ST 3370床面検出状況他
図版33	ST 3370 R P 15出土状況他
図版34	ST 3370 E L1・E L9完掘状況他
図版35	ST 3330検出状況他
図版36	ST 3330床面検出状況他
図版37	ST 3330 R P 34~37出土状況他
図版38	ST 3340調査状況他
図版39	ST 3340床面検出状況他
図版40	ST 3350調査状況他
図版41	ST 3350 R P 24~27出土状況他
図版42	ST 33500 E L1完掘状況他
図版43	ST 3224検出状況他
図版44	S B 630完掘状況他
図版45	S B 3360完掘状況他
図版46	S E 3380土層断面他
図版47	S E 240上部土層断面他
図版48	S E 3400上部土層断面他
図版49	S D 3010東半完掘状況他
図版50	S K 3043完掘状況他
図版51	S K 620土層断面他
図版52	S K 3040土層断面他
図版53	S K 3160土層断面他
図版54	S K 276土層断面他
図版55	S K 381土層断面他
図版56	S K 335土層断面他
図版57	S K 484土層断面他
図版58	S K 530土層断面他
図版59	出土遺物(1)

图版60	出土遗物 (2)	图版83	出土遗物 (25)
图版61	出土遗物 (3)	图版84	出土遗物 (26)
图版62	出土遗物 (4)	图版85	出土遗物 (27)
图版63	出土遗物 (5)	图版86	出土遗物 (28)
图版64	出土遗物 (6)	图版87	出土遗物 (29)
图版65	出土遗物 (7)	图版88	出土遗物 (30)
图版66	出土遗物 (8)	图版89	出土遗物 (31)
图版67	出土遗物 (9)	图版90	出土遗物 (32)
图版68	出土遗物 (10)	图版91	出土遗物 (33)
图版69	出土遗物 (11)	图版92	出土遗物 (34)
图版70	出土遗物 (12)	图版93	出土遗物 (35)
图版71	出土遗物 (13)	图版94	出土遗物 (36)
图版72	出土遗物 (14)	图版95	出土遗物 (37)
图版73	出土遗物 (15)	图版96	出土遗物 (38)
图版74	出土遗物 (16)	图版97	出土遗物 (39)
图版75	出土遗物 (17)	图版98	出土遗物 (40)
图版76	出土遗物 (18)	图版99	出土遗物 (41)
图版77	出土遗物 (19)	图版100	出土遗物 (42)
图版78	出土遗物 (20)	图版101	出土遗物 (43)
图版79	出土遗物 (21)	图版102	出土遗物 (44)
图版80	出土遗物 (22)	图版103	出土遗物 (45)
图版81	出土遗物 (23)	图版104	出土遗物 (46)
图版82	出土遗物 (24)	图版105	出土遗物 (47)

I 調査に至る経過

落衣長者屋敷遺跡は、山形県寒河江市大字金谷地内に所在し、金谷集落と落衣集落の中間地点に位置する。この地は、「長者屋敷跡」とよばれる中世の居館跡や、現在大江町左沢に所在する寺院の「巨海院」が室町時代に創建された地など、古くからの言い伝えがいくつも残る場所であった(図版1)。昭和51年(1976)8月15日に宇野修平氏、荒木利見氏によって現地の確認調査がおこなわれた。その際、最上川の段丘崖に近いところから須恵器破片が採集された。その結果から、東西30m、南北50mの範囲をもつ平安時代の遺物包蔵地として、昭和53年(1978)発行の「山形県遺跡地図」に登録された。「長者屋敷跡」は、現在でも土塁と空堀の一部が残り、このときに遺跡範囲とされたところの北に隣接する。本遺跡の名称はここから名付けられたものと思われる。また、「巨海院跡」とされる場所は、「長者屋敷跡」から北に約200mの地点にあり、現在小さな虚空蔵堂が建立されている。

東北横断自動車道酒田線(寒河江～西川間)着工の具体化に先立って、山形県教育委員会は平成元年(1989)に埋蔵文化財包蔵地基礎調査として路線域周辺の基礎的な表面踏査を実施した。落衣長者屋敷遺跡では、遺物の散布状況は全般に希薄であったものの、広い範囲で須恵器などの古代の土器片が表面採集された。この結果と周辺の地形から遺跡の規模および性格が再検討され、館跡および寺院跡を含めて、東西400m、南北600m、面積240,000㎡の規模をもつ平安時代～中世の散布地として見直しがなされた。

日本道路公団では、平成3年(1991)に寒河江工事区の路線発表をおこない、平成5年(1993)から地元との設計協議にはいった。そのなかで落衣長者屋敷遺跡が事業地区内にかかることになった。そこで、山形県教育委員会では、遺跡のより具体的な内容を把握するために、平成6年(1994)に遺跡詳細分布調査を実施するはこびとなった。

調査は、試掘調査を主体として8月23日、同24日の両日におこなわれた。遺跡範囲内にかかる事業実施予定区域の道路センター杭を基準として、おおむね20m間隔で縦横各1mの試掘区を22箇所設定した。各試掘区は、人力により地山まで掘り下げ、遺構および遺物の分布状況が探られた。事業区域の東西両側では遺構、遺物ともに未検出であったが、路線の中央にあたる農道付近を中心に、5箇所を試掘区から黒色土の落ち込みや柱穴が検出された。遺物は試掘区からは出土しなかったが、付近から須恵器破片、石器、剥片が表面採集された。これにより落衣長者屋敷遺跡は、縄文時代から中世にいたる幅広い内容をもった、集落跡であることが確認された。

この分布調査の結果をもとに、山形県教育委員会と日本道路公団との間で調整がはかられ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団からの委託を受けて、記録保存を目的とする緊急発掘調査を実施することとなった。同センターでは、平成6年10月24日から11月8日に発掘調査経費のより正確な算定に資する目的で、第1次調査となるトレンチ方式による予備調査をおこなった。そこで得られたデータをもとに工事計画との調整がはかられ、翌平成7年度から2年次にわたり工事区域全体の発掘調査が実施された。

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境(第1図 巻頭図版1 図版3)

落衣長者屋敷遺跡は、山形県寒河江市の南部、大字柴橋字金谷地内に所在する。寒河江市街地から南西に約2.5kmに位置する。

寒河江市は山形県のほぼ中央にひらけた山形盆地の北西部にある。西に月山、朝日連峰、南東に蔵王連峰と1,000mをこえる山々をのぞむ。市域は、東西12.5km、南北21.5km、約140km²の面積を占有する。その約3分の2が山林である。平野部は市域の南部にあり、おもに最上川の河岸段丘と、朝日岳に源を發し、北を流れる寒河江川の扇状地によって形成される。こうした環境がもたらす気候は、多様な農作物の栽培に適し、特にさくらんぼ、りんごなど果樹の生産では県内でも有数の生産地となっている。

本遺跡は、寒河江市の南部、最上川左岸に發達した河岸段丘や氾濫原に立地する。東西400m、南北600m、面積240,000m²の規模をもつ。標高は106m前後を測り、地目は果樹園・畑地・水田である。

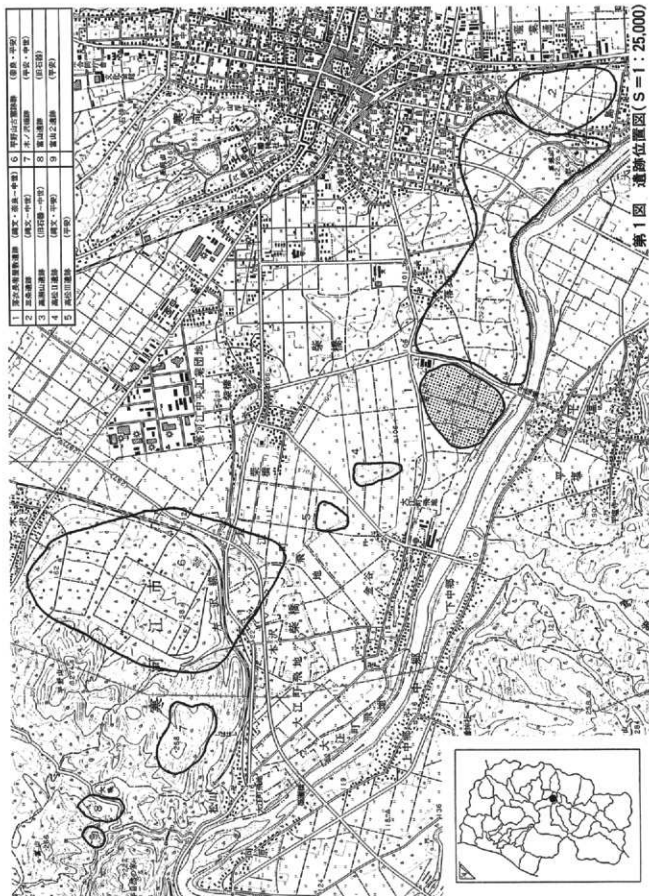
2 歴史的環境(第1・2図 図版1)

寒河江市には、旧石器時代から近世に至るまでの多くの遺跡が存在する。落衣長者屋敷遺跡周辺でも後期旧石器時代の金谷原遺跡、縄文時代中期の堅穴住居跡が検出されたうぐいす沢遺跡、古墳時代では箱式石棺をもつ高瀬山古墳などの分布が知られ、太古から連続とした人間の生活の痕跡が残された地域である。

古代の本遺跡周辺は、「村山郡長岡郷」にあたりと考えられる。11世紀以降は寒河江荘となり、摂関家の支配する地域や寺社領などが交錯するようになる。当時は名馬の産地として名を馳せていた。なお、「落衣」という地名の由来については『出羽国風土記』に「村老曰く往古弘法大師此所に来たりけるに糸朽ちて衣の裳既に落ちたり。依て落衣村と云うとぞ」と記されている。

本遺跡発掘調査の端緒ともなった東北横断自動車道酒田線や、それに附随するサービスエリア、ハイウェイオアシスの建設工事に先立って実施された、三条遺跡・高瀬山遺跡の緊急発掘調査では、全体で600棟をこえる古代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡の存在が確認され、この地に営まれた当時の大規模な集落の様相が明らかになりつつある。本遺跡でも当該期の集落跡が確認され、東西約2kmにおよぶ高瀬山遺跡群の西端部の状況をうかがい知ることができる。また、落衣長者屋敷遺跡の西約2.5kmの丘陵端部には平野山古窯跡群が所在する。この遺跡からは、奈良時代末葉から平安時代にかけて窯業生産をおこなった窯跡が多数確認されており、高瀬山遺跡群一帯に須恵器などを供給していたものと考えられる(第1図)。

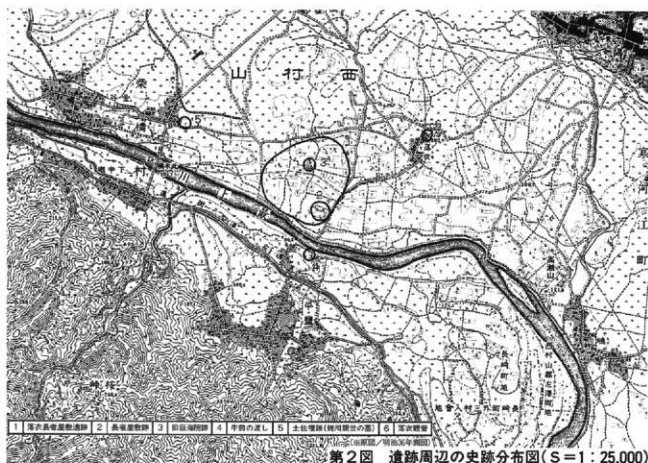
中世には、寒河江荘の地頭職を大江廣元が得、その目代として、多田仁綱が入部することとなる。「文治六年庚戌四月、中原廣元の讓を受け、羽州寒河江荘を領す。始め本桶村に住み、のち吉川村に徙る。」と『安中坊系図』に記されている。この時以降、戦国時代末期まで寒河江市域は大江氏の所領となった。白岩城や寒河江城は寒河江大江氏の居城とみられる。



第1図 遺跡位置図(S=1:25,000)

一方、中世の落衣には「落衣千軒」という言い伝えが残っている。当時の落衣は、寺山を中心として、観音堂、地藏堂、大師堂、玄界堂、無量堂、虚空藏堂、高松寺、巨海院、常林寺などがある宗教集落であった。調査区の南に隣接する虚空藏堂は、南北朝時代に大江町に移った巨海院の跡地と伝えられ、明治時代になってから建立されたものである。巨海院は、古くは真言宗の寺院でこの地にあったが、左沢桶山城築城の際に左沢元時により城内に移され、近世にはいつてから現在地に移された。また、落衣集落の南を流れる最上川の対岸には「牛前の渡し舟屋敷跡」が残っている。落衣集落は牛前の渡し舟屋敷から寒河江に至る六十里越街道の街道集落ともいわれている。このように、宗教と商業の中心として多くの人家が立ち並び、活気を呈していたことから「落衣千軒」という言い伝えが残ったのであろう。

「長者屋敷跡」は、調査区の南方約200m、最上川をはさんで、「牛前の渡し舟屋敷跡」の対岸に位置する。平安時代から室町時代の屋敷跡で、東西130m、南北170mの範囲に、幅約5.3mの空堀と、その内側に土塁が残る。古代郡司小野良実の屋敷跡あるいは役所の跡との伝承も残るが、館の構造は中世の方形館の様相を呈する。室町時代末期には、足利氏に仕えた重臣鯉川親世の屋敷跡という言い伝えがある。いずれにしても「長者屋敷跡」は、最上川の水運を利用するうえで有利な環境に立地していたといえる(第2図)。



III 調査の概要

落衣長者屋敷遺跡の緊急発掘調査は、東北横断自動車道酒田線(寒河江～西川間)建設用地内32,500㎡を対象に実施された。調査は3年次にまたがっておこなわれた。以下に各年次ごとの調査概要を記す。

1 第1次調査の概要(第3図 図版2)

第1次調査は、発掘調査に必要な経費積算および調査期間の算定のための基礎資料を収集し、長期にわたる調査の効率化と、全体計画の策定を図ることを目的とした予備調査である。

現地調査は、平成6年10月24日から11月8日にかけて実施された。調査の方法は、事業区域内センター、縁辺およびその中間に2×10mを基本とするトレンチを74箇所設定し、各トレンチについて、重機による表土剥ぎ取り後、人力による面整理、遺構検出の順に実施し、その間に土層断面観察、断面図の作成、写真撮影等の記録作業をおこなった。また必要に応じてトレンチを拡張し、遺構平面図の作成や遺構の半截作業を実施して、より具体的なデータの収集につとめ、最終的にすべてのトレンチを埋め戻している。掘り下げをおこなったトレンチの面積は、合計で1,600㎡であった。

調査では、遺構・遺物の密集する区域は検出されなかったものの、調査区東半部分を中心として55箇所のトレンチで遺構の検出または遺物の出土が確認された。遺構は、竪穴住居跡3棟、土坑10基、溝跡8条、ピット360基が検出され、遺物は、須恵器・土師器・石器・剥片など1箱分が出土している。

2 第2次調査の概要(第4・5図 巻頭図版2 図版4～8)

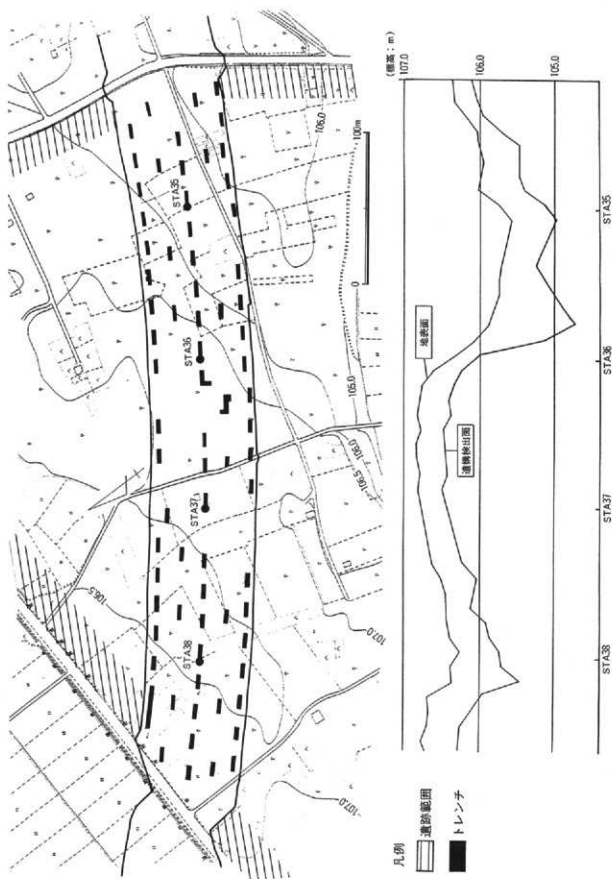
第2次調査は、平成7年5月8日から11月30日までの実働134日間の日程で実施された。第1次調査の結果から、遺跡にかかる事業地区全域の発掘調査が必要と判断されたため、当該年度では、調査区全面の表土剥ぎ取り作業および遺構検出作業と、早期の着工が予定される3箇所のカルバートボックス部分および工事用道路となる北辺の側道部分の合計11,500㎡についての精査を実施した(第4図)。なお、調査区割りは、最も着工を急ぐ北西端のカルバートボックス部分をA区、南東端部をB区、中央の農道をはさんで東半をC区、西半をD区として、ほぼこの順で精査をすすめた(第5図)。以下に経過を略記する。

5月8日～5月10日

8日から器材搬入に先立って、早期の着工と引渡しが予定されたA区から重機による表土剥ぎ取り作業にはいる。10日、現場事務所器材を搬入する。この日より発掘作業員が稼働を開始する。

5月11日～5月24日

11日午前11時より山形県教育庁文化財課、日本道路公団東北支社山形工事事務所等関係機関と発掘作業員出席のもと、三条遺跡、高瀬山遺跡、落衣長者屋敷遺跡の調査の安全を祈願する調査開始式をおこなう。A区は、11日から面整理作業を開始、16日より遺構掘り下げ作業、23日に記録作業を含めて調査を終了した。また、B区は、19日より面整理作業を開始し、



第3図 第1次調査概要図(S=1:2,500)

22日に遺構検出を終了、24日に検出段階での遺構平面図を作成した。なお、この間に重機による表土剥ぎ取り作業は継続され、約20,000㎡について終了した。

5月25日～6月6日

B区は、SD3010の遺構掘り下げ作業を中心に遺構精査を実施した。また、C区・D区は、表土剥ぎ取りが終了した部分から面整理作業にはいる。調査区全体の重機による表土剥ぎ取り作業を6月6日で完了する。

6月7日～8月21日

B区は、引き続きSD3010の遺構掘り下げ作業を中心に遺構精査を継続した。C区は面整理作業と並行して遺構検出およびマーキング作業にはいり、6月18日までにほぼ終了する。翌19日、委託業務による遺構検出状況の空中写真測量を実施する。D区の面整理作業は6月20日から開始し、作業の終了した部分から遺構検出、マーキング作業をすすめた。D区の委託業務による遺構検出状況の空中写真測量は、7月12日に東半部分、7月25日に西半部分の2回に分けて実施した。面整理作業は、遺構検出の補足、記録作業を含めて8月21日までに終了した。なお、この間6月29日にA区の現地引渡しをおこなった。

8月22日～8月30日

22日より、本格的な遺構精査にはいる。この期間はB区の精査を主体に実施し、30日までに記録作業を含めたすべての作業を終了した。なお、24日からB区の余剰人員を投入して、C区の精査に着手する。

8月31日～10月4日

C区は、東端カルバートボックス部分、北辺側道部分、中央カルバートボックス部分の順に遺構精査をおこなった。土坑、溝跡、ピット群については半截作業、土層断面図作成、完掘作業の順で作業を実施し、その間に適宜写真撮影、遺構平面図の作成を実施し、10月4日までに竪穴住居跡以外の遺構の掘り下げをほぼ終了する。

10月5日～11月8日

10月5日からD区の遺構精査を開始する。D区は中央カルバートボックス部分、北辺側道部分の順に精査をすすめた。C区は竪穴住居跡の精査を主体に作業を継続。

11月9日

午後から一般の見学者を対象に発掘調査説明会を開催した。当日は雨の悪天候であったが、地元の方々を主体に62名の参加があった。

11月10日～11月28日

C区は、竪穴住居跡を、D区は井戸跡を中心に精査と記録作業をすすめ、28日までにほぼ作業が終了した。17日、委託業務による遺構完掘状況の空中写真測量を実施する。また、21日には、柴橋小学校6年生が見学に訪れた。

11月29日・30日

29日午後に器材を撤収する。翌30日、残った記録作業を終了。現場事務所内の清掃、現地の安全対策を施し、第2次調査を終了した。

3 第3次調査の概要(第4・5図 図版9)

第3次調査は、平成8年4月23日から7月9日までの実働52日間の日程で実施された。当該年度では、第2次調査で未精査となったC区・D区の本線部分および南辺側道部分を主体として、合計17,700㎡についての精査を実施した。以下に経過を略記する。

4月23日～4月30日

23日、現場事務所にて器材を搬入する。24日より調査区中央の農道部分について立会い調査を実施し、30日までに記録作業を含め調査を終了する。C区は、昨年度遺構検出をおこなったが、越冬のためにマーキングの消えた部分について、再度検出作業を実施した。また、25日午前10:30から、関係機関参加のもと、高瀬山遺跡群全体の調査の安全を祈願する合同の歎入れ式を高瀬山1期現場事務所前でとりおこなう。

5月1日～5月21日

C区の遺構精査を開始する。この期間は土坑、ピット、溝跡について半截作業、土層断面の記録、完掘作業の手順で精査をすすめ、平面実測、写真撮影などを並行して実施した。

5月22日～6月3日

C区は井戸跡、竪穴住居跡の精査にはいる。D区は5月23日から遺構の再検出作業、同24日から遺構精査を並行して開始した。D区の遺構掘り下げは、土坑、ピットからはじめ、概ね東から西に向かって精査区域を移動させながらすすめた。

6月4日～6月12日

4日から昨年度の現場事務所および駐車場部分について、重機による表土剥ぎ取り作業を開始し、10日に終了する。この間面整理および遺構検出作業を並行しておこない、11日までにマーキングを終了した。重機稼動のため、作業員による精査はD区を中心に実施し、C区はSE240の精査、記録と平面図の作成をおこなう。12日、委託業務によるC区の遺構完掘状況の空中写真測量を実施する。

6月13日～6月25日

C区は竪穴住居跡、D区は井戸跡、溝跡を主体とした精査を同時進行でおこなう。

6月26日～7月3日

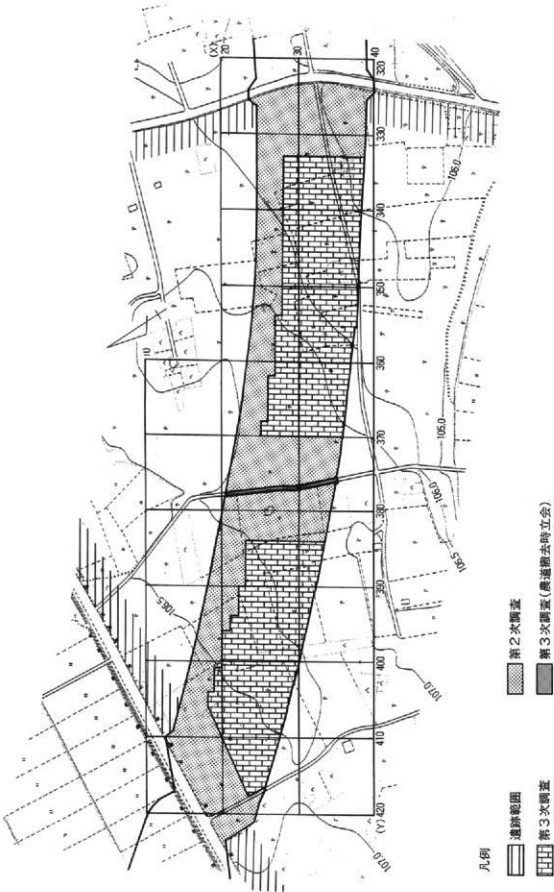
C区の竪穴住居跡の精査は、26日に掘り下げ作業を終了、7月1日に必要な図面、写真撮影などを終了した。また、26日より、C区の新規表土剥ぎ取り部分について精査を開始する。D区も精査を継続し、記録作業を含め7月2日までに終了する。

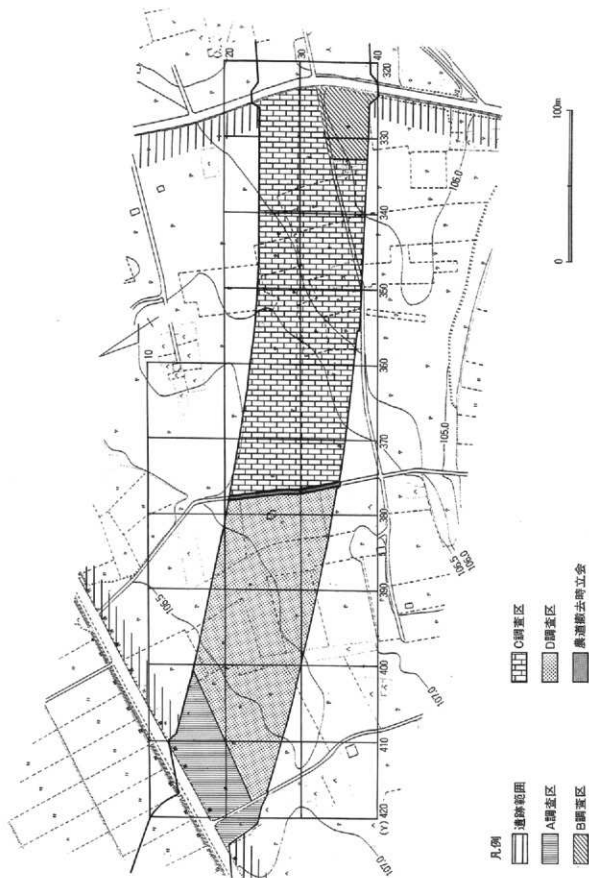
7月4日～7月8日

C区の新規表土剥ぎ取り部分について精査を継続し、5日までにST 610の記録作業の一部を除いて調査を終了した。4日、D区およびC区の残りの部分について委託業務による遺構完掘状況の空中写真測量を実施する。5日は午後から一般の見学者を対象に発掘調査説明会を開催した。関係機関ならびに地元の方々など214名の参加があった。

7月9日

最後に残ったST 610の平面図の補足実測の終了後に器材を撤収する。





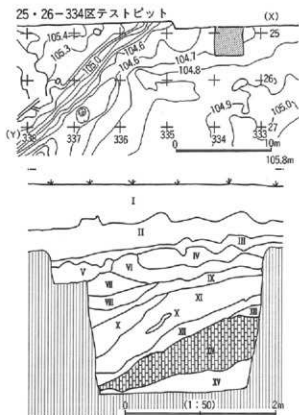
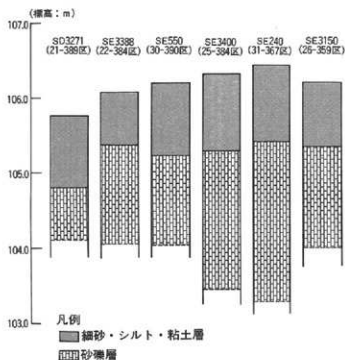
第5図 調査区配置図(S=1:2,500)

IV 遺跡の概要

1 基本層序(第3・6図 図版10)

落衣長者屋敷遺跡は、最上川左岸の河岸段丘上に立地するが、遺跡範囲内は古い時期の河道とみられ現況が水田となる標高104m前後の低地を中央にはさみ、その南北両側に標高106m前後の微高地が広がり、果樹園、畑地として利用されている。今回の調査区は、遺跡範囲の北半部分にあたり、北側の微高地を南東から北西方向に横断する形となっている。地表面での標高は、北西端部で約107m、南東端部で約106mをはかり、概ね西から東に緩く傾斜する。第3図下は、第1次調査において記録された地表面と遺構検出面の起伏の推移である。調査区の東西長は約500mであり、その間に大きく2箇所の段差が認められるが、現地では耕作のための区割りなどもあって、これらは明確に識別できるものではなかった。しかし、表土除去後の遺構検出面では、明瞭な段差がY軸397~409付近および336~364付近の2箇所で東西方向に検出され、調査区内が3段で構成されていることが確認された(付図)。各段差の比高は、西の段差で60~80cm、東側の段差で60~100cmをはかり、特に東側の25~34-337~342区付近では、黒色土の落ち込みが比高差150cmに達し、小規模なレンズ状の凹地を形成している。各段の平坦面での標高をみると、西で106.2~106.5m、中央で105.6~106.6m、東で104.9~106.1mをそれぞれはかる。これらは段差に比較して標高差が小さく、調査区内の遺構検出面は東西方向に緩く傾斜する洗濯板状を呈するとみることができる。

遺構確認面以下の土層柱状図



第6図 遺跡の層序

調査区内の土層の堆積状況を観察するため、25・26-334区に3×3mのテストピットを設定し、地表面下約2.8mまで深掘りをおこなった。第6図右および図版10は、その土層堆積状況である。設定した位置は調査区北辺の東端に近く、中央段差との傾斜変換線から約5mの地点である。各層序は以下のようになる。

I層 10YR2/3 黒褐色シルト：耕作土。厚さ40～60cmで堆積する。地表面では、ほぼ水平に堆積するがII層との境界は波状となり、西に向かって若干傾斜する。

II層 10YR1.7/1 黒褐色シルト：層厚20～50cm。

III層 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト：層厚4～25cmで、不規則に波打ち比較的不安定に堆積する。以下の層序に向かって色調が漸移的に変化する。

I～III層は、地点によって色調および土質に若干の変化があるものの、調査区全域で検出された。層厚は、各段ともに平坦部分では3枚の層序を合わせても20～30cm程度であるが、段差の下部に近付くにつれて厚くなる傾向がみられた。なお、遺構検出は、概ねIII層下面でおこなっている。以下はテストピットでの地山から下の土砂の堆積状況である。

IV層 10YR3/4 暗褐色細砂：層厚3～28cm。粗砂を多量に含む。

V層 10YR3/4 暗褐色砂：層厚8～30cm。色調がIV層より若干明色となる。

VI層 7.5YR4/6 褐色粘土：層厚10～35cm。土質はVII層に類似するが粘性が強い。

VII層 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト：層厚30cm。微細な炭化物を含む。

VIII層 7.5YR3/4 暗褐色砂：層厚20cm。酸化鉄を多量に含む。

IX層 7.5YR6/4 にぶい橙褐色粘土：下位では色調が10YR5/4にぶい黄褐色に、土質が粘土質から砂質に漸移的に変化し、下層との境界が不明瞭となる。層厚8～26cm。

X層 10YR5/4 にぶい黄褐色砂：層厚40cm。

XI層 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂：層厚20～50cm。X層がちぎれ状に混入する。

XII層 10YR5/4 にぶい黄褐色砂：X層に比較して土質がやや粗い。層厚5～25cm。

XIII層 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂：層厚15cm。XI層とほぼ同質。X～XIII層は互層の状況を呈し、各層序間をまたいで酸化鉄の不規則な帯状の混入が観察される。

XIV層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫：粗砂中に径1～5cmの円礫を多量に含む。礫間を充填する粗砂の土色は下層に向かって漸移する。層厚5～65cm。

XV層 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂：均質。地下水の湧出が若干みられる。

地山以下の層序では西への傾斜、すなわち段差の下縁部に向かう傾斜が一段と顕著になる。したがって段差部分は、古い時期の河道の名残りの可能性が考えられる。第6図左は、中央の段で検出された井戸跡および溝跡(SD3271)で観察した地山以下の状況である。遺構検出面から、ほぼ70～100cmまで、比較的均質な暗褐色から黄褐色の細砂・シルト・粘土の互層が堆積する。これらは上記IV層からXIII層にほぼ相当するとみられる。それ以下は、粗砂と円礫による砂礫層が堆積する。調査区中央のカルバートボックス設置工事にもなう掘削部分では、地表面下1.5m付近から5m以下まで砂礫層と粗砂層が観察された。砂礫層の円礫は2.5m以下の深さでは人頭大以上のものを含むようになり、地下水の湧出が顕著にみられた。

2 遺構と遺物の分布(付図)

今回の調査では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土坑、ピットなどの遺構が検出され、土器など整理箱で34箱の遺物が出土した。出土遺物は、縄文時代の石器、平安時代の土器、中世・近世の陶磁器のほか、砥石などの石製品、古銭・刀子などの金属製品、スラグなどがあるが、その大半は平安時代の須恵器・土師器である。

調査区内では、各時期の遺構が同一面上で検出された。それらは前項で述べた3つの段のうち、特に中央の段で密な分布がみられ、A区およびD区のSD3272以西では疎となる。また、遺構の密集する区域でも、C・D区の境界をはさむY軸373~378ライン付近では疎となる。遺物は、遺構確認面よりも上の各層序から出土したものは非常に少ない。また、竪穴住居跡では一括性の高い資料が得られたものの、その他の遺構で遺物が出土したものは少なく、それらも大半は1から数点の破片資料が得られたにすぎない。したがって出土遺物からその所属時期を検討できるものや、出土遺物とあわせて構造からある程度年代を推定できる遺構はごく一部に限られ、大半は構築された時期の認定が困難であった。以下では各時代ごとの遺構と遺物の分布状況を概観する。

縄文時代の遺物は、石器と剥片が出土した。これらは調査区全域のⅠ・Ⅱ層中や遺構から出土しているが、絶対的な点数は少ない。遺構内出土の場合でも、その性格を反映するような出土状況を示すものはなく、いずれも後世の遺構への流れ込みと判断された。縄文土器が出土していないため、これらの詳細な所属時期についても不明である。縄文時代の遺構は、陥穴状遺構が2箇所で見出された。C区東半部27~38-346・347区では、調査区を北東から南西方向に直線的に横断し、4~10mの間隔で9基が並ぶ。D区西端に近い18~20-399~402区では段差の傾斜変換線から約5m北の地点に2基が14mの間隔で見出された(第91図)。これらは、出土遺物が皆無のため所属時期等の詳細は不明であるが、その構造から縄文時代に構築されたものと考えられる。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡12棟の存在が確認された。このほか竪穴住居跡との位置関係や構造、遺物の出土状況などから、掘立柱建物跡5棟および井戸跡1基がこの時代の所産と推定される。これらは、C区西半の25~36-361~373区に竪穴住居跡11棟、掘立柱建物跡3棟が集中するほか、残りがC区中央南辺に沿って36~38-344~355区に分布する。前者は、概ね直径約60mの範囲で北に開口した馬蹄形の配置となる。また、後者の場合は、調査区南辺から外に集中域をもつ可能性が指摘できる。各竪穴住居跡の所属時期については、いずれも9世紀前半を主体としているものと考えられる。

中世および近世の遺物は、井戸跡をはじめとするいくつかの遺構から陶磁器の破片が散見される程度で、その分布が非常に希薄である。したがって当該期の遺構として確定できたものは井戸跡6基とSD3010溝跡のほか、若干の土坑があるだけであるが、構造的な観点からみて掘立柱建物跡や陥穴状遺構、溝跡の多くが中世以降に構築された可能性がある。そのほかSD3272やSD3055などの溝跡は、巨海院との関連を想起させるものであり、今後より詳細な検討をおこなう必要がある。

V 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、平安時代に所属するものが12棟が検出された。以下にその概要を述べるが、本項では、このほかに4棟検出されている所属時期不明の竪穴状遺構についても取り扱う。

ST610(第7～10図 図版11・12 第1表)

37・38-347～349区で検出された。住居跡南西角が調査区外となるが、ほかの遺構とは重複していない。規模および平面形は長辺(南北)が5.5m、短辺(東西)が4.2mの長方形を呈する。床面は平坦であり、硬くしめるが、貼床は顕著ではない。確認面からの深さは25cm前後を測る。壁の立ち上がりは急である。床面からは15基のピットと1基の土坑が検出された。このうちEP2・3・4・5の各ピットは配置の状況から主柱穴となる可能性がある。カマド(EL1)は南辺東寄りで見出された。焚口部分は焼土化が著しく、比較的良好に遺存するが、袖は検出されなかった。EL1の南には壁面から約90cmにわたって突出した落込みが確認され、煙道の痕跡と考えられる。煙道の軸線は、住居の長軸線にほぼ平行し、磁北から西に約25度傾く。出土した遺物は第8図に分布状況を示し、第9・10図に個別の資料を掲載した。遺物の分布は堆積土内全域にみられるが、特にEL1燃焼部の堆積土およびその周辺からは、煮沸形態の破片資料を中心に遺物が集中する状況がみられた。供膳形態では切り離しが回転篋切りとなる須恵器、煮沸形態ではロクロ整形と考えられる法量の比較的小さな土師器が主体となる。また、貯蔵形態は甕および壺が若干量出土しているが、いずれも小破片である。そのほか、堆積土内から紡錘車とみられる鉄製品が1点出土している(第10図44)。

ST180(第11～15図 図版13～15 第2表)

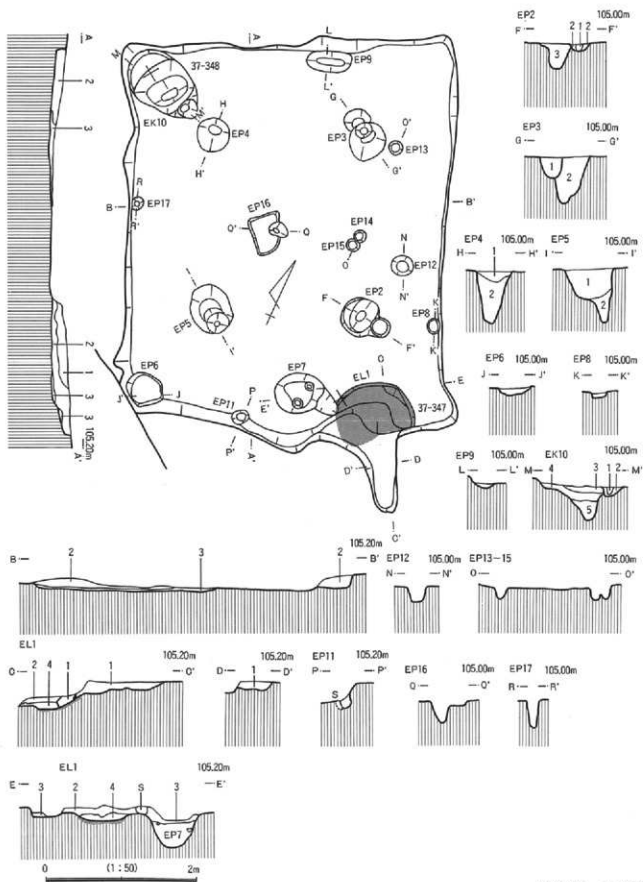
28・29-361・362区で見出された。東辺でSP412、SP413、南辺付近でSK411、SP415、アンカーと重複し、これらに切られている。規模および平面形は長辺(南北)が3.6m、短辺(東西)が3.3mの長方形を呈する。床面は平坦であり、硬くしめる。貼床は床面のほぼ全域から見出された。確認面からの深さは35cm前後を測る。壁の立ち上がりは急である。床面からは9基のピットが検出されたが、主柱穴は不明である。カマド(EL1)は南辺西隅で見出された。施設は住居壁面より南に張り出す。焚口部分は焼土化が著しく、良好に遺存しており、

ST610

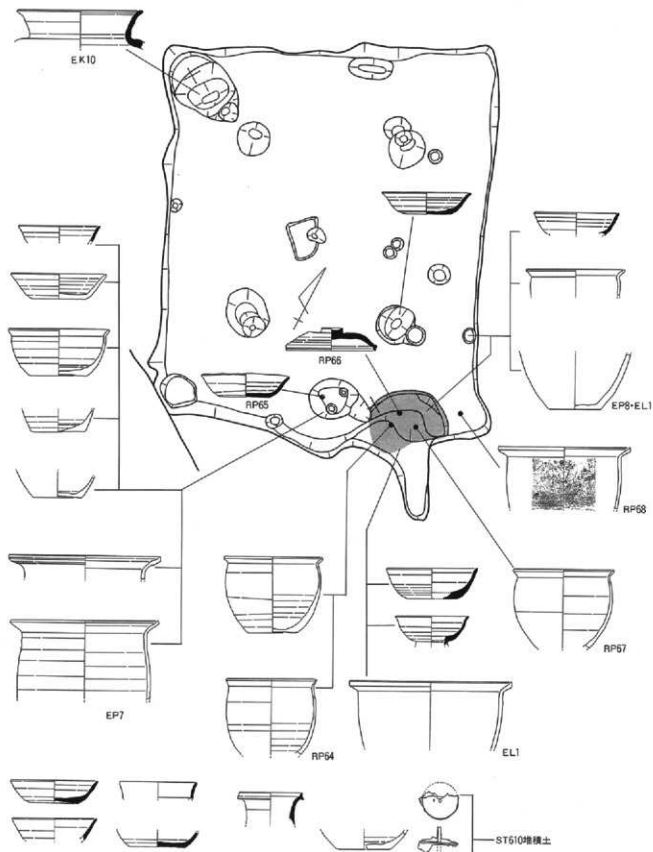
1	107K2/1	黒色シルト
2	107K2/3	黄褐色シルト 1層と3層の混土。
3	107K4/4	褐色粘土。炭化物を多量に含む。
EL1		
1	7.57B4/1	河褐色粘土 粘土塊を若干含む。
2	7.57B3/1	河褐色粘土 粘土塊を若干含む。
3	7.57B3/2	河褐色シルト 粘土塊を多量に含む。炭化物を含む。
4	5.12A/8	赤褐色粘土 炭土。
EP2		
1	107K5/5	黄褐色シルト
2	107K2/3	黒色シルト
3	107K3/4	暗褐色粘土質シルト
EP3		
1	107K2/4	暗褐色粘土質シルト
2	107K4/4	褐色粘土質シルト 地山礫砂を含む。
EP4		
1	107K2/4	暗褐色粘土質シルト
2	107K3/4	暗褐色シルト・107K5/5 黄褐色シルトの混土。

EP5

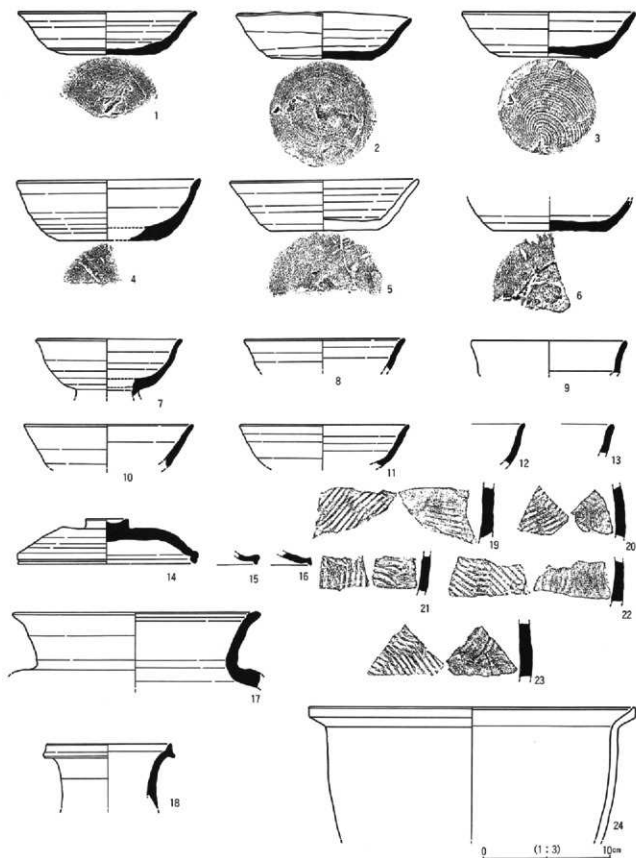
1	107K3/4	暗褐色粘土質シルト 粘土・炭化物を含む。
2	107K5/5	黄褐色粘土質シルト
EP6		
1	107K3/4	暗褐色粘土質シルト 炭化物を含む。
EP7		
7.57B4/3		褐色粘土 粘土塊を含む。
EP8		
1	107K3/2	黒褐色粘土質シルト
EP9		
1	107K2/3	黒褐色粘土質シルト 小礫を多量に含む
EK10		
1	107K2/2	暗褐色粘土質シルト
2	107K4/6	褐色粘土
3	107K2/2	暗褐色粘土
4	107K2/3	暗褐色粘土 3層と5層の混土。
5	107K4/4	褐色粘土 地山粘土塊を多量に含む。
EP11		
1	107K3/3	暗褐色粘土質シルト



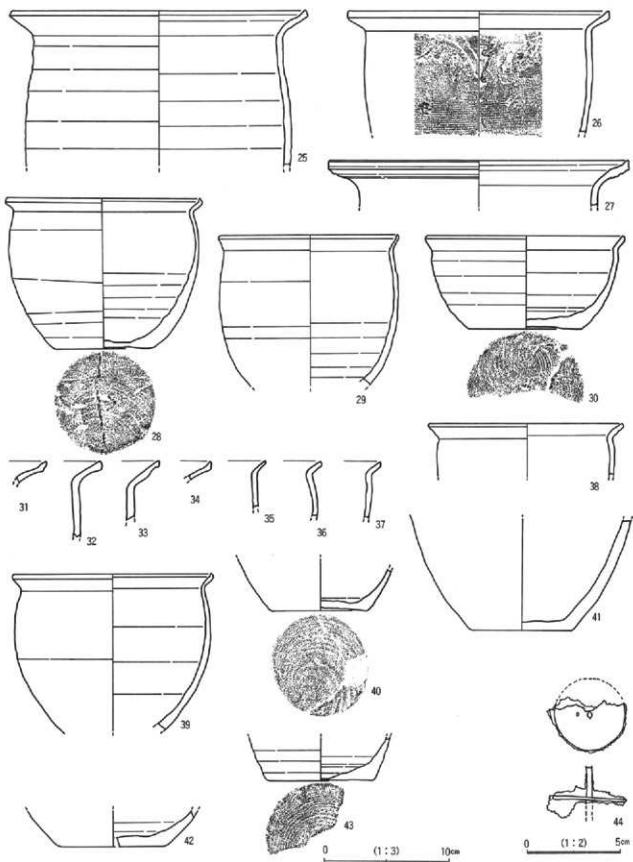
第7図 ST610



第8図 ST610出土遺物分布図



第9図 ST610出土遺物(1)



第10図 ST610出土遺物(2)

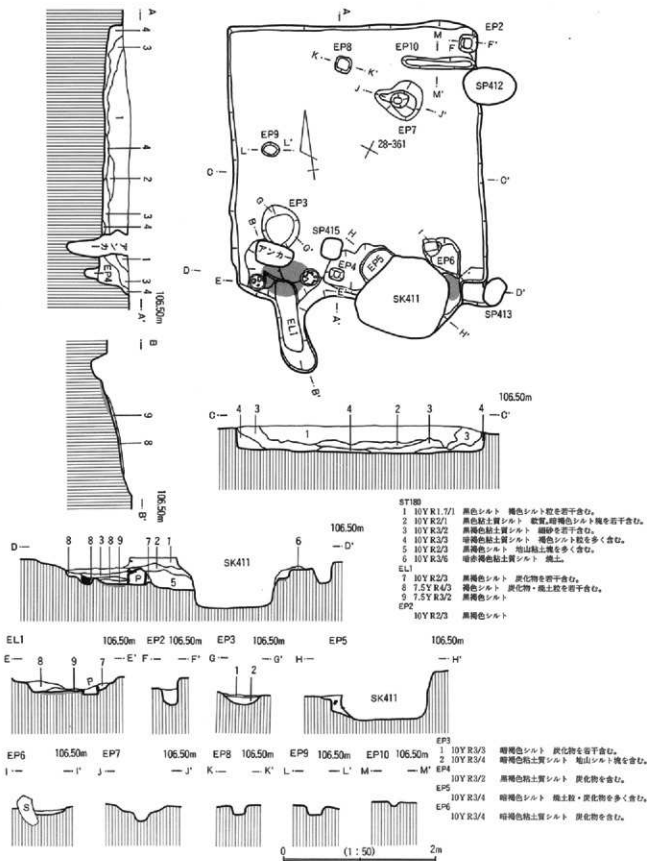
袖の部分には大形の土師器壺が口縁部を下に設置される(巻頭図版3)。煙道は、EL1の南に壁面から約90cm、幅約35cmの規模で検出された。住居の長軸線は磁北にほぼ平行し、煙道の軸線は若干西に振れている。そのほか、南辺東隅付近の床面が焼土化しており、もうひとつのカマドの存在をうかがわせるが、SK411にその大半を破壊されており詳細は不明である。出土遺物は第12図に分布状況を示し、第13~15図に個別の資料を掲載した。遺物は堆積土内全域に分布するが、EL1燃焼部の堆積土内には煮沸形態の破片を中心にややまとまって出土した。供膳形態では、蓋は遺存状態の良い資料が得られたものの、坏は小破片のみの出土であった。煮沸形態では大形の器形となるものが多い。貯蔵形態は壺の小破片が若干出土したにとどまる。また、EP6北西縁部から大形の砥石が出土している(第15図79)。

SK411(第16図 図版16 第3表)

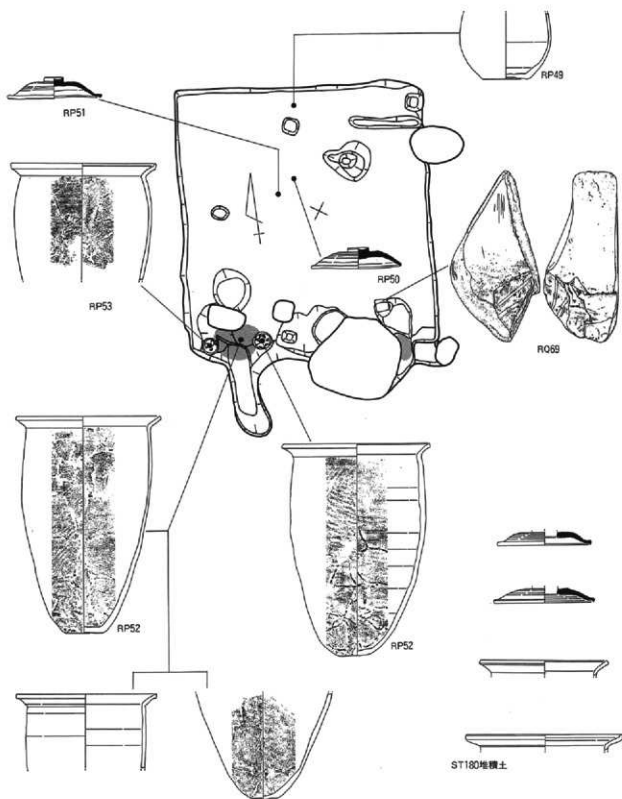
29-361区、ST180の南辺東半を切って検出された土坑である。東西約1.6m、南北約1.25m、確認面からの深さ65cmの規模をもつ。底面は平坦であり、壁の立上りは急である。構築年代は平安時代以降と考えられるが、機能は不明である。本土坑の位置関係や周囲の遺物出土状況から、堆積土内出土の遺物は、ST180から流れ込んだ可能性がある。

番号	浮き出し	遺構	地区	遺物番号	種類	器種	法 量				器名・切痕	備考	分類		
							口径	口径	口径	口径					
1	9	59 ST 610 EP 2	37-365		硬質部	片	(142)	(73)	34	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切		IA A	
2	9	59 ST 610 EP 2	38-348	RP 65	硬質部	片	129	77	27	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	骨針	IA A	
3	9	59 ST 610	37-36-347-349		硬質部	片	138	78	36	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	骨針	IA Z	
4	9	59 ST 610 EL 1	37-38-347-348		硬質部	片	(146)	(76)	48	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切+ナデ	骨針	IA A	
5	9	59 ST 610 EP 7	38-348		硬質部	片	(156)	(84)	60	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切+ナデ	骨針	IA A	
6	9	59 ST 610	37-38-347-349		硬質部	片	-	(88)	(125)	60	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	IA A	
7	9	63 ST 610 EL 1	37-38-347-348		硬質部	高付片	(118)	-	45	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	骨針	IB	
8	9	63 ST 610 EP 7	38-348		硬質部	片	(128)	-	34	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
9	9	63 ST 610	37-38-347-349		硬質部	片	(124)	-	25	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
10	9	63 ST 610	37-38-347-349		硬質部	片	(124)	-	33	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
11	9	66 ST 610 EP 8	37-348		硬質部	片	(134)	-	33	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
12	9	63 ST 610 EP 7	38-348		硬質部	片	-	-	32	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
13	9	63 ST 610 EP 7	38-348		硬質部	片	-	-	22	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IE		
14	9	81 ST 610 EL 1	37-347	RP 66	硬質部	蓋	145	-	36	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IC B		
15	9	63 ST 610 EP 8	37-348		硬質部	蓋	-	-	9	ロコナデ	ロコナデ	骨針	ID		
16	9	63 ST 610 EK 19	37-38-348-349		硬質部	蓋	(156)	-	9	ロコナデ	ロコナデ	骨針	ID		
17	9	89 ST 610 EK 19	37-38-348-349		硬質部	蓋	(156)	-	(198)	60	タタキ+ナデ	ナデ	骨針	IF 1	
18	9	87 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	(104)	-	52	ロコナデ	ロコナデ	骨針	IF 1		
19	9	90 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	-	-	-	タタキ	アテ	骨針	IF		
20	9	90 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	-	-	-	タタキ	アテ	骨針	IF		
21	9	90 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	-	-	-	タタキ	アテ	骨針	IF		
22	9	90 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	-	-	-	タタキ	アテ	骨針	IF		
23	9	90 ST 610	37-38-347-349		硬質部	蓋	-	-	-	タタキ	アテ	骨針	IF		
24	9	82 ST 610 EL 1	37-38-347-348		土師器	蓋	(259)	-	(232)	1194	ナデ	骨針	B C 4		
25	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	(236)	-	(211)	1121	ナデ+ハナメ	ナデ	骨針	B C 4	
26	10	78 ST 610 EL 1	37-347	RP 68	土師器	蓋	(210)	-	(182)	96	ナデ+ハナメ	ナデ+ハナメ	骨針	B C 2b	
27	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	(240)	-	(180)	136	ナデ	骨針	B C 3		
28	10	78 ST 610 EL 1	37-38-347	RP 64	土師器	蓋	(157)	78	151	121	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	骨針	B C 1
29	10	78 ST 610 EL 1	37-38-347	RP 64	土師器	蓋	147	-	141	1119	ロコナデ	ロコナデ	+EP7 破片	B C 1	
30	10	78 ST 610 EP 7	38-348		土師器	鉢	(159)	(18)	74	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	骨針	B B	
31	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	-	23	ナデ	ナデ+ハナメ	破片	骨針	B C 1	
32	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	-	60	ナデ	ナデ	破片	B C 2b		
33	10	82 ST 610	37-38-347-349		土師器	蓋	-	-	46	ナデ	ナデ	破片	B C 2b		
34	10	82 ST 610	37-38-347-349		土師器	蓋	-	-	141	ナデ	ナデ	破片	B C 1		
35	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	-	36	ナデ	ナデ	破片	B C 1		
36	10	82 ST 610 EL 1	37-38-347	RP 64	土師器	蓋	-	-	43	ナデ	ナデ	破片	骨針	B C 1	
37	10	82 ST 610 EP 8	37-348		土師器	蓋	-	-	45	ナデ	ナデ	破片	骨針	B C 1	
38	10	82 ST 610 EL 1	37-38-347-348		土師器	蓋	(156)	-	(182)	40	ナデ	ナデ	破片	骨針	B C 1
39	10	82 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	-	-	27	ナデ	ナデ	破片	骨針	B C 1
40	10	78 ST 610 EL 1	37-347	RP 67	土師器	蓋	160	-	156	(125)	ナデ	ナデ	破片	骨針	B C 1
41	10	78 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	75	(112)	121	ロコナデ	回転痕切	+EL1 破片	骨針	B C 1
42	10	78 ST 610 EL 1	37-347	RP 67	土師器	蓋	-	(83)	(174)	87	ナデ+ハナメ	ナデ+ハナメ	+EP7 破片	B C 2b	
43	10	82 ST 610	37-38-347-349		土師器	蓋	-	(81)	(138)	27	ハナメ	ナデ	破片	B C 1	
43	10	78 ST 610 EP 7	38-348		土師器	蓋	-	(84)	(110)	33	ロコナデ	ロコナデ	回転痕切	破片	B C 1

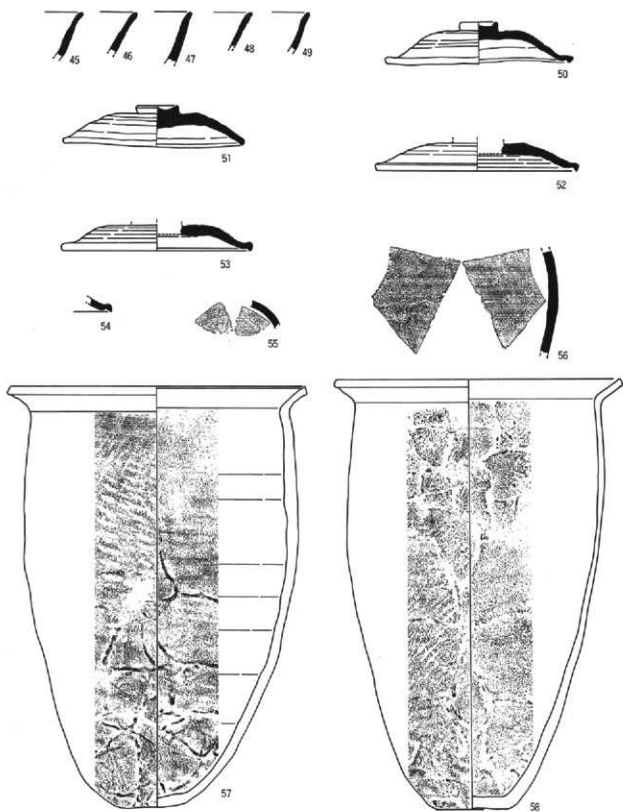
第1表 ST610出土土器観察表



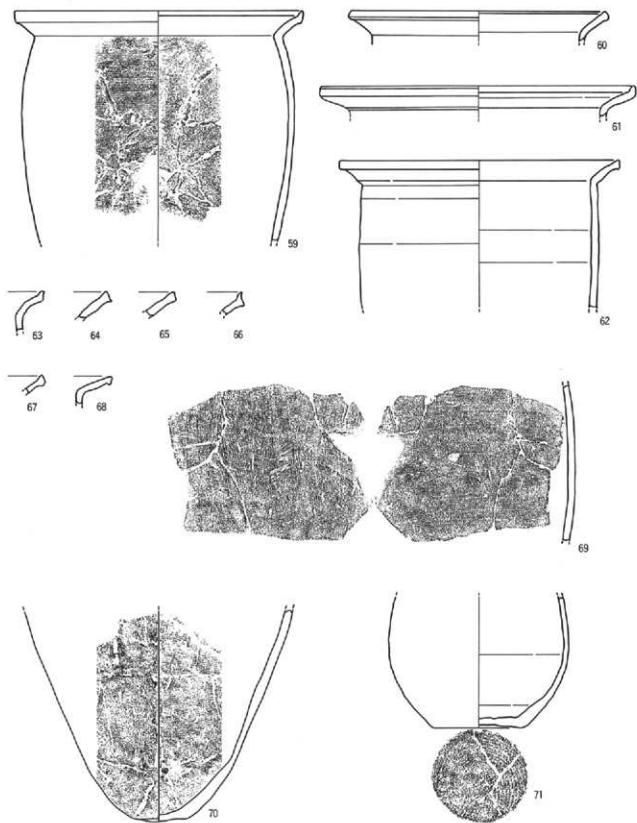
第11図 ST180



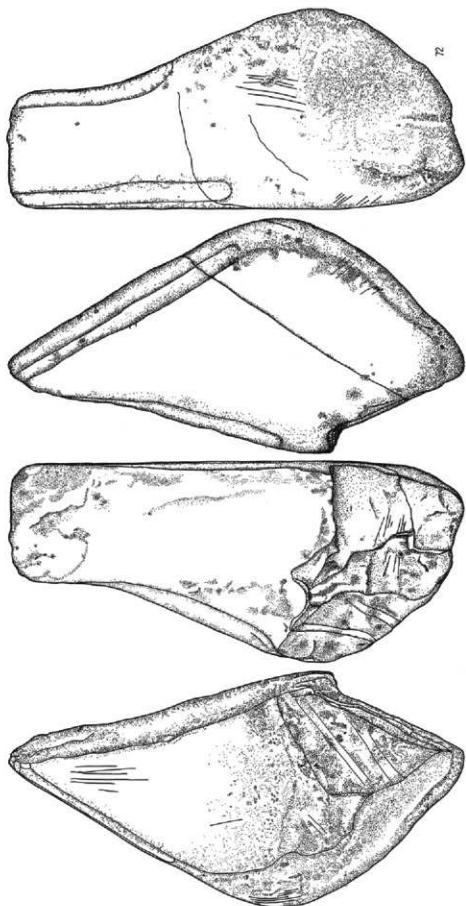
第12図 ST180遺物分布図



第13図 ST 180出土遺物(1)



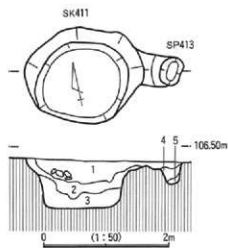
第14図 ST 180出土遺物(2)



第15図 S T 180出土遺物(3)

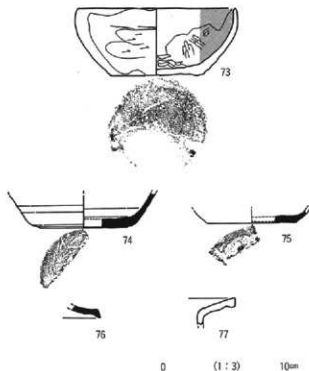
番号	坪田	国名	遺構	地区	遺物番号	種類	部類	数量				外 形		断面・切面	備考	分類	
								口径	長さ	幅	厚さ	外 径	内 径				
45	13	63	ST 180	28・29・361・362	須置器	杯	-	-	-	34	ロクロナデ	ロクロナデ			1 E		
46	13	63	ST 180	29・361	須置器	杯	-	-	-	31	ロクロナデ	ロクロナデ			1 E		
47	13	63	ST 180	28・29・361・362	須置器	杯	-	-	-	39	ロクロナデ	ロクロナデ			1 E		
48	13	63	ST 180	29・361	須置器	杯	-	-	-	28	ロクロナデ	ロクロナデ			1 E		
49	13	63	ST 180	28・29・361・362	須置器	杯	-	-	-	29	ロクロナデ	ロクロナデ			1 E		
50	13	61	ST 180	28・29・362	RP 51	須置器	皿	150	-	-	33	ロクロナデズリ	ロクロナデ			1 D2A	
61	13	61	ST 180	28・362	RP 50	須置器	皿	144	-	-	33	ロクロナデズリ	ロクロナデ			SP412 骨針 1 D2A	
62	13	61	ST 180	28・29・361・362	須置器	皿	(162)	-	-	22	ロクロナデズリ	ロクロナデ			骨針 1 D2		
63	13	61	ST 180	28・29・361・362	須置器	皿	(151)	-	-	20	ロクロナデズリ	ロクロナデ			骨針 1 D2		
54	13	64	ST 180	28・29・361・362	須置器	皿	-	-	-	18	ロクロナデ	ロクロナデ			骨針 1 D		
55	13	96	ST 180	28・29・361・362	須置器	皿	-	-	-	-	ナデ	ナデ			骨針 1 I		
56	13	60	ST 180	28・29・361・362	須置器	皿	-	-	-	-	ナデ・ナズリ	ナズリ			骨針 1 I		
57	13	72	ST 180	EL 1	29・361	RP 52	土師器	皿	235	49	215	335	ナデ・ナズリ・ハケメ・ナズリ	ナデ・ハケメ	ナデ	焼熟	骨針 EC4
58	13	72	ST 180	EL 1	29・361・362	RP 52	土師器	皿	(228)	56	202	343	ナデ・ナズリ・ハケメ・ナズリ	ナデ・ハケメ	ナデ	焼熟	骨針 EC4
59	14	76	ST 180	EL 1	29・362	RP 53	土師器	皿	330	-	217	(182)	ナデ・ハケメ・ナズリ	ナデ・ハケメ		焼熟	骨針 EC4
60	14	82	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	(206)	-	-	23	ナデ	ナデ			焼熟	骨針 EC2D	
61	14	82	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	(286)	-	-	34	ナデ	ナデ			骨針	EC4	
62	14	83	ST 180	EL 1	29・361・362	RP 52	土師器	皿	(222)	-	(190)	(116)	ナデ	ナデ		焼熟	骨針 EC2D
63	14	83	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	-	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ		骨針	EC
64	14	83	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	-	-	-	21	ナデ	ナデ			骨針	EC	
65	14	83	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	-	-	-	18	ナデ	ナデ			骨針	EC	
66	14	83	ST 180	EL 1	29・362	RP 53	土師器	皿	-	-	17	ナデ	ナデ			骨針	EC
67	14	83	ST 180	EL 1	29・361・362	RP 52	土師器	皿	-	-	13	ナデ	ナデ			骨針	EC
68	14	83	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	-	-	-	28	ナデ	ハケメ			骨針	EC	
69	14	83	ST 180	28・29・361・362	土師器	皿	-	-	-	-	-	ハケメ・ナズリ	ハケメ			骨針	EC4
70	14	79	ST 180	EL 1	29・361・362	RP 52	土師器	皿	-	40	(212)	(167)	ナズリ	ハケメ		焼熟	骨針 EC4
71	14	79	ST 180	28・362	RP 48	土師器	皿	-	72	(143)	(103)	-	-	ロクロナデ	焼熟	骨針 EC1	

第2表 ST180出土土器観察表



- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 炭化物を多く含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト 均質。
- 3 10Y R2/5 黄褐色粘土。
- 4 10Y R2/3 黒褐色シルト 黄褐色シルト層を若干含む。
- 5 10Y R4/6 褐色シルト・10Y R2/3 黒褐色シルトの混土。

SK411出土遺物



第16図 S K411

番号	坪田	国名	遺構	地区	遺物番号	種類	部類	数量				外 形		断面・切面	備考	分類
								口径	長さ	幅	厚さ	外 径	内 径			
72	16	60	SK 41	29・361	土師器	杯	(102)	72	(130)	55	ナデ・ナズリ	ナデ・ナズリ	ナデ		焼熟	骨針 IA
74	16	64	SK 41	29・361	土師器	杯	-	(69)	(14)	26	ロクロナデ	ロクロナデ	焼熟		骨針	IA2
75	16	64	SK 41	29・361	土師器	杯	-	(70)	60	9	ロクロナデ	ロクロナデ	焼熟		骨針	IA1
76	16	64	SK 41	29・361	土師器	皿	-	-	-	31	ロクロナデ	ロクロナデ			骨針	ID
77	16	63	SK 41	29・361	土師器	皿	-	-	-	20	ナデ	ナデ			焼熟	骨針 IC

第3表 SK411出土土器観察表

ST250(第17～19図 図版17～19 第4表)

33-361・362区で検出された。烟の敵による攪乱を受け、5基のピットに切られるが、住居跡全体の遺存状態は比較的良好である。規模および平面形は、長辺(東西)が約4.9m、短辺(南北)が約2.7mの長方形を呈する。精査の開始当初は、2棟の竪穴住居跡が重複している可能性も考えられたが、断面観察の結果から1棟の住居跡と確認された。確認面から床面までの深さは約10～15cmを測る。床面は硬くしまるが起伏がある。貼床は床面の西半部と東半部の中央から北にかけて検出された。壁の立上りはやや緩やかである。長辺の軸方向はほぼ東西方向となる。

床面からは8基のピットが検出されたが、支柱穴は不明である。また、中央部および東辺に南北方向に長い不整形の土坑(EK6・7)が検出された。これらの土坑では、堆積土上面に貼床が認められず、しまりがなくやわらかい。南辺中央付近では、EK6の南西角付近から壁面にかけて床面が焼土化しており、カマド(EL1)の痕跡と認識された。しかし、全体的な構造は煙道部分を含め判然としない。

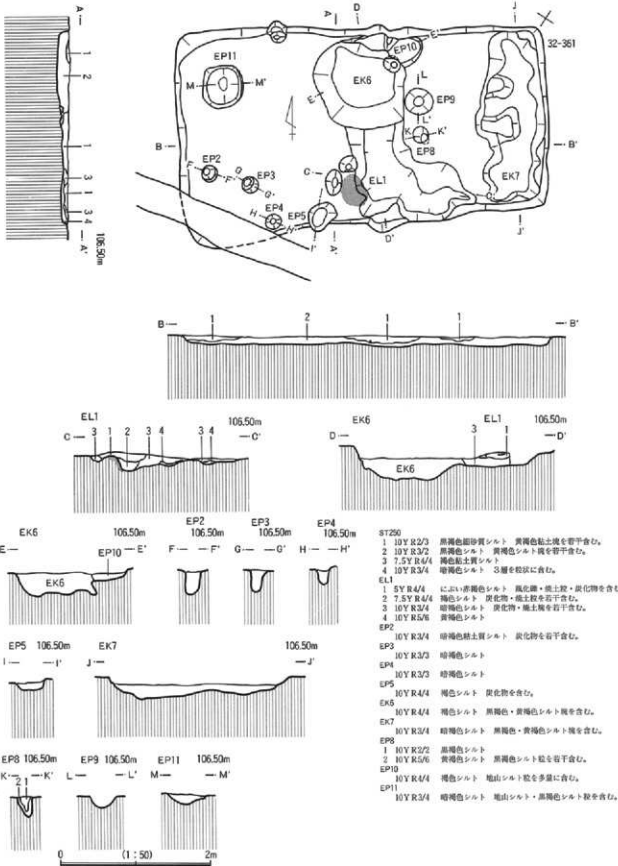
出土遺物は第18図に分布状況を示し、第19図に個別の資料を掲載した。分布は中央部EK6に集中する傾向がみられる。なお、RP54・55はほぼ床面レベルで出土した。遺物の出土数量では、供膳形態と貯蔵形態の出土量が少ない。供膳形態では、環、蓋の破片が数点、貯蔵形態では壺の口縁部破片1点が出土したのみである。煮沸形態では外面に縦方向のケズリ、内面にハケメ調整を伴う大形の甕が主体となる。

ST270(第20～24図 図版20～22 第5表)

32・33-364・365区で検出された。ほかの遺構とは重複していない。規模および平面形は一辺が約4mの方形を呈する。床面は若干の起伏があり、硬くしまる。貼床は床面のほぼ全面で検出された。確認面からの深さは35～40cmを測る。壁の立上りは急である。

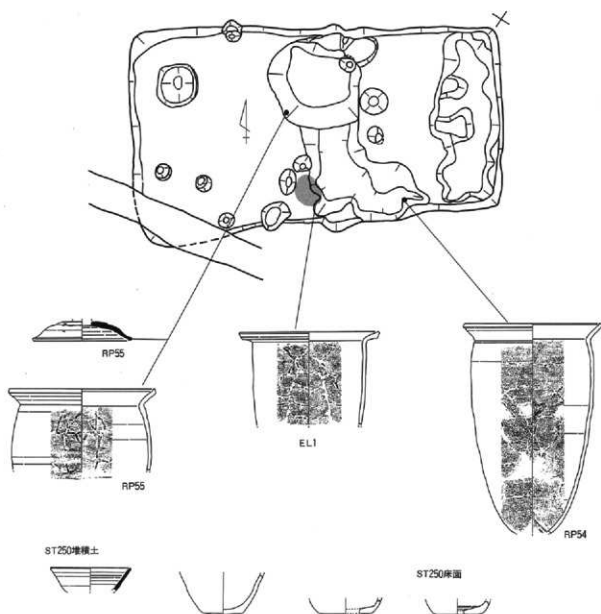
床面からは北西部分を除く縁辺に沿って9基のピットが検出されたが、支柱穴は不明である。カマド(EL1)は南辺中央やや西寄りで見出された。焚口部から燃焼部は焼土化が顕著で、袖には左右各2個の袖石が見出された。袖石には被熱の痕跡が明瞭に残る。EL1の南には壁面から長さ約60cm、幅約30cm、深さ15cmにわたって「L」字形に突出した落込みが見出された。これは煙道の痕跡の一部と考えられる。煙道の軸線は、住居の南北軸線にほぼ平行し、磁北から西に約16度傾く。

出土遺物は第21図に分布状況を示し、第22～24図に個別の資料を掲載した。遺物は、住居跡堆積土内中央から北半部では希薄であり、南半部に密に分布している。特にEL1燃焼部の堆積土内からは、煮沸形態を中心に遺物が集中して出土した。出土遺物の構成をみると、供膳形態では切り離しが回転籠切りとなる須恵器環と高台付環を主体に、回転糸切の環、蓋が伴い、煮沸形態では法量の大きな土師器甕が主体となる。また、EP9上面からは大形の鉢が見出された(第23図 109)。これらは成形にロクロを使用しているが、内外面にハケメおよび縦方向のケズリ調整を伴うものが大半である。貯蔵形態は壺の体部小破片が1点出土したのみである。そのほか、EP2から磁石が1点出土している(第24図131)。



- ST250
- 1 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト 黄褐色粘土塊を若干含む。
 - 2 10Y R3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト塊を若干含む。
 - 3 7.5Y B4/4 褐色粘土質シルト
 - 4 10Y R3/4 暗褐色シルト 礫層を粒状に含む。
- EL1
- 1 5Y R4/4 におい、赤褐色シルト 風化層・低土段・炭化物を含む。
 - 2 7.5Y R4/4 褐色シルト 炭化層・低土段を若干含む。
 - 3 10Y R3/4 暗褐色シルト 炭化物・粘土塊を若干含む。
 - 4 10Y R5/6 黄褐色シルト
- EP2
- 10Y R3/4 暗褐色粘土質シルト 炭化物を若干含む。
- EP3
- 10Y R3/3 暗褐色シルト
- EP4
- 10Y R3/3 暗褐色シルト
- EP5
- 10Y R4/4 褐色シルト 炭化物を含む。
- EK6
- 10Y R4/4 褐色シルト 黒褐色・黄褐色シルト塊を含む。
- EK7
- 10Y R3/4 暗褐色シルト 黒褐色・黄褐色シルト塊を含む。
- EP8
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト
 - 2 10Y R5/6 黄褐色シルト 黒褐色シルト粒を若干含む。
- EP10
- 10Y R4/4 褐色シルト 地山シルト粒を多量に含む。
- EP11
- 10Y R3/4 暗褐色シルト 地山シルト・黒褐色シルト粒を含む。

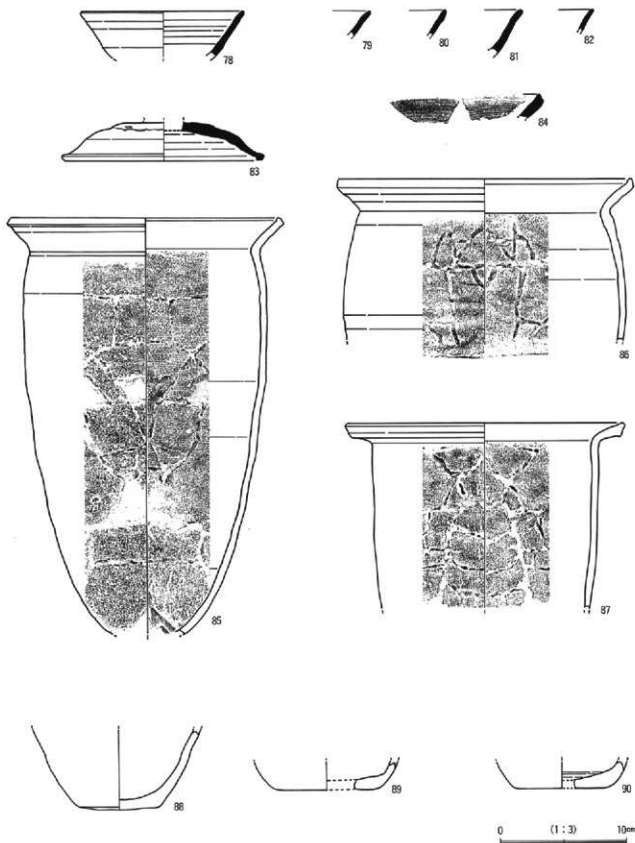
第17図 ST250



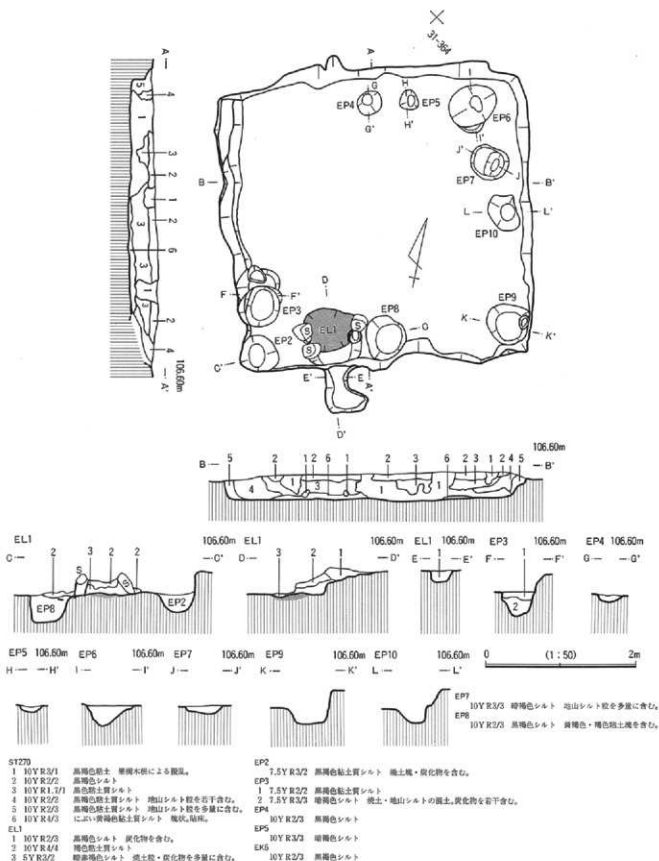
第18図 ST250出土遺物分布図

番号	埋藏層	遺構	地区	遺物番号	類別	数量	位置				形状		断面・切面	備考	分類
							口径	底径	胴径	高さ	外面	内面			
78	19	64 ST 250	33-361・362	環蓋部	杯	(130)	-	-	-	126	ロクロナデ	ロクロナデ			ⅠB
79	19	64 ST 250 EL 1 F1	33-362	環蓋部	杯	-	-	-	119	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	ⅠB	
80	19	64 ST 250	33-361・362	環蓋部	杯	-	-	-	119	ロクロナデ	ロクロナデ			ⅠB	
81	19	64 ST 250	33-361・362	環蓋部	杯	-	-	-	134	ロクロナデ	ロクロナデ			ⅠB	
82	19	64 ST 250	33-361・362	環蓋部	杯	-	-	-	161	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	ⅠB	
83	19	ST 250 EX 6	33-362	環蓋部	蓋	(160)	-	-	120	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ		骨針	ⅠD2	
84	19	90 ST 250	33-361・362	環蓋部	蓋?	-	-	-	181	ロクロナデ	ロクロナデ			ⅠI	
85	19	72 ST 250	33-361	土師器	埴	(200)	-	(194)	131	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケム		→EL1 磁軸 骨針	ⅡC3	
86	19	79 ST 250 EX 6	33-362	土師器	埴	236	-	224	127	ナデ	ナデ・ハケム		磁軸 骨針	ⅡC4	
87	19	79 ST 250 EL 1	33-362	土師器	埴	(222)	-	(180)	146	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケム		磁軸	ⅡC3	
88	19	79 ST 250	33-361・362	土師器	埴	-	81	(128)	162	ケズリ	ナデ	ナデ	骨針	ⅡC4	
89	19	ST 250	33-361・362	土師器	埴	-	(80)	(108)	121		ナデ		磁軸	ⅡC1	
90	19	ST 250 Y	33-361・362	土師器	埴	-	(68)	199	121		ロクロナデ		磁軸	ⅡC1	

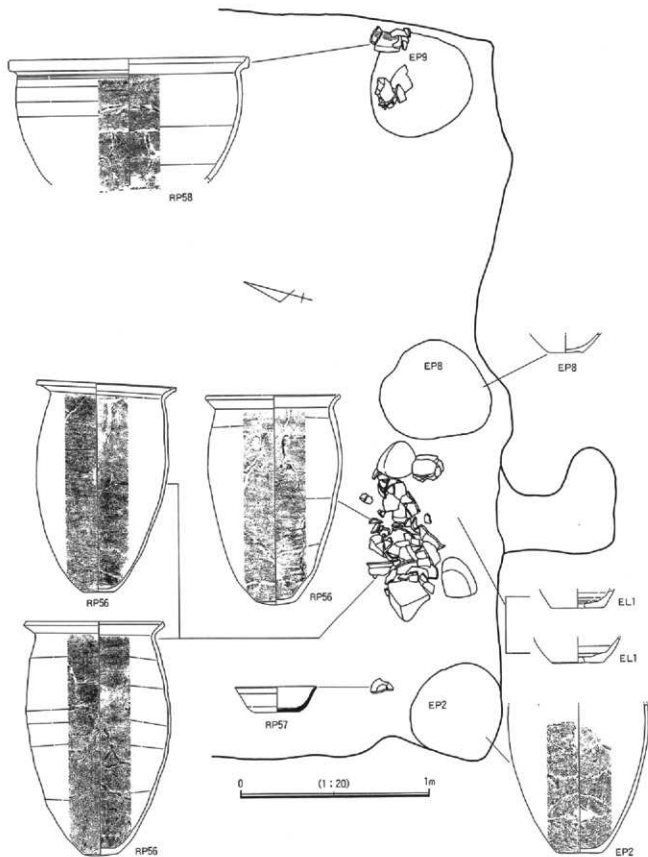
第4表 ST250出土土器観察表



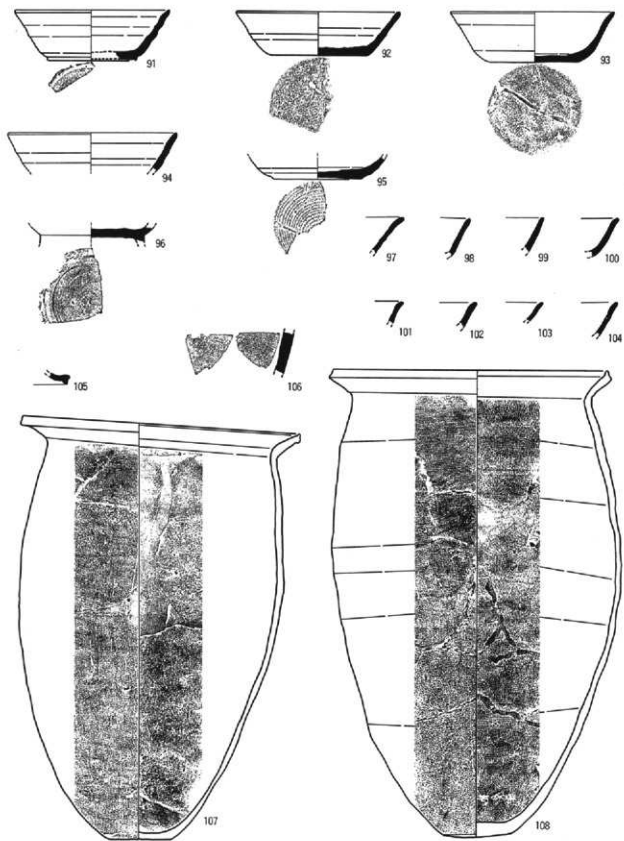
第19図 S T 250出土遺物



第20図 S T 270

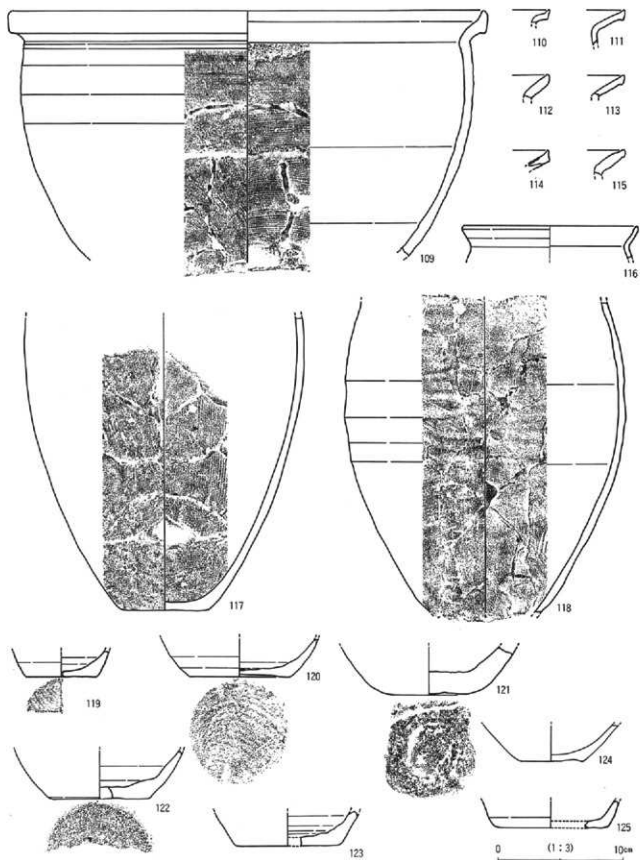


第21図 ST 270出土遺物分布図

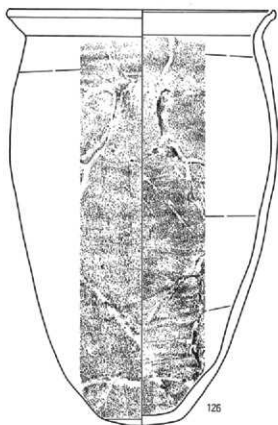


0 (1:3) 10cm

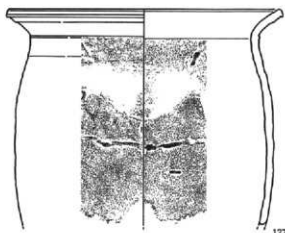
第22図 ST 270出土遺物(1)



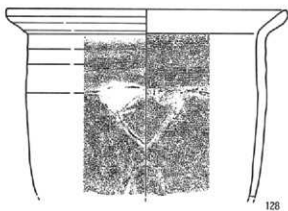
第23図 ST 270出土遺物(2)



126



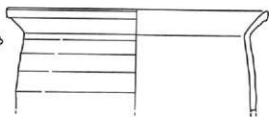
127



128



129



130



131

0 (1:3) 10cm

第24図 S T 270出土遺物(3)

ST3214(第25～29図 図版23～25 第6表)

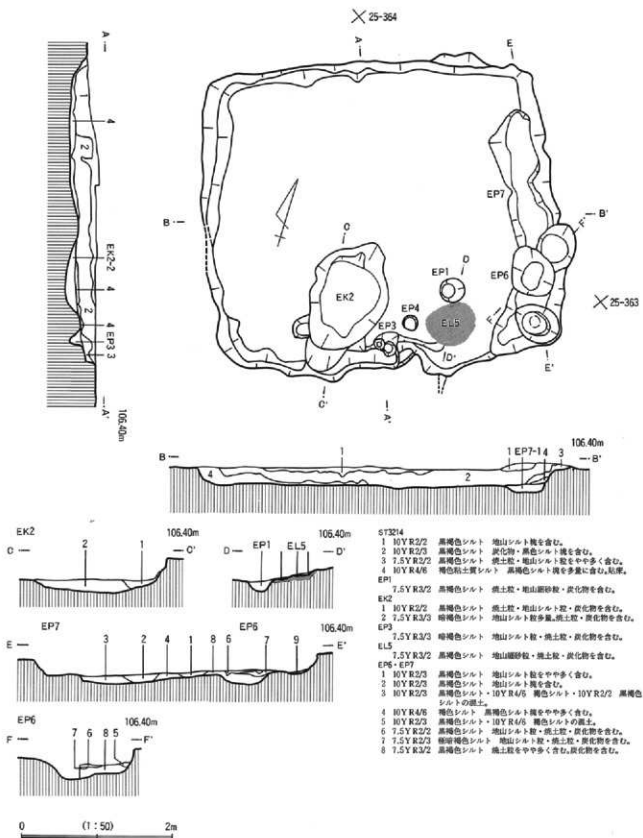
25・26・364・365区で検出された。ほかの遺構とは重複していない。規模および平面形は長辺(東西)が4.6m前後、短辺(南北)が4.1m前後の不整長方形を呈する。貼床は床面の中央から南半分で検出された。床面は起伏があり、貼床部分は硬くしまる。確認面からの深さは25～40cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。

床面からは、東辺から南辺の中央付近にかけて、5基のピットと1基の土坑が検出されたが、支柱穴は不明である。カマド(EL5)は南辺中央やや東寄りで見出された。遺存状態が悪く、焚口部から燃焼部と思われる部分の床面に径約60cmの焼土の広がりが確認されたにとどまる。住居の南北軸線は、磁北から西に約20度傾いている。

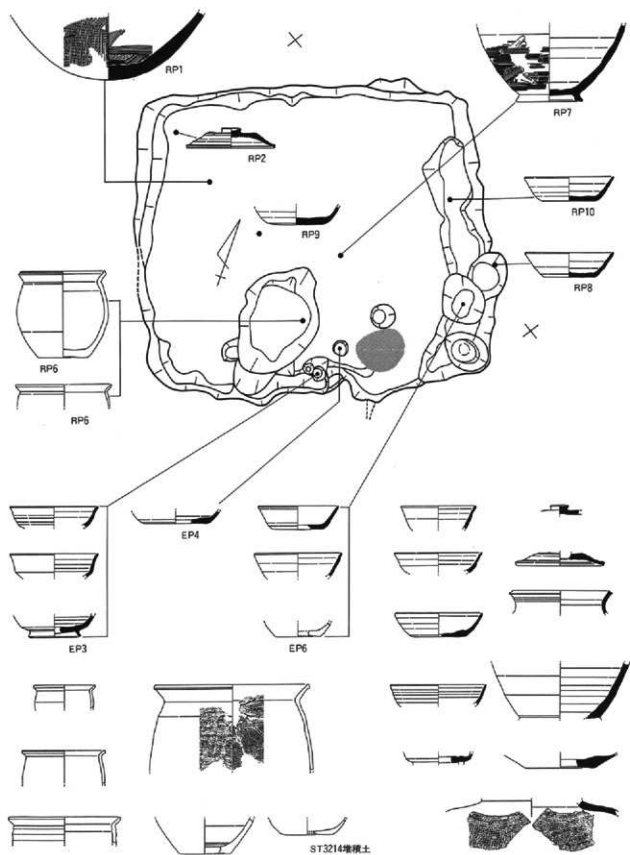
出土遺物は第26図に分布状況を示し、第27～29図に個別の資料を掲載した。遺物は、住居跡堆積土内のほぼ全域に分布しているが、特にEP3・6・7には供膳形態、EK2には煮沸形態、住居の中央から北西にかけての床面付近には貯蔵形態を主体とする分布のまとまりがみられる。出土遺物の構成をみると、供膳形態では切り離しが回転窓切りとなる須恵器坪と高台付坪と蓋が主体となり、貯蔵形態では甕および壺が破片ながらかなりまとまって出土した。煮沸形態はロクロ成形の小形の甕を主体とするが、数量的に少ない。

番号	探検回数	遺構	地区	遺物番号	種別	数量	測 量		測 量 類		形状・切取	備考	分類
							口徑	底徑	胴径	高さ			
91	22	64 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	(122)	70	40	ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器切	骨針	IA2	
92	22	66 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	(120)	74	35	ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器切	骨針	IA1	
93	22	68 ST 270	32-364	須恵器 坪	139	70	40	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	須恵器切		IA1	
94	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	(134)	-	(26)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
95	22	66 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	(69)	104	116	ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器切	骨針	IA2	
96	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 高台付坪	-	(94)	110	ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器切	骨針	IB	
97	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(27)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
98	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(25)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
99	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(26)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
100	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(30)	104	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	IE	
101	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(17)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
102	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(19)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
103	22	65 ST 270 EP 3	32-364	須恵器 坪	-	(14)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
104	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 坪	-	(25)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			IE	
105	22	65 ST 270	32-364-365	須恵器 甕	-	(9)	104	ロクロナデ	ロクロナデ			ID	
106	22	90 ST 270 EP 6	32-364	須恵器 甕?	-	-	-	ケズリ	ナデ			II	
107	22	71 ST 270 EL 1	32-364	EP 56 土師器 埴	222	62	110	335	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	埴	BC4	
108	22	73 ST 270 EL 1	32-364	EP 56 土師器 埴	223	52	229	371	ナデ・タタキ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	ケズリ	BC4	
109	23	79 ST 270 EP 5	32-364	EP 56 土師器 埴	(300)	-	(358)	(163)	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	埴	BE	
110	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	-	(10)	ナデ	ナデ			BC	
111	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	-	(27)	ナデ	ナデ			BC	
112	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	-	(18)	ナデ	ナデ			BC	
113	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	-	(16)	ナデ	ナデ			BC	
114	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	-	(13)	ナデ	ナデ			BC	
115	23	83 ST 270 EL 1	32-364	土師器 埴	-	-	(19)	ナデ	ナデ			BC	
116	23	83 ST 270 EP 7	32-364	土師器 埴	(140)	-	(130)	(25)	ナデ	ナデ	埴・埴	EC1	
117	23	74 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	70	(220)	(23)	ケズリ	ナデ・ハケメ	埴	EC4	
118	23	74 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	(224)	(245)	ナデ・ハケメ・ケズリ	ハケメ	埴・骨針		EC4	
119	23	57 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	(55)	(74)	(20)	ナデ	須恵器切	埴	EC1	
120	23	79 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	80	(123)	(29)	ロクロナデ	須恵器切	埴・骨針	EC1	
121	23	57 ST 270	32-364-365	土師器 埴	-	60	(132)	(37)	ナデ	ナデ	埴・骨針	EC6	
122	23	80 ST 270 EL 1	32-364	土師器 埴	(78)	(131)	(37)	ナデ	ナデ			EC1	
123	23	57 ST 270 EL 1	32-364	土師器 埴	(80)	(110)	(27)	ナデ	ナデ			EC1	
124	23	80 ST 270 EP 8	32-364	土師器 埴	-	50	(106)	(28)	ナデ			EC4	
125	23	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	(93)	(108)	(21)	ナデ	ナデ			EC4	
126	24	73 ST 270 EL 1	32-364	EP 56 土師器 埴	214	60	212	309	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	ナデ	EC4	
127	24	83 ST 270	32-364-365	土師器 埴	(120)	-	(108)	(171)	ナデ・ケズリ	ナデ		EC4	
128	24	84 ST 270	32-364-365	土師器 埴	(224)	-	(190)	(148)	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	埴	EC2b	
129	24	87 ST 270 EP 2	32-364	土師器 埴	-	-	(182)	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	埴・骨針		EC4	
130	24	84 ST 270	32-364-365	土師器 埴	(208)	-	(191)	(79)	ナデ	埴	骨針	EC2b	

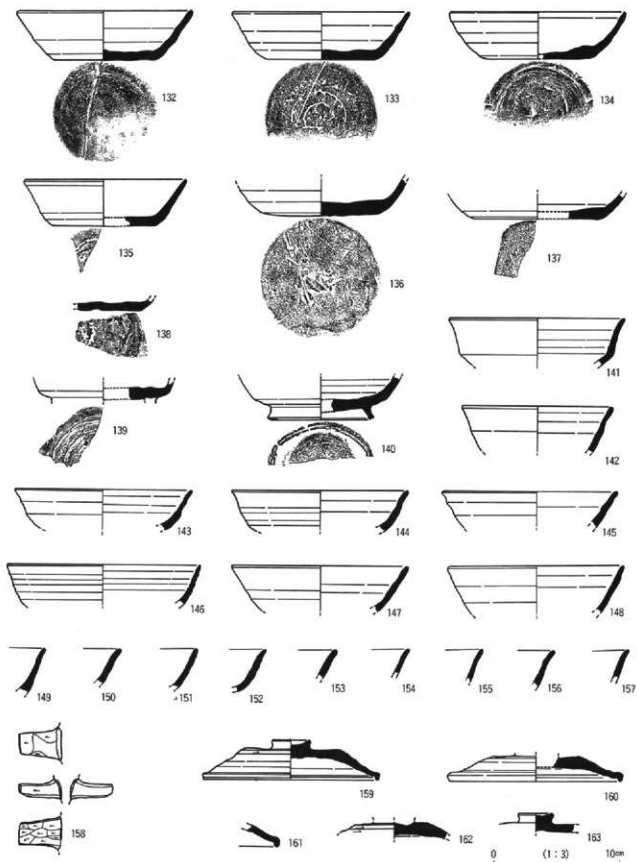
第5表 ST270出土土器観察表



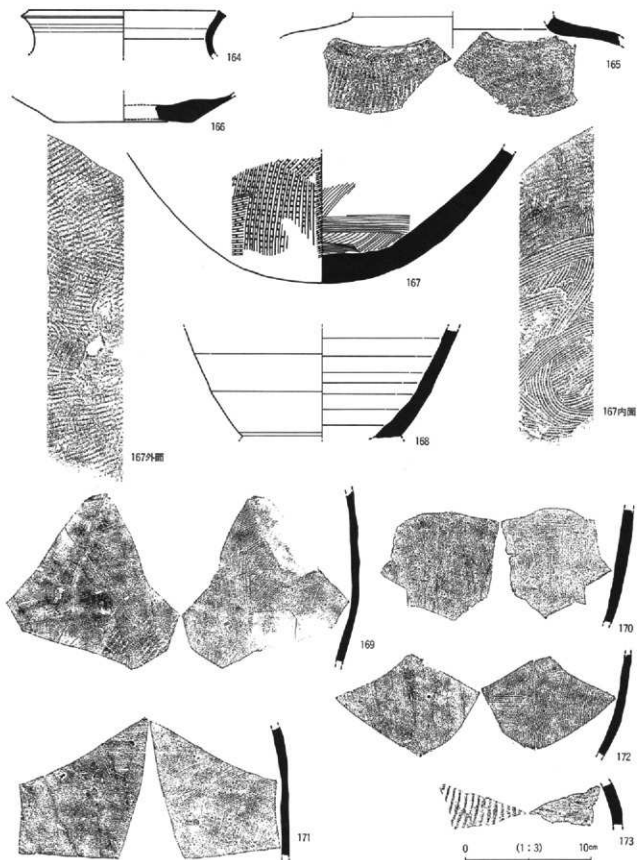
第25図 S T 3214



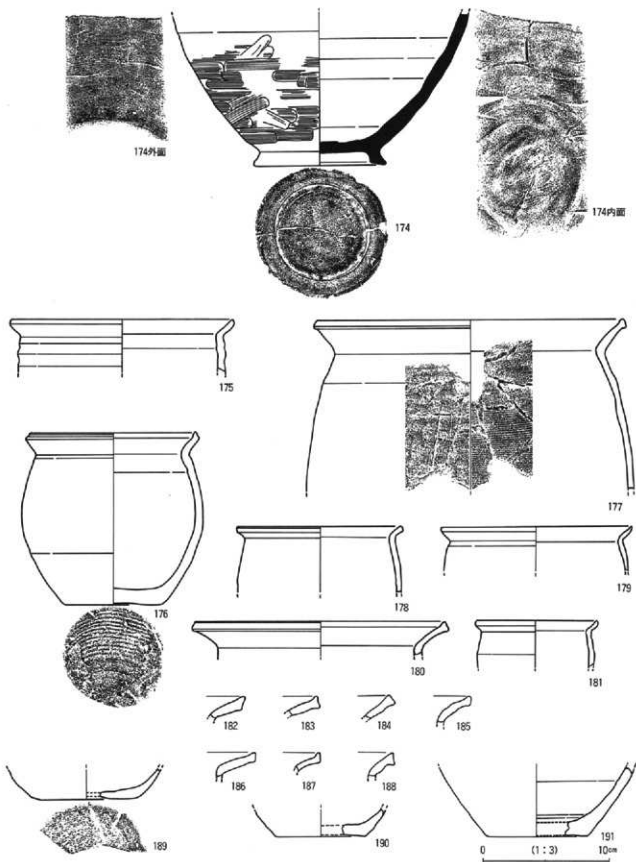
第26図 ST3214出土遺物分布図



第27図 ST 3214出土遺物(1)



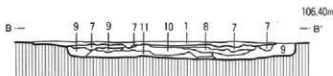
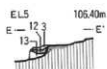
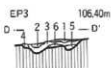
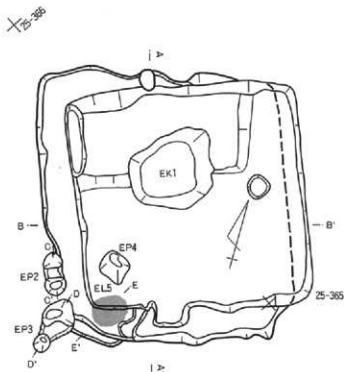
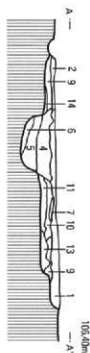
第28図 S T 3214出土遺物(2)



第29図 ST3214出土遺物(3)

番号	遺物	地区	遺物番号	種類	出 産			調 査		底層・切堀	備考	分類
					口径	経径	胴径	外径	内径			
132	56 ST 3214 EP 6上層	25-364	EP 8	須置物 坏	(128)	83	39	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切		I A1
133	56 ST 3214 EP 7上層	25-364	EP 10	須置物 坏	(140)	85	38	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切		I A1
134	56 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 坏	(140)	(80)	38	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切		I A1
135	65 ST 3214 EP 6	26-364		須置物 坏	(128)	(80)	37	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切		I A1
136	65 ST 3214 F 1	26-364	EP 9	須置物 坏	-	91 [131]	[28]	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切		I A1
137	65 ST 3214 EP 4	26-364		須置物 坏	-	(100)	[127]	[10]	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切	I A1
138	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	-	-	[8]	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切	骨針	I A1
139	65 ST 3214 F 1	25-26-364		須置物 高台付坏	-	[108]	[12]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I B1
140	61 ST 3214 EP 3	26-364		須置物 高台付坏	-	(83)	(134)	[33]	ロクロナデ	須置物切	骨針	I B2
141	65 ST 3214 EP 3	26-364		須置物 坏	(140)	-	[36]	ロクロナデ	ロクロナデ	高台付坏? 骨針		I E
142	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	(128)	-	[35]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
143	65 ST 3214	25-26-364		須置物 坏	(140)	-	[31]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
144	65 ST 3214 EP 3	26-364		須置物 坏	(140)	-	[31]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
145	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	(140)	-	[27]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
146	65 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 坏	(154)	-	[30]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
147	65 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 坏	(140)	-	[35]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
148	65 ST 3214 EP 6	25-364		須置物 坏	(140)	-	[36]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
149	65 ST 3214 F 1	25-26-364		須置物 坏	-	-	[34]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
150	65 ST 3214	25-26-364		須置物 坏	-	-	[27]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
151	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	-	-	[30]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
152	65 ST 3214 EP 6	25-364		須置物 坏	-	-	[34]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
153	65 ST 3214 EP 6	26-364		須置物 坏	-	-	[22]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
154	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	-	-	[18]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
155	65 ST 3214	26-364		須置物 坏	-	-	[24]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
156	65 ST 3214	25-26-364		須置物 坏	-	-	[28]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
157	65 ST 3214 EP 6	25-364		須置物 坏	-	-	[21]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
621	65 ST 3214 EP 3	25-364		須置物 坏	-	-	[29]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
622	65 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 坏	-	-	[27]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I E
158	65 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 瓦葺坏	-	-	-	ケズリ				I C
159	61 ST 3214	25-364	EP 2	須置物 蓋	140		32	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	内側戻波		I D2
160	62 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 蓋	(140)		[20]	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	内側戻波		I D2
161	65 ST 3214 EK 2	26-364		須置物 蓋	-	-	[16]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I D
162	62 ST 3214 F 1	25-26-364		須置物 蓋	-	[85]	[11]	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	須置物切		I D1
163	62 ST 3214	26-364		須置物 蓋	-	[96]	[15]	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	骨針		I D2a
164	90 ST 3214	25-26-364		須置物 蓋?	[162]	-	[33]	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		I I
165	91 ST 3214 F 2	25-26-364		須置物 蓋	-	[204]	[13]	タタキ・タタキメ	タタキ	骨針		I F1
166	91 ST 3214	26-364		須置物 蓋?	-	(108)	[170]	[18]	ナデ・タタキメ	ナデ	ナデ・ケズリ	I I
167	91 ST 3214	26-364	EP 1	須置物 蓋	-	[204]	[100]	タタキ	アテ・タタキメ	丸蓋	骨針	I F2
168	91 ST 3214 F 1-2	25-26-364		須置物 蓋	-	[214]	[82]	ナデ・ケズリ	ロクロナデ			I G2
169	91 ST 3214	25-26-364		須置物 蓋?	-	-	-	ケズリ	タタキ	骨針		I I
170	91 ST 3214	25-26-364		須置物 蓋?	-	-	-	ケズリ	タタキ	骨針		I I
171	91 ST 3214	25-26-364		須置物 蓋?	-	-	-	ケズリ	タタキ	骨針		I I
172	91 ST 3214	25-26-364		須置物 蓋?	-	-	-	ケズリ	タタキ	骨針 109~170同一種類		I F
173	91 ST 3214	26-364		須置物 蓋	-	-	-	タタキ	アテ			I F
174	91 ST 3214	26-364	EP 7	須置物 蓋	-	104 [236]	[118]	タタキ	ロクロナデ	付高台・ナデ	須置物切?	I G2
175	91 ST 3214	25-364		須置物 蓋	(178)	-	(165)	[41]	ロクロナデ	ロクロナデ		I F1
176	91 ST 3214 EK 2	26-364	EP 6	土師器 蓋	138	80	144	336	ロクロナデ	ロクロナデ	須置物切	II C1
177	94 ST 3214	25-26-364		土師器 蓋	(248)	-	(280)	[154]	ナデ・ケズリ	ナデ・タタキメ	骨針	II C4
178	94 ST 3214 F 2	35-26-364		土師器 蓋	(132)	-	(130)	[82]	ナデ	ナデ		II C1
179	94 ST 3214 EP 6	25-364		土師器 蓋	(152)	-	(148)	[34]			被熱	II C1
180	94 ST 3214	25-26-364		土師器 蓋	(203)	-	(182)	[23]	ナデ	ナデ	被熱	II C3
181	94 ST 3214 F 1	25-26-364		土師器 蓋	(98)	-	(93)	[33]	ナデ	ナデ	被熱	II C1
182	94 ST 3214	26-364		土師器 蓋	-	-	-	[16]	ナデ	ナデ		II C
183	94 ST 3214	26-364		土師器 蓋	-	-	-	[15]	ナデ	ハケメ	骨針	II C
184	94 ST 3214	25-364		土師器 蓋	-	-	-	[17]	ナデ	ナデ	骨針	II C
185	94 ST 3214	25-26-364		土師器 蓋	-	-	-	[20]	ナデ	ナデ		II C
186	94 ST 3214	25-364		土師器 蓋	-	-	-	[18]	ナデ	ナデ	骨針	II C
187	94 ST 3214	26-364		土師器 蓋	-	-	-	[14]	ナデ	ナデ	骨針	II C
188	94 ST 3214	25-364		土師器 蓋	-	-	-	[18]	ナデ	ナデ	骨針	II C1
189	95 ST 3214	25-364		須置物 坏	-	(74)	[118]	[22]	ロクロナデ	須置物切	被熱	I C2a
190	94 ST 3214 EP 6	25-364		土師器 蓋	-	71 [100]	[20]	ナデ	ナデ	ナデ	被熱	I C2a
191	94 ST 3214	25-364		土師器 蓋	-	(80)	[150]	[50]	ナデ	ナデ	須置物切・被熱	II C2a

第6表 ST3214出土土器観察表



ST3216

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト殻・焼土殻・炭化物を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。
- 3 5Y R4/8 赤褐色細砂 表土上部で検出。
- 4 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト産多量。黒褐色シルト殻を含む。
- 5 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト 地山シルト殻を含む。
- 6 5Rと褐色シルト塊の混土。
- 7 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト殻多量。硬くしまる。粘状。
- 8 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト塊を含む。
- 9 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山細砂殻をややく含む。
- 10 10Y R4/6 褐色粘土質シルト 黒褐色シルト塊を含む。
- 11 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂殻を含む。
- 12 5Y R3/4 暗赤褐色シルト 焼土。
- 13 10Y R2/2 黒褐色シルト

EP2 10Y R3/4 暗褐色シルト 地山シルト殻・焼土殻・炭化物を含む。

EP3

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 焼土殻を含む。
- 3 7.5Y R3/4 暗褐色粘土質シルト 焼土殻・炭化物を含む。
- 4 10Y R2/3 黒褐色シルト
- 5 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻を含む。
- 6 10Y R3/3 暗褐色粘土質シルト 黒褐色シルト殻を含む。



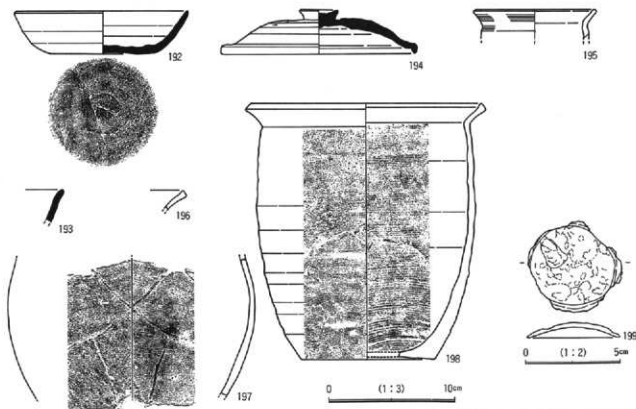
ST3219(第30~32図 図版26・27 第7表)

25・26-366区で検出された。本住居跡には、一辺約3.0mの方形を呈する古い堅穴住居跡aと、南西に約50cmずれた位置に長辺(南北)3.6m前後、短辺(東西)推定3.2mの不整長方形を呈する新しい堅穴住居跡bの重複もしくは建て替えがみられた。遺構確認面から床面までの深さは、aで25cm前後、bで6~12cmを測る。貼床は双方とも床面全域に認められる。床面は、aは平坦で硬くしまるが、bには若干の起伏がありややしまりが無い。壁の立上がりは急である。南北の軸線は一致しており、約20度西に振れている。柱穴は検出されず、屋内施設では、土坑1基(EK1)がほぼ中央で、カマド1基(EL5)が南辺西寄りで検出された。これらはいずれもbに伴う。EL5は遺存状態が悪く、焼土の広がりのみを検出である。出土遺物もすべてbからの出土である。これらについては、第31図に個別の資料を掲載し、第32図にその分布状況を示した。EK1から底部切り離しが回転鏡切りの環が出土したほかは、完形の蓋をはじめ、煮沸形態の土師器壺などがEL5の近辺に集中するが、数量的に限られる。

ST280(第33~36図 図版28~30 第8表)

33・34-367・368区で検出された。西辺で新しい溝跡に切られるが遺存状態は良好である。規模および平面形は長辺(南北)が4.1~4.3m、短辺(東西)が3.9~4.1mの不整長方形を呈する。貼床は床面のほぼ全面で検出された。床面は平坦であるが中央付近に若干の段差があり、硬くしまる。確認面からの深さは25~48cmを測る。壁の立ち上がりは急である。

床面からは8基のピットが検出されたが、いずれも支柱穴とは考え難い。カマド(EL1)は



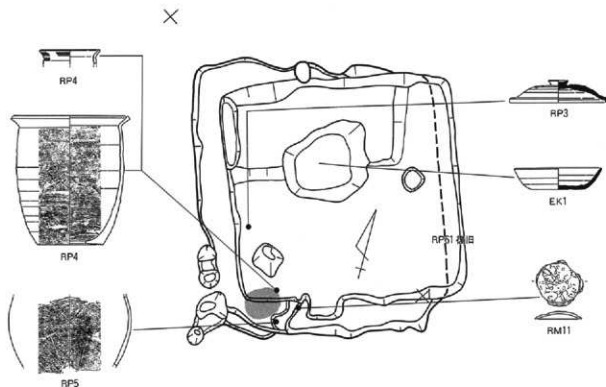
第31図 ST3219出土遺物

南辺中央やや東寄りで検出された。燃焼部は焼土化しているものの袖は遺存していない。煙道は、EL 1 の南に壁面から長さ145cm、幅25cm前後、深さ10cmにわたって検出された。煙道の軸線は、住居の南北軸線に一致し、ほぼ磁北に平行する。

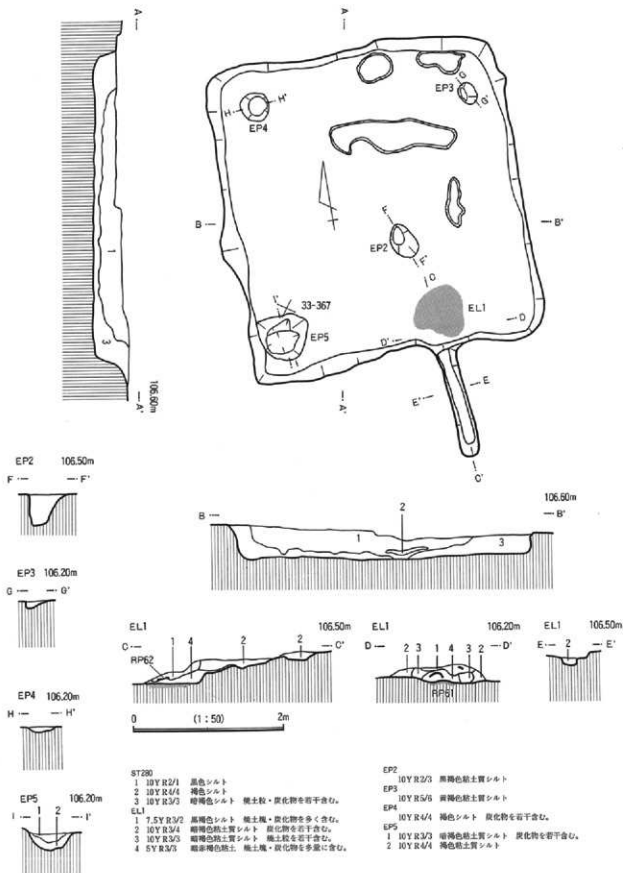
出土遺物は第34図に分布状況を示し、第35・36図に個別の資料を掲載した。遺物は、住居跡堆積土内全域から出土したが、特に南縁部に密に分布する。なかでもEL 1 燃焼部の堆積土内からは、煮沸形態がまとまって出土した。出土遺物の構成は、供膳形態では切り離しが回転系切りとなる須恵器坏を主体に、回転籠切の高台付坏が伴い、煮沸形態では、ロクロ成形で内外面にハケメおよび縦方向のケズリ調整を伴う法量の大きな土師器甕が主体となり、同じくロクロ成形で無調整の小形の甕が伴う。貯蔵形態では甕、壺の体部および口縁部破片が3点出土した。そのほか、EP 5 から刀子とみられる鉄製品が1点(第36図230)と、住居跡堆積土内からも板状の鉄製品(第36図231)が出土している

部号	種別	数量	地区	検出番号	種別	寸法			材質		備考	分類
						口径	底径	高さ	外	内		
192	31	59	ST 3219 住 1 F2	25 - 35 - 366	須恵器 坏	155	82		34	ロクロナデ	ロクロナデ	II A1
193	31	66	ST 3219 EP 2	25 - 356	須恵器 坏	-	-		[25]	ロクロナデ	ロクロナデ	II B
194	31	62	ST 3219	25 - 356	EP 3	154			35	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	II D2a
195	31	85	ST 3219 EL 5	25 - 356	EP 4	土師器 甕	(95)	- (86)	30	ナデ	ナデ	II C1
196	31	85	ST 3219	25 - 356	EP 5	土師器 甕	-	-	15	ナデ	ナデ	II C
197	31	86	ST 3219	25 - 356	EP 5	土師器 甕	-	-	105	ケズリ	ナデ	II C2a
198	31	75	ST 3219 EL 5	25 - 356	EP 4	土師器 甕	(190)	105 (173)	205	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	II C2b

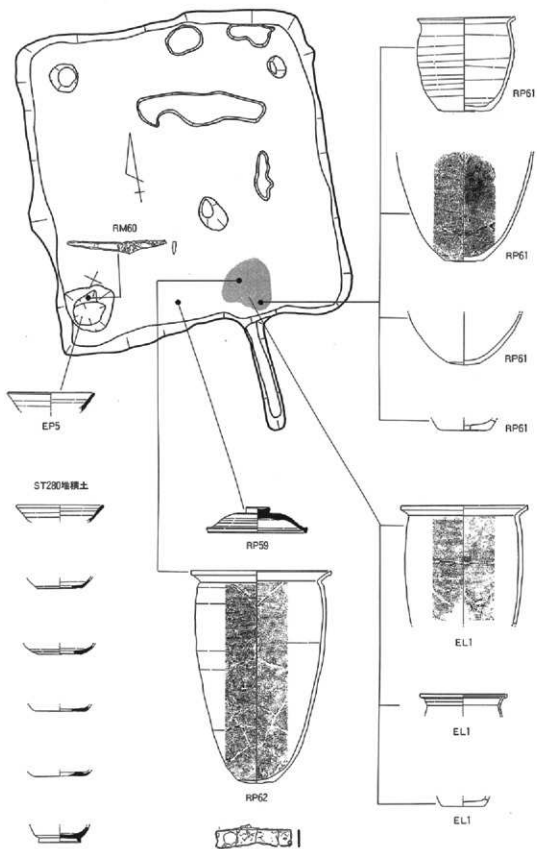
第7表 ST3219出土土器観察表



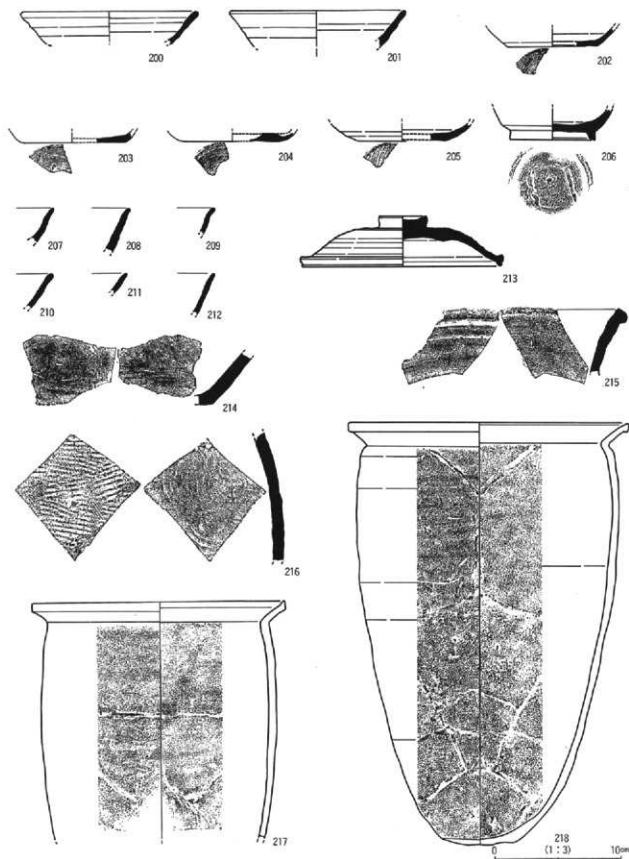
第32図 S T 3219出土遺物分布図



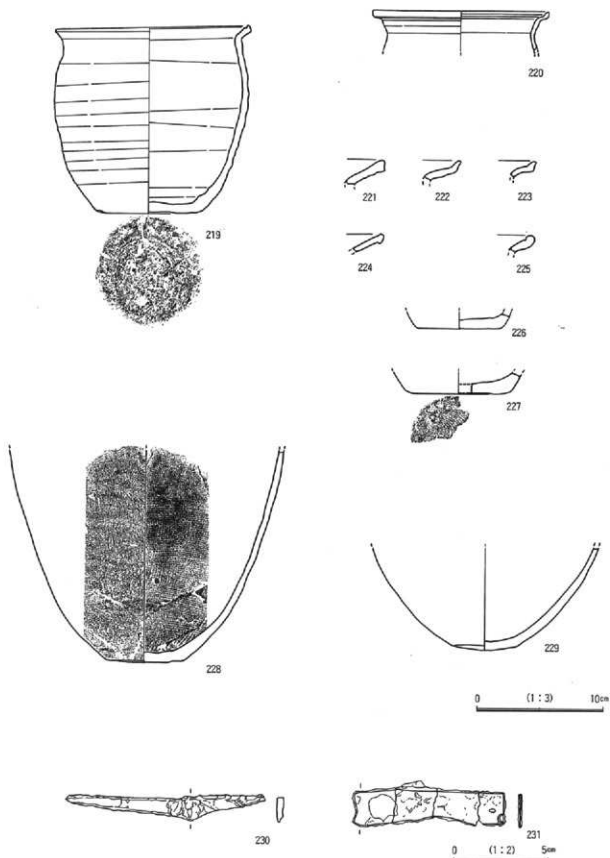
第33図 ST280



第34図 ST280出土遺物分布図



第35図 S T 280出土遺物(1)



第36図 S T 280出土遺物(2)

ST3370(第37~45図 図版31~34 第9・10表)

35・36・370・371区で検出された。住居跡南西角が調査区外となるが、ほかの遺構とは重複していない。規模および平面形は一辺が5.1~5.5mの不整形を呈する。貼床は床面のほぼ全面で検出された。床面は平坦で硬くしまる。確認面からの深さは25~33cmを測る。壁の立ち上がりは急である。

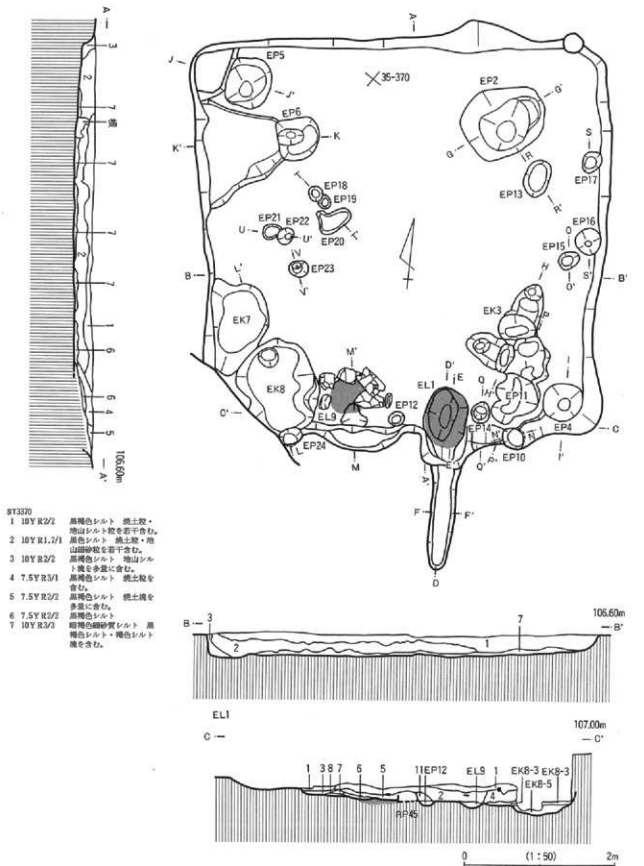
床面からは北辺部分を除く縁辺に沿って19基のピットと3基の土坑が検出された。ピットは柱痕や規則性が認められる配置が確認されたものはなく、柱穴は不明である。3基の土坑は南辺の両端付近で検出されている。カマドは南辺中央やや東寄りてEL1、同西寄りてEL9の2基が検出された。EL1は焼焼部が南辺より約40cm張り出す。焚口部から焼焼部は焼土化が顕著に観察された。袖は検出されなかった。煙道は、張り出した壁面から長さ140cm、幅32cm、深さ13cmにわたって検出された。煙道の軸線は住居の南北軸線に一致し、ほぼ磁北に平行する。EL9では左右の袖石と焚き口部天井の構造材とみられる板状の砂岩が検出された。これらには被熱の痕跡が明瞭に残る。煙道は検出されなかった。

出土遺物は第39図に分布状況を示し、第40~45図に個別の資料を掲載した。本堅六住居跡は、今回精査を実施した遺構のなかで、数量的に最も多く遺物が出土した。遺物は住居跡縁辺部に密に分布する。特にEL1およびEL9付近には煮沸形態の出土が目立つ。また、北辺付近を中心に蓋がまとまって出土した。供膳形態では、底部の切り離しが回転籠切りと回転糸切りの須臾器環類が拮抗する。煮沸形態では、ロクロ成形で大形の土師器壺を主体に、多様な法量の資料が得られた。貯蔵形態は壺・壺・横瓶の破片が出土した。そのほか、砥石や鉄製品もEL1やEK8からまとまって出土している。

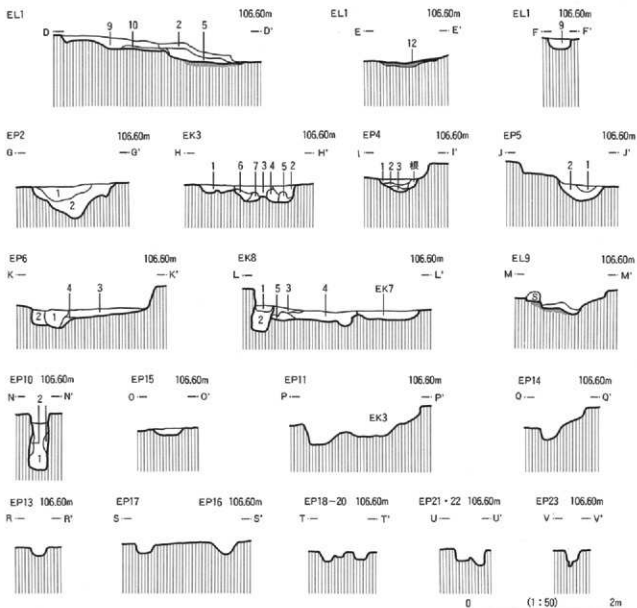
番号	坪数	遺構	地区	遺物番号	種類	器種	法量				内 容		形状・切痕	備考	分類
							口縁	底径	胴径	高さ	外 径	内 径			
380	35	66 ST 280	33・34 - 362・368	380	土師器	杯	-	-	125	ロクロナデ	ロクロナデ	被熱		IE	
381	35	66 ST 280 EP 5	34 - 362・368	381	土師器	杯	140	-	28	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
382	35	66 ST 280	33・34 - 362・368	382	土師器	杯	-	(73) 96	13	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切	骨針	IA2	
383	35	66 ST 280	33・34 - 362・368	383	土師器	杯	-	(84) 92	7	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切	骨針	IA2	
384	35	66 ST 280	33・34 - 362・368	384	土師器	杯	-	(89) 90	6	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切		IA2	
385	35	66 ST 280	33・34 - 362・368	385	土師器	杯	-	(79) 98	13	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切	骨針	IA2	
386	35	61 ST 280	33・34 - 362・368	386	土師器	高台付杯	-	(66) 93	24	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切	骨針	IB3	
387	35	67 ST 280	33・34 - 362・368	387	土師器	杯	-	-	31	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
388	35	67 ST 280	33・34 - 362・368	388	土師器	杯	-	-	33	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
389	35	67 ST 280	33・34 - 362・368	389	土師器	杯	-	-	19	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
390	35	67 ST 280	33・34 - 362・368	390	土師器	杯	-	-	26	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
391	35	67 ST 280	33・34 - 362・368	391	土師器	杯	-	-	15	ロクロナデ	ロクロナデ	被熱		IE	
211	25	67 ST 280	33・34 - 362・368	211	土師器	杯	-	-	13	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IE	
212	25	67 ST 280	33・34 - 362・368	212	土師器	杯	-	-	15	ロクロナデ	ロクロナデ	被熱		IE	
213	25	62 ST 280	33 - 362	RP 59	土師器	壺	(161)	-	40	ロクロナデ	ロクロナデ	骨針		IC3a	
214	35	92 ST 280	33・34 - 362・368	214	土師器	樽	-	-	124	ナデ・ケズリ	ナデ	ケズリ		IE	
215	35	92 ST 280	33・34 - 362・368	215	土師器	樽	-	-	48	ナデ	ナデ	骨針		IE	
216	35	92 ST 280	33・34 - 362・368	216	土師器	樽	-	-	-	ナデ・ホキメ	ナデ			IF	
217	35	76 ST 280 EL 1	33 - 362	217	土師器	壺	202	-	(187) 189	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	被熱		EC3	
218	35	73 ST 280 EL 1	33 - 362	RP 62	土師器	壺	(222)	59	206	335	ナデ・ケズリ	ケズリ	※印の被熱	EC4	
219	35	76 ST 280 EL 1	33 - 362	RP 61	土師器	壺	155	78	153	150	ロクロナデ	ロクロナデ	陶板糸切	EC2b	
220	35	85 ST 280 EL 1	33 - 362	土師器	壺	(149)	-	(120)	13	ロクロナデ	ロクロナデ	被熱		EC1	
221	35	85 ST 280	33・34 - 362・368	土師器	樽	-	-	-	24	ナデ	ナデ	被熱		EC	
222	35	85 ST 280 Y	33・34 - 362・368	土師器	樽	-	-	-	18	ナデ	ナデ	被熱		EC	
223	35	85 ST 280 EL 1	33 - 362	土師器	壺	-	-	-	13	ナデ	ナデ	被熱		EC	
224	35	85 ST 280	33・34 - 362・368	土師器	壺	-	-	-	13	ナデ	ナデ	被熱		EC	
225	35	85 ST 280	33・34 - 362・368	土師器	壺	-	-	-	13	ナデ	ナデ	被熱		EC	
226	35	37 ST 280 EL 1	33 - 362	土師器	壺	-	66	(80)	12	ロクロナデ		陶板糸切		EC1	
227	35	57 ST 280 EL 1	33 - 362	RP 63	土師器	壺	-	(70) 98	15	ロクロナデ	陶板糸切			EC1	
228	35	77 ST 280 EL 1	33 - 362	RP 62	土師器	壺	-	62	(115) 108	ケズリ	ハケメ	ナデ	被熱	EC3	
229	35	80 ST 280 EL 1	33 - 362	RP 61	土師器	壺	-	50	(128) 80	ケズリ	ナデ	ナデ	被熱	EC4	

第8表 ST280出土土器観察表

遺構と遺物

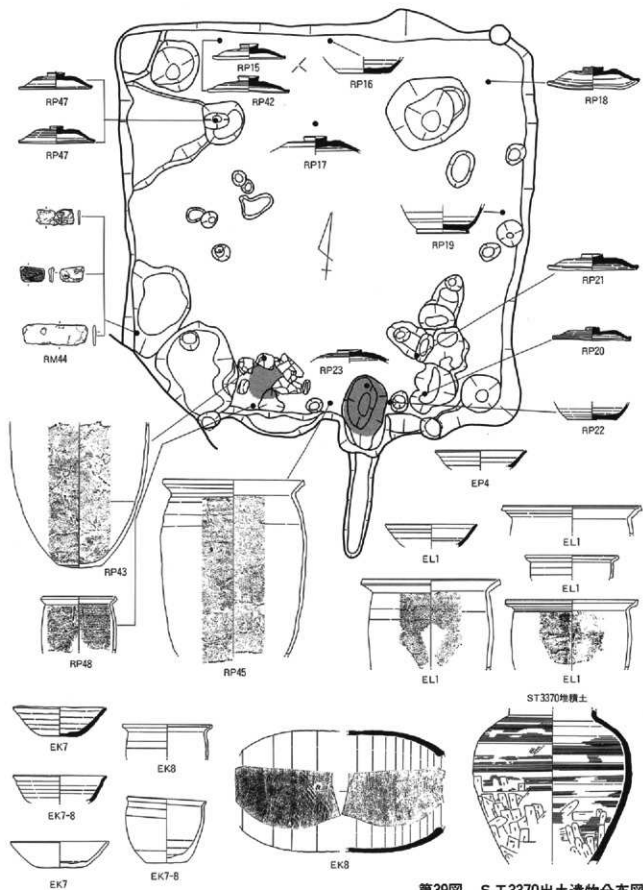


第37図 ST3370(1)

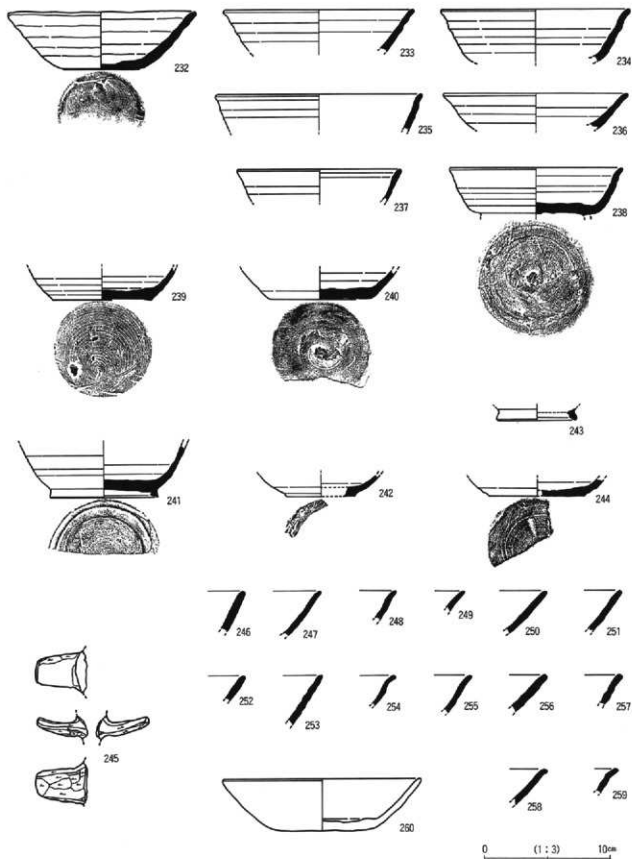


- | | | |
|--|--|---------------------------------|
| EL1 | 1 10Y R7/1 黒色シルト 地山シルト殻を若干含む。 | 4 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 |
| 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 焼土殻を含む。 | 5 10Y R4/6 暗褐色粘土質シルト 黒褐色シルト殻を含む。 | |
| 3 10Y R2/3 暗褐色シルト 焼土殻をやや多く含む。 | 6 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト殻・焼土殻を含む。 | |
| 4 7.5Y R3/4 暗褐色シルト 焼土殻をやや多く含む。 | 7 10Y R4/6 暗褐色シルト 黒褐色シルト殻・焼土殻を含む。 | |
| 5 7.5Y R2/2 暗褐色シルト 焼土殻をやや多く含む。 | EP4 | |
| 6 10Y R2/3 暗褐色シルト 焼土殻を含む。 | 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | |
| 7 10Y R3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト殻・地山シルト殻・焼土殻を含む。 | 2 7.5Y R2/2 黒褐色シルト 焼土殻・地山シルト殻を含む。 | |
| 8 10Y R4/6 褐色シルト | 3 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | |
| 9 10Y R2/2 黒褐色シルト 黒色シルト殻・焼土殻・地山シルト殻を含む。 | EP5 | |
| 10 10Y R3/3 暗褐色シルト 一部焼土化。 | 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト微殻を含む。 | |
| 11 7.5Y R3/3 暗褐色シルト 焼土殻多量。炭化物を若干含む。 | 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | |
| 12 5Y R4/4 EP2 | EP6 | |
| 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | 1 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻・焼土殻を含む。 | |
| 2 10Y R2/3 暗褐色シルト 暗褐色細砂質シルト殻・褐色シルト殻を多量に含む。 | 2 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻・黒色シルト殻を多量に含む。 | |
| EK3 | 3 10Y R3/3 暗褐色シルト 褐色シルト殻・黒褐色シルト殻・焼土殻を含む。 | |
| 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト微殻を多量に含む。 | EP18-20 | |
| 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 焼土殻を多量に含む。 | EP21-22 | |
| 3 10Y R3/3 暗褐色シルト 褐色シルト殻・黒褐色シルト殻・焼土殻を含む。 | EP23 | |
| 4 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | | |
| 5Y R3/2 暗赤褐色シルト 焼土殻多量。炭化物を若干含む。 | | |
| EK8 | | |
| 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト微殻を含む。 | | |
| 2 10Y R2/3 暗褐色シルト 地山シルト微殻を若干含む。 | | |
| 3 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト微殻を含む。 | | |
| 4 7.5Y R2/2 暗褐色シルト 地山シルト微殻を多量に含む。 | | |
| 5 10Y R4/6 暗褐色シルト 暗褐色シルト殻を含む。 | | |
| 7.5Y R3/3 暗褐色シルト 焼土殻・黒色シルト殻を含む。 | | |
| EP10 | | |
| 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト微殻を含む。 | | |
| 2 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | | |
| EP12 | | |
| 10Y R3/3 暗褐色シルト | | |
| EP15 | | |
| 10Y R3/3 暗褐色粘土質シルト 地山シルト殻を多量に含む。 | | |

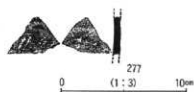
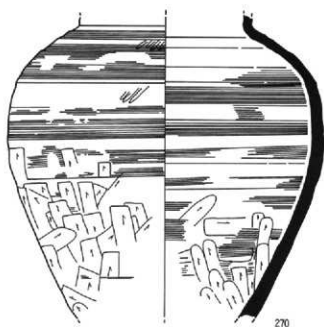
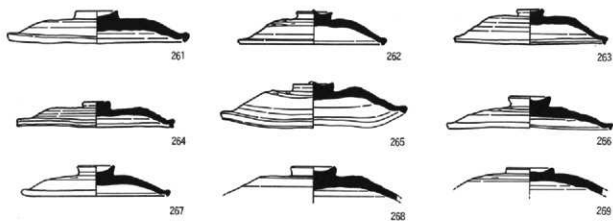
第38図 S T 3370(2)



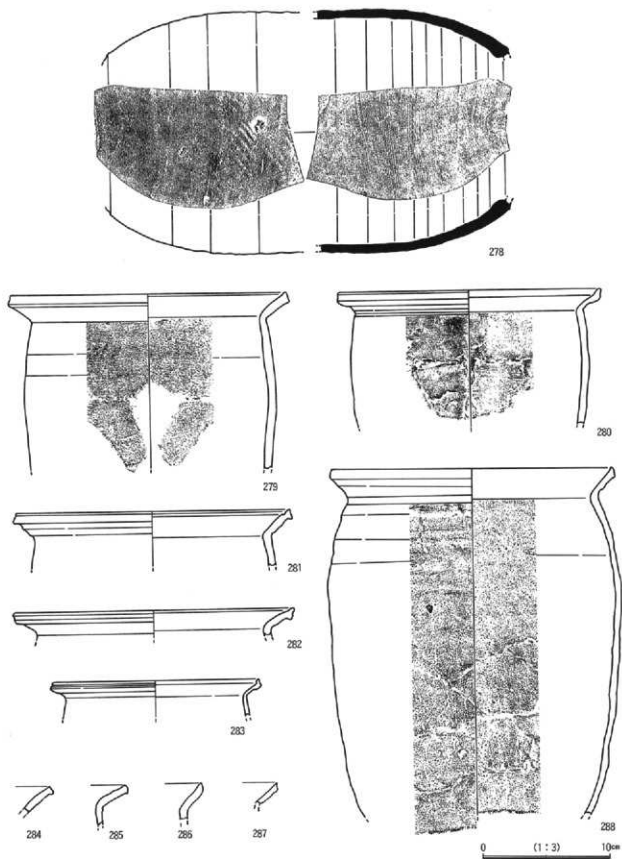
第39図 S T 3370出土遺物分布図



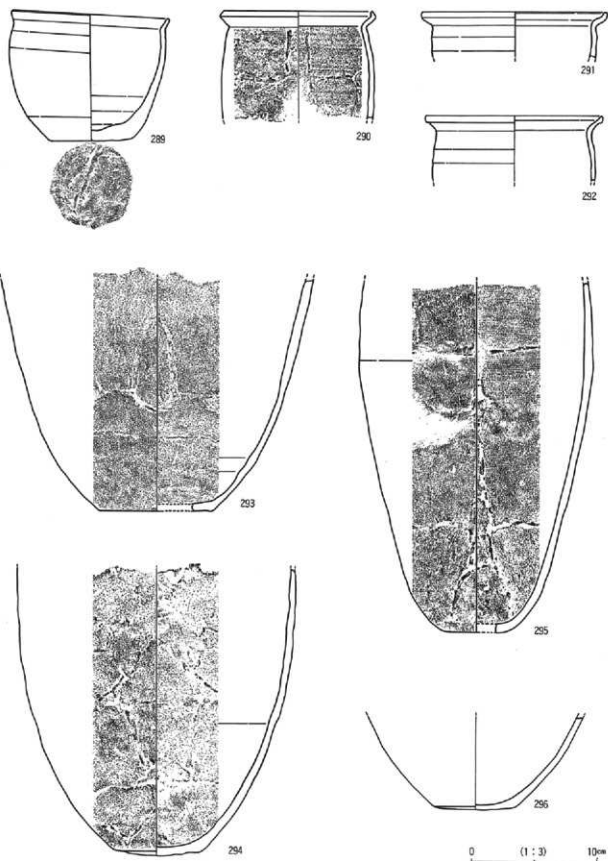
第40図 S T 3370出土遺物(1)



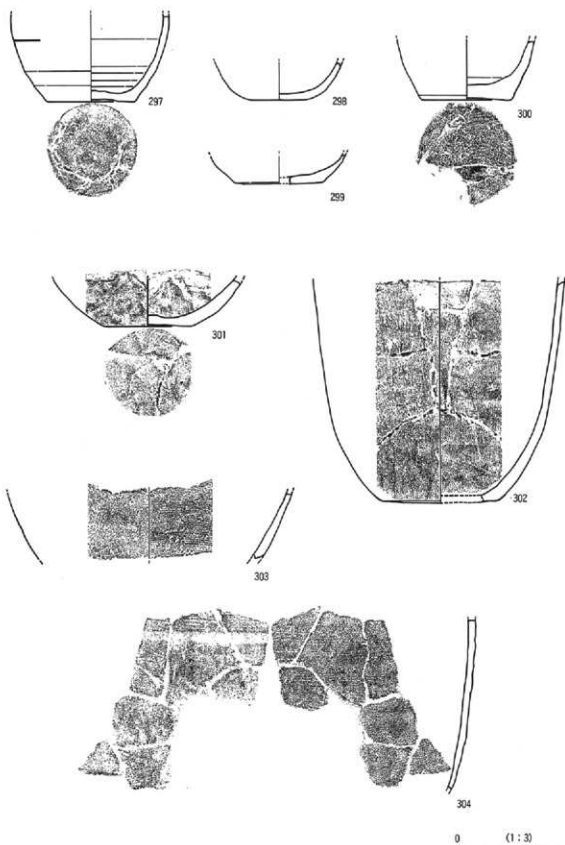
第41図 ST3370出土遺物(2)



第42図 ST 3370出土遺物(3)

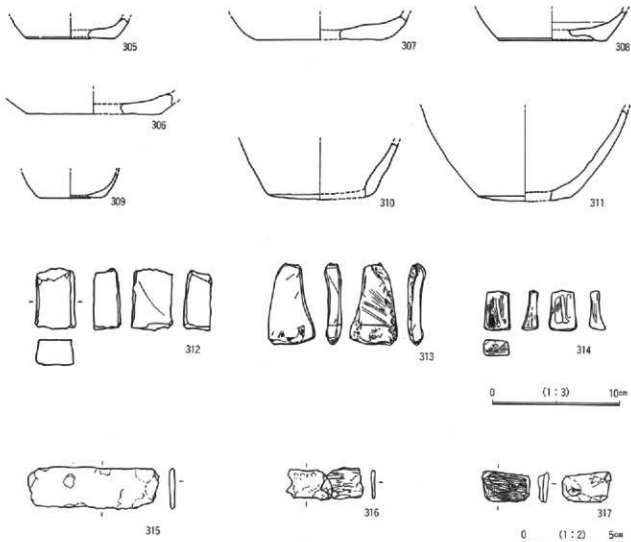


第43図 S T 3370出土遺物(4)



第44図 S T3370出土遺物(5)

遺構と遺物



第45図 S T 3370出土遺物(6)

番号	層位	遺構	地区	遺物番号	種類	法量				形状		器部・切痕	備考	分類	
						口径	底径	胴径	器高	外面	内面				
232	40	59 ST 3370 EK 77	35 - 370		須臾胎	杯	(149)	59	-	47	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		I A3
233	40	57 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	杯	(152)	-	(32)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	
234	40	57 ST 3370 EK 7・8	35 - 370		須臾胎	杯	(150)	-	(41)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I B	
235	40	57 ST 3370 EL 1	35 - 370		須臾胎	杯	(164)	-	(29)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	
236	40	57 ST 3370 EP 4	35 - 370		須臾胎	杯	(145)	-	(27)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	
237	40	57 ST 3370 EL 1	35 - 370		須臾胎	杯	(130)	-	(24)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	
238	40	51 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	高台付杯	(158)	-	(38)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	骨針	I B1	
239	40	59 ST 3370 EL 1	35 - 370	MP 22	須臾胎	杯	-	77	(112)	(24)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	骨針	I A2
240	40	59 ST 3370	35 - 370	MP 16	須臾胎	杯	-	79	(118)	(22)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	骨針	I A1
241	40	51 ST 3370	35 - 370	MP 19	須臾胎	高台付杯	-	(85)	(128)	(41)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		I B4
242	40	57 ST 3370 EL 1	35 - 370		須臾胎	杯	-	54	(90)	(16)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		I A3
243	40	57 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	高台付杯	-	(64)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		I B	
244	40	50 ST 3370 EL 1	35 - 370		須臾胎	杯	-	(76)	(105)	(12)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切・ナデ	骨針	I A2
245	40	57 ST 3370 EK 77	35 - 370		須臾胎	気取杯	-	-	-	-	ナズリ			I C	
246	40	57 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	杯	-	-	(31)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I B	
247	40	57 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	杯	-	-	(34)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I B	
248	40	57 ST 3370	35・36 - 370・371		須臾胎	杯	-	-	(23)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	
249	40	57 ST 3370	35 - 370	MP 19	須臾胎	杯	-	-	(16)	ロクロナデ	ロクロナデ			I B	

第9表 ST3370出土土器観察表(1)

ST3330(第46～50図 図版35～37 第11表)

31・32-371・372区で検出された。ほかの遺構とは重複していない。規模および平面形は、長辺(東西)が4.0～4.4m、短辺(南北)が3.7～3.8mの不整長方形を呈する。確認面から床面までの深さは約15～30cmを測る。貼床は床面のほぼ全域で検出された。床面は硬くしめるが若干の起伏があり、縁辺部が中央部に比べて一段高く造り出されている。壁の立上り方は南辺でやや緩やかとなるほかは急である。南北軸の軸方向は磁北から24度西に振れている。

床面からは2基のピットと2基の土坑が検出されたが、支柱穴は不明である。これらは住居跡の南西角付近に集中している。また、南辺を除く各辺に沿って幅20～30cm、床面からの深さ5～10cmの規模で周溝が検出された。カマド(EL3)は南辺中央西寄りで見出された。遺存状態は良好で、燃焼部は5cm程緩やかに落ち込んで底面が焼土化しており、その両脇に粘土で構築された袖の痕跡が特に東脇で明瞭に観察された。

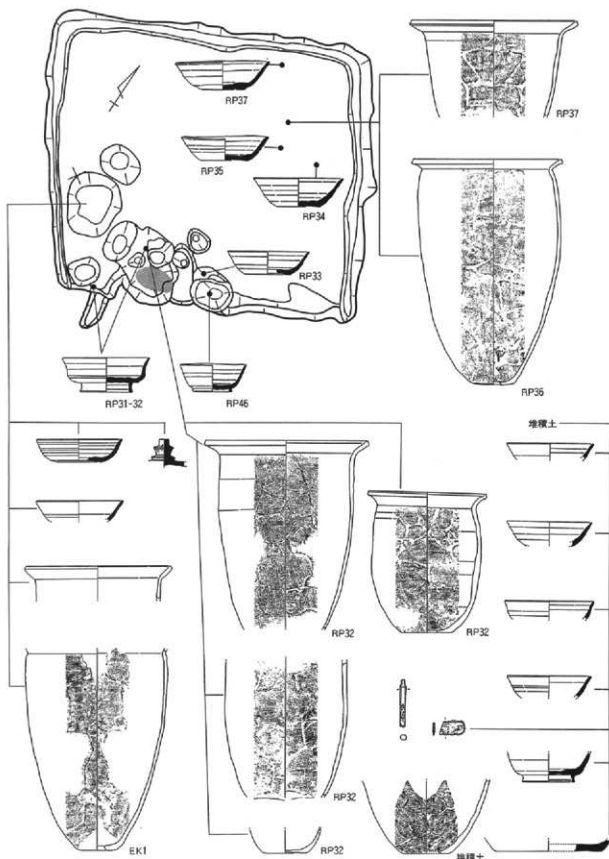
出土遺物は第47図に分布状況を示し、第48～50図に個別の資料を掲載した。遺物分布は住居跡堆積土内の全域におよび、特にEL3およびEK1を中心とした南西角付近の各遺構因子堆積土内と、北東半部の住居跡堆積土下半部で密となる傾向がみられた。遺物の出土数量では、貯蔵形態の出土量が少なく、壺あるいは甕の破片が4点出土したにすぎない。供膳形態では底部の切り離しが回転篋切りと回転糸切りの須恵器環が拮抗し、これに回転篋切りの高台付環が伴う。また、第48図334は金属製仏具の模倣とみられる蓋のつまみ部破片である。煮沸形態では個体数は多くないが、ロクロ成形で外面にハケメあるいは縦方向のケズリ、内面にハケメ調整を伴う大形の甕が主体となる。

ST3340(第51～53図 図版38・39 第12表)

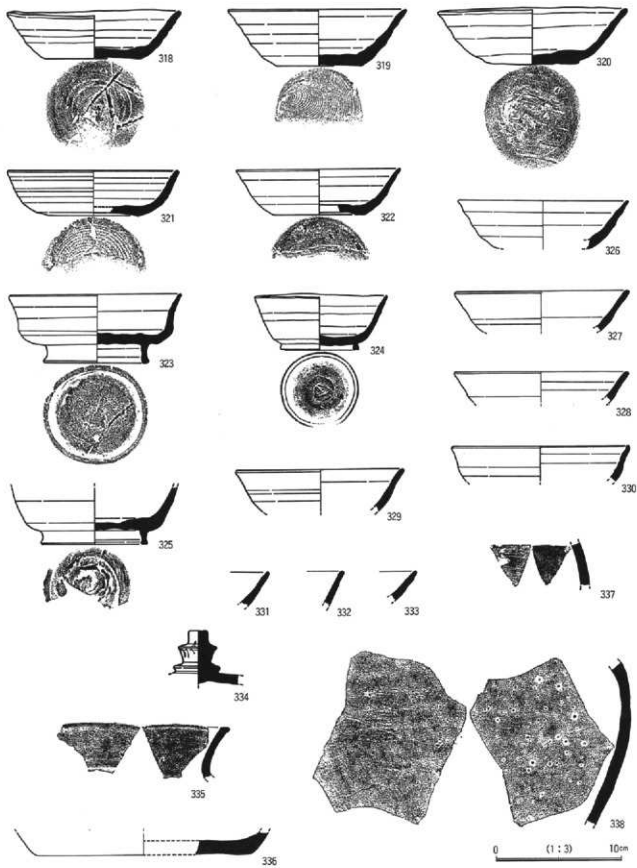
30・31-372・373区で検出された。規模および平面形は長辺(南北)が約3.0m、短辺(東西)が約2.5mの長方形を呈する小形の堅穴住居跡である。床面は南半部で若干の起伏が認められるほかは平坦で硬くしめる。貼床は床面のほぼ全面で確認された。確認面からの深さは15～20cmを測る。壁の立ち上がりは南辺では比較的緩やかであるが、ほかの3辺ではやや急である。南北軸の軸方向は約30度西に振れている。

床面では5基の浅い落ち込みを確認したが、いずれも柱穴とはなり得ない。また、南東角部分から、長径110cm、短径70cmの規模で、平面形が不整槽円形となる浅い落ち込みが検出された。その底面に長径約40cm、短径約30cmの範囲で焼土が分布することからカマドの痕跡と考えられた(EL1)が、遺存状態が悪く、構造の詳細は不明である。

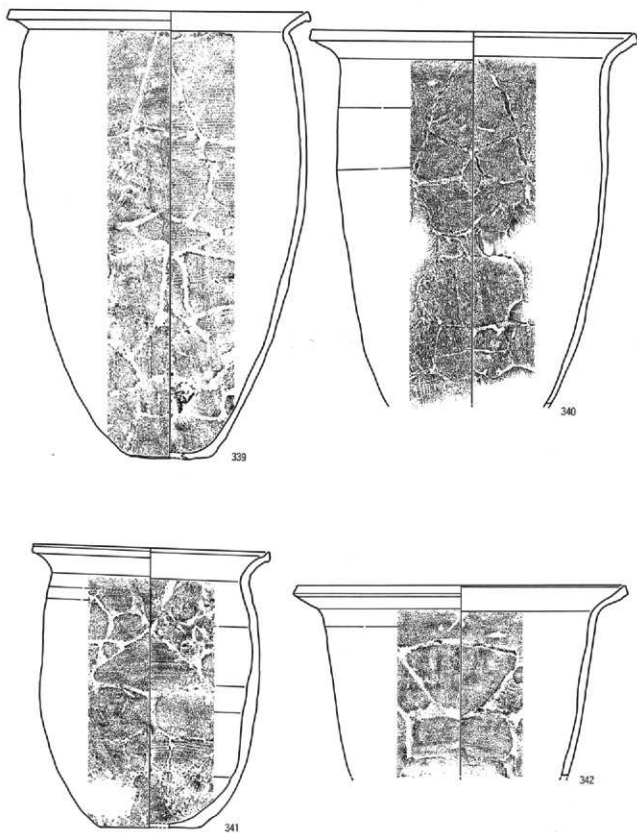
出土遺物は第52図に個別の資料を示し、第53図に分布状況を掲載した。遺物は図化し得たものですべてであり、個体数は少ないものの比較的良好な出土状況を呈した。これら5点のうち3点がEL1燃焼部の堆積土内からの出土である。供膳形態では切り離しが回転篋切りとなる須恵器環(353・354・356)と高台付環(355)で構成される。なお356は酸化焙焼成であるが、器形・成形技法の特徴および胎土の状況から須恵器の焼き損じと判断された。煮沸形態は1点のみの出土であったが、ロクロ成形で外面がハケメおよびケズリ調整、内面がハケメ調整となる法量の大きな土師器把手付き甕が得られた(357)。



第47図 S T 3330出土遺物分布図

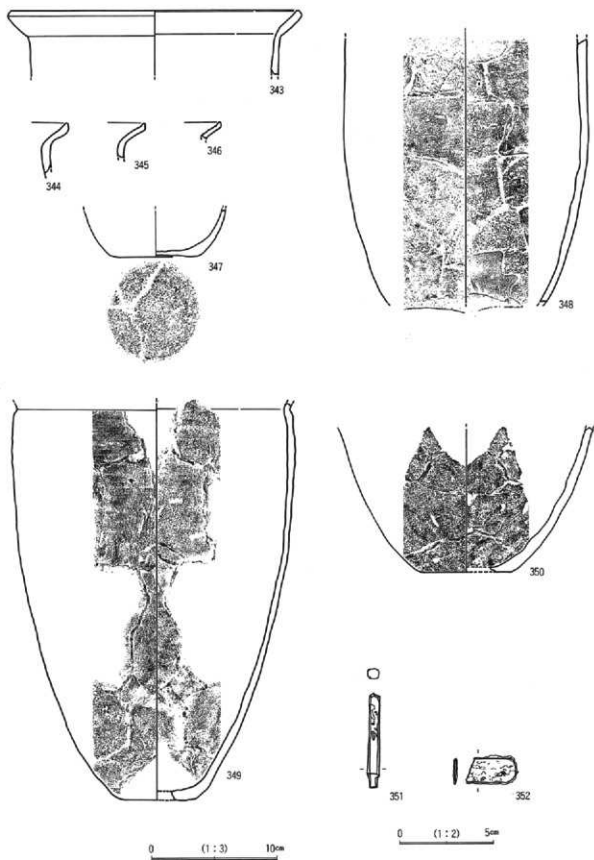


第48図 S T 3330出土遺物(1)



0 (1:3) 10cm

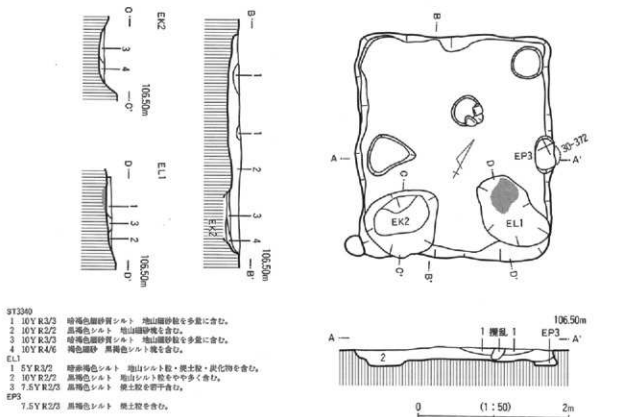
第49図 S T 3330出土遺物(2)



第50図 ST 3330出土遺物(3)

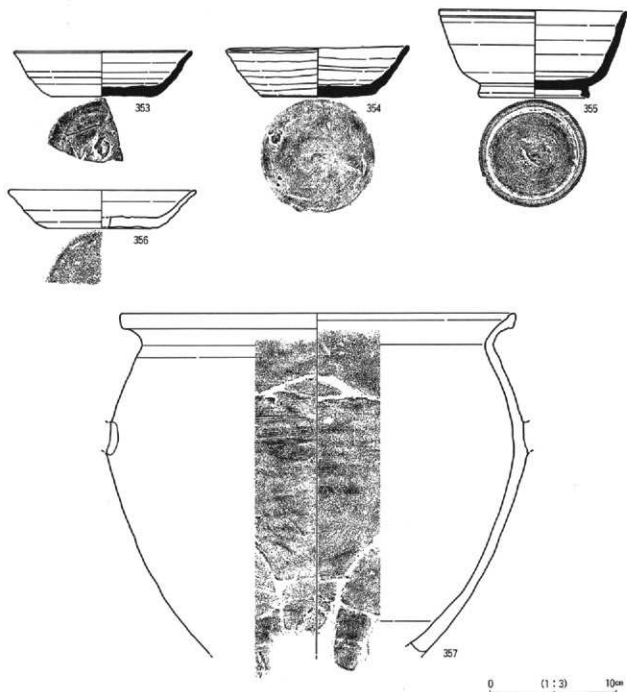
番号	探検回数	遺構	地区	建物番号	種類	階級	法定				調査		底部・切通	備考	分類			
							口幅	厚さ	間隔	断電	外面	内面						
318	48	60	ST 3330	31-371	RP 26	横壁	坪	128	76	-	33	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切	骨針	1A1		
319	48	60	ST 3330	31-371	RP 24	横壁	坪	(142)	(70)	-	45	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切		1A2		
320	48	60	ST 3330	31-372	RP 27	横壁	坪	150	74	-	45	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切・ナデ	骨針	1A1		
321	48	60	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	横壁	坪	(126)	(70)	-	38	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切		1A2		
322	48	60	ST 3330 EP 2	31-371	RP 33	横壁	坪	(120)	(72)	-	36	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切	骨針	1A1		
323	48	61	ST 3330 EL 3	31-32-371	RP 31	横壁	高台付坪	137	84	-	55	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切	骨針	1B1		
324	48	61	ST 3330 EP 2	31-371	RP 46	横壁	高台付坪	106	63	-	44	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切		1B3		
325	48	61	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	高台付坪	-	84	(130)	44	ロクロナデ	ロクロナデ	刷毛切	骨針	1B2		
326	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	坪	(136)	-	-	33	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
327	48	60	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	横壁	坪	(120)	-	-	31	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
328	48	60	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	横壁	坪	(128)	-	-	32	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
329	48	60	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	横壁	坪	(124)	-	-	32	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
330	48	60	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	横壁	坪	(142)	-	-	27	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
331	48	60	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	横壁	坪	-	-	-	25	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
332	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	坪	-	-	-	26	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
333	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	坪	-	-	-	22	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1E		
334	48	60	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	横壁	壁	-	-	-	42	ロクロナデ	沈堀	ロクロナデ	骨針	1D4		
335	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	壁?	-	-	-	40	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	1I		
336	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	壁?	(168)	(197)	(17)	タタキ?	ナデ			骨針	1I		
337	48	60	ST 3330	31-32-371・372	-	横壁	壁?	-	-	-	ナデ			骨針	1I			
338	48	60	ST 3330 F 1	31-32-371・372	-	横壁	壁?	-	-	-	ナデ・ケズリ	ナデ		骨針	1I			
339	49	73	ST 3330	31-371	RP 36	土師器	罎	(239)	66	224	337	ナデ・ハケメ	ナデ	ハケメ	炭焼	骨針	EC4	
340	49	75	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	土師器	罎	250	-	214	295	ナデ・ハケメ	ナデ	ハケメ	炭焼	骨針	EC4	
341	49	77	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	土師器	罎	(188)	78	172	322	ナデ・ハケメ	ナデ	ハケメ	炭焼	骨針	EC3	
342	49	77	ST 3330 EL 3	31-371	RP 27	土師器	罎	(265)	-	(214)	150	ナデ・ケズリ	ナデ		炭焼	骨針	EC4	
343	50	80	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	土師器	罎	(234)	-	(200)	51	ナデ	ナデ		炭焼	骨針	EC4	
344	50	80	ST 3330 EP 2	31-371	RP 33	土師器	罎	-	-	-	40	ナデ	ナデ		炭焼	骨針	EC4	
345	50	80	ST 3330 EP 2	31-371	RP 33	土師器	罎	-	-	-	27	ナデ	ナデ		炭焼	骨針	EC4	
346	50	80	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	土師器	罎	-	-	-	13	ナデ	ナデ		炭焼	骨針	EC4	
347	50	81	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	土師器	罎	-	70	(110)	37	ナデ	ナデ	刷毛切	-EK1	炭焼	骨針	EC1
348	50	77	ST 3330 EL 3	31-371	RP 32	土師器	罎	-	-	(194)	(308)	ナデ・ケズリ	ナデ	ハケメ	炭焼	骨針	EC3	
349	50	75	ST 3330 EK 1	31-32-371	-	土師器	罎	-	56	225	(314)	ナデ・ケズリ	ハケメ	ナデ	炭焼	骨針	EC4	
350	50	80	ST 3330	31-32-371・372	-	土師器	罎	-	(72)	(200)	(114)	ケズリ	ナデ	ナデ	炭焼	骨針	EC4	

第11表 ST3330出土土器観察表



- ST3330
- 1 10Y R3/3 暗褐色細砂質シルト 地山細砂粒を多量に含む。
 - 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂粒を含む。
 - 3 10Y R3/3 暗褐色細砂質シルト 地山細砂粒を多量に含む。
 - 4 10Y R4/6 褐色細砂 黒褐色シルト粒を含む。
- EL1
- 1 5Y R3/2 暗褐色シルト 地山シルト粒・炭土粒・炭化物を含む。
 - 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒をやや多く含む。
 - 3 7.5Y R2/3 黒褐色シルト 炭土粒を若干含む。
- EP3
- 1 5Y R2/2 黒褐色シルト 炭土粒を含む。

第51図 S T 3340



第52図 S T 3340出土遺物

番号	埋蔵区画	遺構	地区	遺物番号	種別	器種	器 数			器 数		器部・切痕	備考	分類	
							口縁	底径	胴径	外 面	内 面				
353	52	60 ST 3340	EL. 1	31 - 372	RP 41	深底器	片	(142)	(80)	36	ロクロナデ	ロクロナデ	附板底切	骨針	I A 1
354	52	60 ST 3340	EL. 1	31 - 372	RP 13	深底器	片	145	90	41	ロクロナデ	ロクロナデ	附板底切・ナデ	骨針	I A 1
355	52	61 ST 3340	EL. 1	31 - 373	RP 14	深底器	底片	149	87	70	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	附板底切・ナデ	骨針	I B 2
356	52	60 ST 3340	EL. 1	31 - 372	RP 12	深底器	片	(150)	(87)	31	ロクロナデ	ロクロナデ	附板底切	炭丸	I A 1
357	52	60 ST 3340	EL. 1	31 - 372	RP 12	土埴器	底片付器	(316)	-	(338) (286)	ナデ・ハナメ・ケズリ	ナデ	焼物	骨針	B C 5

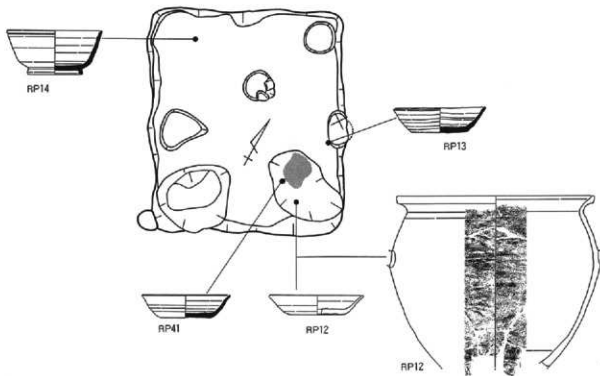
第12表 ST3340出土土器観察表

ST3350(第54～57図 図版40～42 第13表)

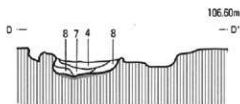
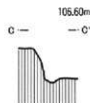
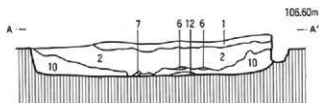
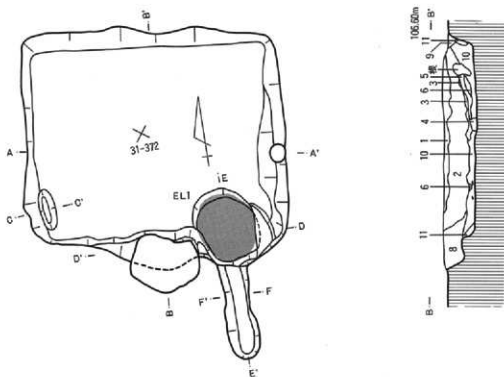
31・32-372・373区で検出された。南辺でSB3360と重複し、これを切っている。規模および平面形は長辺(東西)が約3.4m、短辺(南北)が2.8～3.1mの不整長方形を呈する。貼床は床面のほぼ全域で検出された。床面は平坦で硬くしまる。確認面からの深さは35～40cmを測る。壁の立ち上がりは急である。

床面から柱穴は検出されなかった。カマド(EL1)は南辺東端で検出された。遺存状態は比較的良好である。燃焼部は南辺より若干張り出し、南北105cm、東西75cmの楕円形に浅く掘込まれ、底面は焼土化が顕著である。この両脇に粘土で構築された袖の痕跡が遺存する。煙道は、EL1の南の壁面から長さ約124cm、幅30～42cm、深さ15cmの規模で検出された。煙道の軸線は、住居の南北軸線に一致し、ほぼ磁北に平行する。

出土遺物は第55図に分布状況を示し、第56・57図に個別の資料を掲載した。遺物は、住居跡堆積土内全域から出土したが、南西半部は分布が疎となる。EL1の焚き口および燃焼部の堆積土内からは、煮沸形態を主体として遺物がまともに出てきた。供膳形態では底径の比較的大きな回転糸切りとなる須恵器坏に、回転籠切りと回転糸切りの高台付坏と蓋が伴う。煮沸形態では、個体数は少ないものの、いずれもロクロ成形となる土師器壺が大小の各法量出土した。大形のものには外面にハケメ、ケズリ調整、内面にハケメ調整を伴うが、小形のものにはロクロ成形無調整で、底部に回転糸切痕が明瞭に残る。貯蔵形態では第56図374の台付壺をはじめ、壺、壺の体部破片が6点出土している。

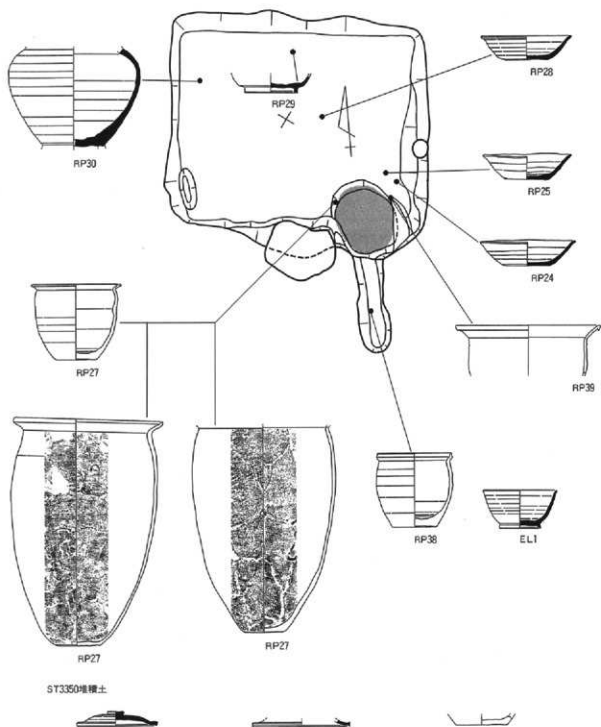


第53図 ST3340出土遺物分布図

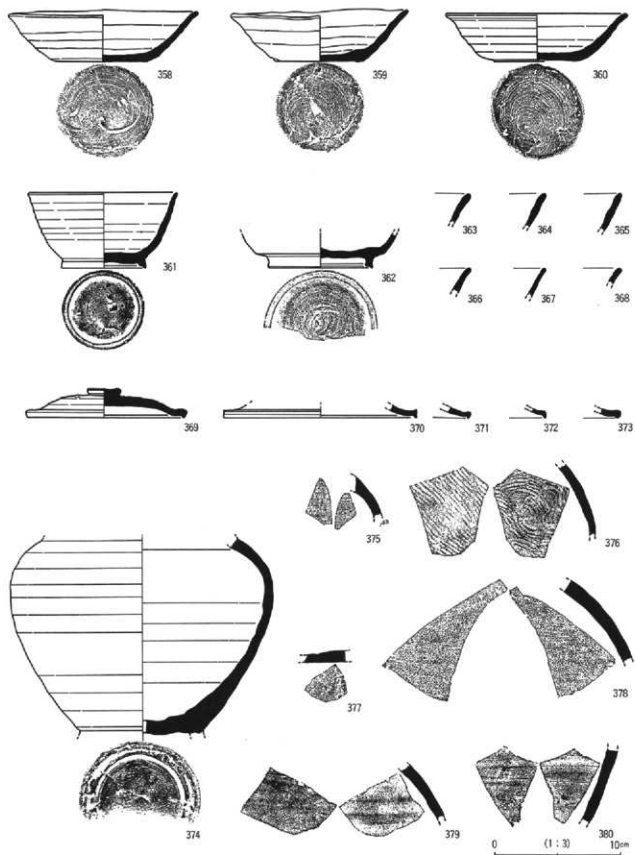


- ST3350層様土
- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト
 - 2 10Y R1.7/1 黒色シルト 地山シルト塊を含む。焼土粒を若干含む。
 - 3 7.5Y R3/1 黒褐色シルト
 - 4 10Y R1.7/1 黒色細砂質シルト
 - 5 10Y R2/1 黒色シルト 地山細砂鉄粒を若干含む。
 - 6 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂鉄粒を含む。
 - 7 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂鉄粒を多量に含む。
 - 8 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂鉄粒を若干含む。
 - 9 10Y R2/1 黒色シルト 地山シルト塊を含む。
 - 10 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト塊をやや多く含む。焼土粒・炭化物を若干含む。
 - 11 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト塊を多量に含む。
 - 12 10Y R3/3 暗褐色細砂質シルト 地山シルト塊をやや多く含む。
 - EL1
 - 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト微粒・焼土粒を含む。
 - 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト塊を含む。焼土粒を若干含む。
 - 3 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト塊を含む。
 - 4 7.5Y R2/2 黒褐色粘土質シルト 地山シルト微粒を含む。
 - 5 7.5Y R2/3 暗褐色シルト 地山シルト塊を若干含む。
 - 6 7.5Y R3/4 暗褐色粘土質シルト
 - 7 5Y R2/3 暗褐色シルト
 - 8 7.5Y R2/3 暗褐色シルト 焼土粒・地山シルト塊多量。炭化物を含む。

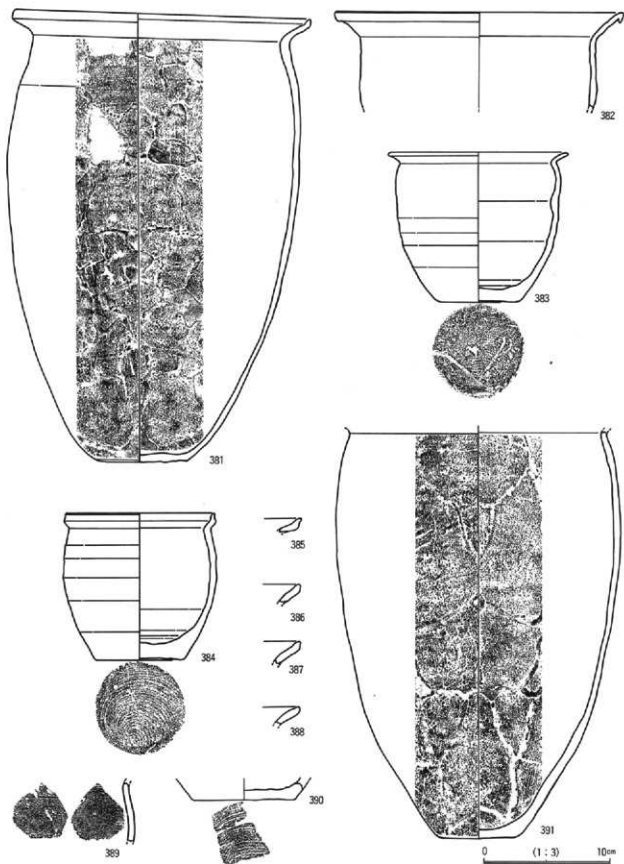
第54図 ST3350



第55図 S T 3350出土遺物分布図



第56図 S T 3350出土遺物(1)



第57図 S T 3350出土遺物(2)

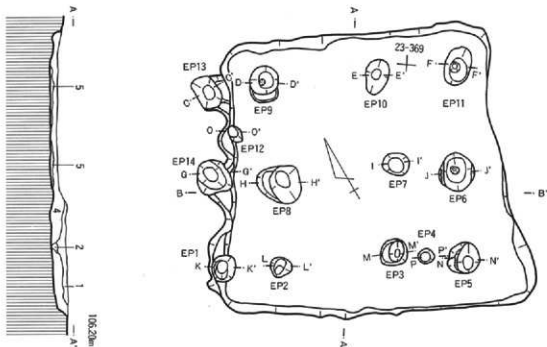
ST3224(第58図 図版43)

23・24-369・370区で検出された。規模および平面形は南北3.6~3.8m、東西3.6~4.2mの不整形を呈する竪穴状遺構である。床面は周辺部に若干の起伏が認められるものの、中央は平坦で、全般に硬くしまる。貼床は中央から北辺にかけて部分的に認められる。確認面から床面までの深さは、北東壁付近で床面近くまで削平を受けるが、概ね5~20cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。南北軸の軸方向は約25度東に振れている。

床面からは14基のピットを検出した。これらの断面観察では、大半のピットでアタリとみられる縦方向の土層の堆積が観察された。また、このうちEP4とEP12を除く12基が、東西4基×南北3基の規格性をもつ配置をとり、この配列の軸線が、竪穴の軸線とほぼ一致することから、これらは本竪穴に伴う柱穴と考えられる。各柱穴の規模、平面形は、長径で35~55cm、短径で25~45cmの円形または楕円形を呈し、床面からの深さは、25~48cmを測る。これらの配置をさらに検討した結果、EP10・13・7・14・3・1の組み合わせと、EP11・9・6・8・5・2の組み合わせの間で柱間の距離と軸線の方向に若干のずれが認められた。したがって、これらの配置は東西1間、南北2間の柱の組み合わせによる建て替えの所産と推定された。それぞれの柱間の距離は、前者が東西2.25m、南北各1.2m、後者が東西2.5m、南北各1.25mとなり、南北の軸線は後者がわずかに東に振れる。両者の新旧関係は判然としなない。遺物は出土せず、所属時期は不明である。

番号	測定区	遺構	地区	建物番号	種類	距離	法量		調査		遺物・切取	備考	分類					
							口径	深径	調査	高さ				外面	内面			
358	66	00	ST 3250	31 - 372	EP 24	須原跡	坪	151	72	41	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切	骨針	IA2			
359	66	00	ST 3250	31 - 372	EP 25	須原跡	坪	140	70	42	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切	骨針	IA2			
360	66	00	ST 3250	31 - 372	EP 28	須原跡	坪	144	68	30	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切	骨針	IA2			
361	66	61	ST 3250	EL. I	31 - 372	須原跡	高台坪	(110)	66	60	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切		IE5			
362	66	61	ST 3250	31 - 373	EP 29	須原跡	高台坪	-	82	(120)	(26)	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切	骨針	IE2		
363	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(22)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE			
364	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(25)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE			
365	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(29)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE			
366	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(19)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	IE			
367	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(22)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE			
368	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	坪	-	-	(12)	ロクロナデ	ロクロナデ			IE			
369	66	62	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	127	-	-	23	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	骨針	IE2a			
370	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	102	-	(10)	ロクロナデ	ロクロナデ			ID			
371	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	-	-	(8)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	ID			
372	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	-	-	(7)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	ID			
373	66	00	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	-	-	(7)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	ID			
374	66	09	ST 3250	32 - 373		須原跡	直	-	(208)	(154)	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	ナデ	→ELI	IO2			
375	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直?	-	-	-	ナデ				II			
376	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直	-	-	-	自然蝕・タタキ	ナデ			IF			
377	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直?	-	-	-	ロクロナデ	須原赤切・ナデ			II			
378	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直?	-	-	-	ナデ	カキメ			II			
379	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直?	-	-	-	ナデ				II			
380	66	94	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		須原跡	直?	-	-	-	ナデ			骨針	II			
381	67	74	ST 3250	EL. I	32 - 372	EP 27	土師跡	直	235	74	231	360	ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ	ナデ	→EP20 須原	EC4	
382	67	87	ST 3250	EL. I	32 - 372	EP 28	土師跡	直	(229)	-	(188)	(75)	ナデ			須原	骨針 EC2b	
383	67	81	ST 3250	EL. I	32 - 372	EP 27	土師跡	直	(143)	67	131	119	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切・ナデ		須原 EC1	
384	67	81	ST 3250	EL. I	32 - 372	EP 28	土師跡	直	(120)	71	(122)	116	ロクロナデ	ロクロナデ	須原赤切		須原 EC1	
385	67	89	ST 3250	32 - 372	EP 27	土師跡	直	-	-	(10)	ナデ					須原	EC1	
386	67	89	ST 3250	32 - 372	EP 27	土師跡	直	-	-	(14)	ナデ					須原	EC1	
387	67	89	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		土師跡	直	-	-	(18)	ナデ					須原	EC1	
388	67	89	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		土師跡	直	-	-	(13)	ナデ					須原	EC1	
389	67	87	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		土師跡	直	-	-	-	ナデ						須原	EC1
390	67	89	ST 3250	31 - 32 - 372 - 373		土師跡	直	(80)	(92)	(13)	ナデ	ロクロナデ・ハケメ	須原赤切	骨針		EC1		
391	67	75	ST 3250	32 - 372	EP 27	土師跡	直	-	61	234	(232)	ナデ・タタキ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ			須原	EC4	

第13表 ST3350出土土器観察表



ST324

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒・炭化物を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒・細砂粒・炭土粒を含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色シルト・10Y R3/3 暗褐色細砂・10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの混土。
- 4 3層に同じだが、10Y R3/3 暗褐色細砂の比率大。
- 5 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト層を若干含む、硬くしまる。

EP1

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト層を含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 1層粒・地山細砂粒を含む。

EP2

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト粒を含む、炭化物を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP3

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を多量に含む。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。
- 4 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層を若干含む。

EP4

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層をやや多く含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト層を多量に含む。

EP5

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層をやや多く含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP6

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を多量に含む。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色・黒褐色シルト層をやや多く含む。
- 4 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層を若干含む。

EP7

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層を多量に含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP8

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層を多量に含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層を多量に含む。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト・10Y R2/3 暗褐色シルトの混土。
- 4 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP9

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 褐色・暗褐色シルト粒を多量に含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP10

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 褐色・暗褐色シルト粒を多量に含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 暗褐色シルト層をやや多く含む。

EP11

- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層を含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂粒を含む。

EP12

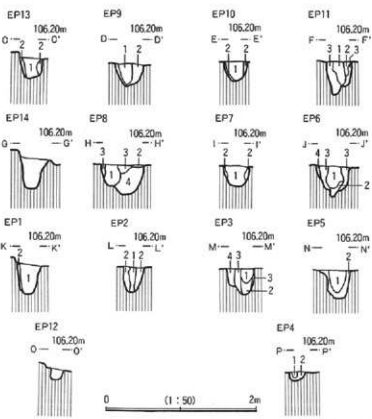
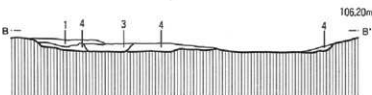
- 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト層を含む。

EP13

- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山シルト層を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 暗褐色シルト層を多量に含む。

EP14

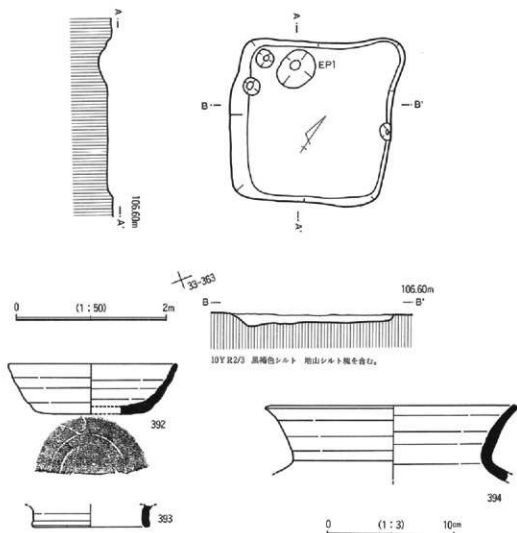
- 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト層を含む。



第58図 S T 3224

ST260(第59図 図版43 第14表)

33-364区で検出された竪穴状遺構である。規模および平面形は、一辺が2.15mで北東角が張り出す不整形を呈する。床面は、西側縁辺部で若干の起伏があり、中央から東半付近で平坦となる。貼床は認められないが全般に硬くしまっている。確認面からの深さは8~16cmを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。本竪穴の南北軸線は磁北から30度西に振れている。EP1堆積土内からは底部の切り離しが回転籠切りとなる須恵器坏(392)が出土した。このほか、竪穴の堆積土内からは、須恵器高台付坏の底部(393)、須恵器甕の口縁部(394)が出土している。これらの出土遺物から、本竪穴の所属時期は平安時代と考えられる。



第59図 ST260

番号	呼称	遺構	地区	遺物番号	類別	製種	法 量				底厚・切端	備 考	分類	
							口径	底径	胴径	高さ				
392	59	40	ST 260	EP 1	33 - 364	須恵器 坏	(134)	(86)	40	外 面	内 面	回転籠切り	骨針	1 A 1
393	59	41	ST 260		33 - 364	須恵器 高台付坏	-	(94)	(17)	口縁部	口縁部		骨針	1 B
394	59	93	ST 260		33 - 364	須恵器 甕	(202)	-	(182)	(60)	ナデ	ナデ	北へ本 骨針	1 F 1

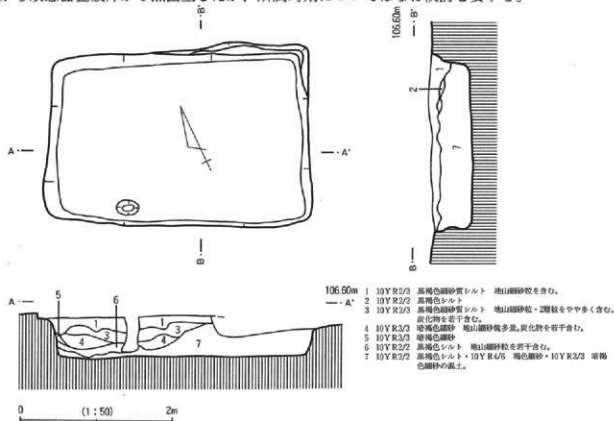
第14表 ST260出土土器観察表

ST3369(第60図 図版43)

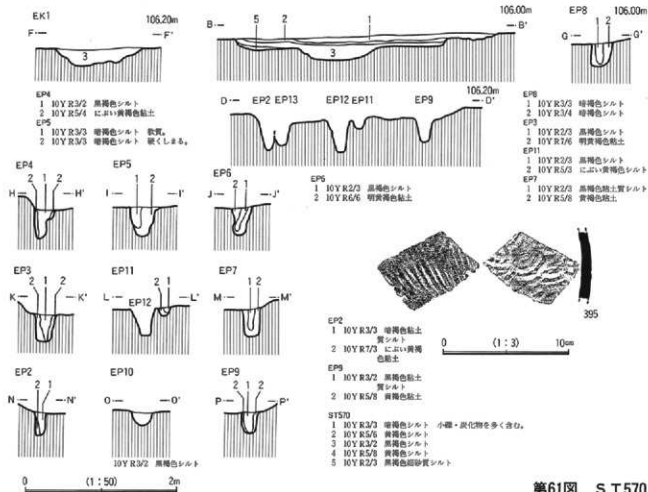
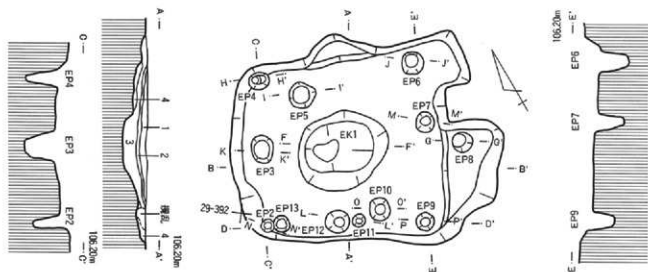
27・28-381・382区で検出された堅穴状遺構である。規模および平面形は、長辺(東西)が3.35~3.53m、短辺(南北)が2.1~2.4mの長方形を呈する。床面は平坦で、貼床は認められないが硬くしまる。確認面からの深さは52~54cmを測る。壁の立ち上がりは急である。本堅穴の長軸の軸線は磁北から65度西に振れている。床面からは、南辺西半の壁際でピットが1基検出されたほかは内部施設は検出されていない。堅穴内の堆積土は、黒色シルトと地山の細砂および砂が、径1~10cmのブロック状に混じり合ったものが主体となり、平安時代の堅穴住居跡の黒色シルトが主体となる堆積土とは明らかに異なっている。遺物の出土はなく、所属時期は不明であるが、中世以降の所産となる可能性がある。

ST570(第61図 図版43 第15表)

29・30-392・393区で検出された堅穴状遺構である。規模および平面形は、長辺(東西)が2.8~3.6m、短辺(南北)が2.35~2.75mで東辺の出入りが大きい不整長方形を呈する。床面は起伏があり、貼床は認められないが全般に硬くしまっている。確認面からの深さは10~17cmを測る。壁の立ち上がりは急である。本堅穴の長軸の軸線は磁北から65度西に振れている。床面からは、土坑1基とピット12基が検出された。これらのピットは、径18~30cmの円または楕円形を呈する。EP10とEP11を除いた10基については、床面からの深さが30~40cmあり、ほとんどのピットでアタリの痕跡が観察されたことから本堅穴に伴う柱穴とみられる。堆積土内から須恵器壺破片が1点出土したが、所属時期についてはなお検討を要する。



第60図 ST3369



第61図 ST570

番号	探検年度	遺構	地区	建物番号	観測	取説	土質					断面・切面	番号	分類
							口縁	縁部	器底	器高	外面			
361	61	94	ST 570	29-30-392-393	深淵型	傾	-	-	-	-	タタキ・カタメ	アテ		IF

第15表 ST570出土土器観察表

2 掘立柱建物跡

今回の調査では、中央の段にのるC区北西部分およびD区東半を中心に多数のピットが密に分布している。それらの中にはアタリが明確に識別できるものも多いが、現在までのところ掘立柱建物跡として認識できたものは、調査区全体で11棟にとどまっている。未だに組み合わせが確定できない各ピットの属性と位置関係については今後さらに検討を要する。

SB630(第62図 図版44)

38-346・347区で検出された。南北軸は磁北から25度西に傾き、北西約2.5mにあるST610と軸線が一致する。西半が調査区外となるが、東西1間×南北2間の規模で検出された。柱間の距離は、東西が2.2m、南北が1.58m(北側)、1.76m(南側)を測る。なおEB1に対応する北の柱穴は未検出である。各柱穴の規模、平面形は、長径で45~60cm、短径で40~54cmの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは60~85cmである。EB4では直径17cmのアタリが観察され、また、各柱穴の底面には柱を据えた痕跡が残る。遺物は出土していないが、ST610との位置関係から所属時期は平安時代と推定される。

SB18(第63図 図版44)

34・35-347・348区で検出された。南北軸は、磁北から7度西に傾く。規模は東西2間×南北2間である。柱間の距離は、東西が2.0m(西側)、1.8m(東側)、南北が2.2m(北側)、2.3m(南側)を測る。各柱穴の規模、平面形は、長径で50~90cm、短径で37~60cmの楕円または不整隅丸方形を呈し、確認面からの深さは50~75cmである。各柱穴の底面には柱を据えた痕跡が残る。遺物が出土せず、所属時期は不明であるが、軸方向や各柱穴の堆積土の状況ならびに周囲の建物跡などとの位置関係から平安時代となる可能性がある。

SB20(第64図 図版44)

36・37-354・355区で検出された。規模は東西2間×南北2間の総柱の掘立柱建物跡である。柱の並びは、東西方向では3列がほぼ平行となるが、南北方向では軸線の傾きに差があり、南北軸は柱列により磁北から10~15度のばらつきをもって西に傾く。柱間の距離は、東西が北の列で1.8m(西側)、1.5m(東側)、中央の列で1.75m(西側)、1.7m(東側)、南の列で1.7m(西側)、1.9m(東側)となり、南北がそれぞれ1.7mを測る。各柱穴の規模、平面形は、長径で42~50cm、短径で34~45cmの隅丸長方形または隅丸方形を呈する。確認面からの深さは22~52cmである。各柱穴の底面には柱を据えた痕跡が残る。遺物の出土はなく、所属時期は不明であるが、軸方向や各柱穴の堆積土の状況ならびに周囲の建物跡などとの位置関係から平安時代となる可能性がある。

SB418(第65図 図版44)

32・33-354・355区で検出された。中央の段と東の段の傾斜変換線に隣接した位置にあり、SD110と重複してこれを切っている。規模は東西3間×南北1間である。長軸は磁北から70度西に傾く。柱間の距離は、東西では北の列で1.4m(西側)、2.05m(中央)、1.55m(東側)、南の列で1.65m(西側)、1.85m(中央)、1.5m(東側)となり、南北ではそれぞれ3.35mを測る。各柱穴の規模、平面形は、径24~40cmの円または不整隅丸方形を呈し、確認面からの深さは

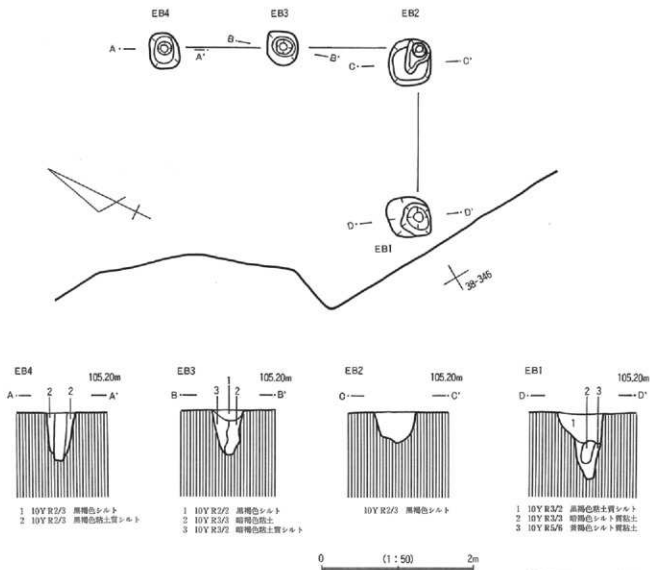
北の列で30~67cm、南の列で17~43cmを測る。遺物は出土せず、所属時期は不明である。

SB577(第66図)

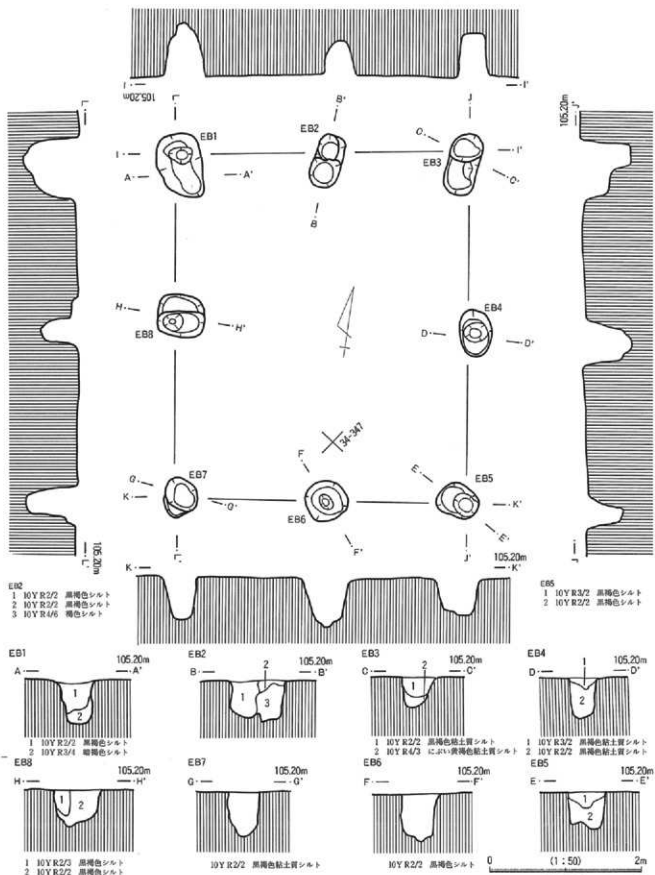
34・35-368・369区で検出された。規模は東西2間×南北2間の総柱の掘立柱建物跡である。南北軸は磁北から10度東に傾いている。柱間の距離は、東西がそれぞれ2.15m、南北がそれぞれ1.8mを測る。各柱穴の規模、平面形は、径26~42cmの円形を呈する。確認面からの深さは22~35cmである。遺物の出土はなく、所属時期は不明であるが、軸方向や各柱穴の堆積土の状況ならびに周囲の建物跡などの位置関係から平安時代となる可能性がある。

SB3238(第67図 図版44)

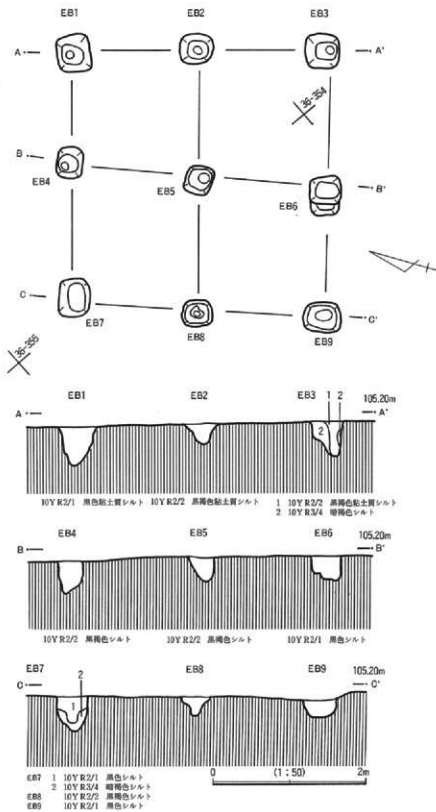
23・24-370~372区で検出された。南北軸は、磁北から20度東に傾く。規模は東西2間×南北3間で、西に庇がつく構造と考えられる。柱間の距離は、東西がそれぞれ2.25mで庇部分が1.1m、南北が2.4m(北側)、2.85m(中央)、2.6m(南側)を測る。各柱穴の規模、平面形は、長径で37~68cm、短径で34~53cmの円または楕円形を呈する。確認面からの深さは37~



第62図 SB630



第63図 SB18

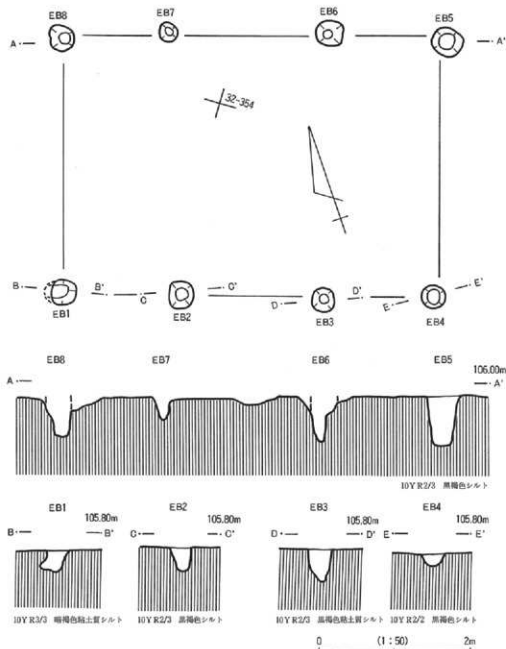


第64図 S B 20

62cmを測るが、南北各列の中央に配置されるEB2で20cm、EB13で16cmと浅くなっている。EB1およびEB7の断面観察ではアタリが確認された。遺物が出土せず、所属時期は不明であるが、堆積土の状況や構造から中世以降となる可能性が高い。

SB578(第68図 第16表)

31-32-370-3717区で検出された。南北軸は磁北から24度西に傾き、北西に隣接するST3330と軸線が一致する。規模は東西2間×南北2間とみられるが、東辺中央の柱穴は未検出である。柱間の距離は、東西がそれぞれ1.5m、南北が1.75m(北側)、1.5m(南側)を測る。各柱



第65図 SB418

穴の規模、平面形は、長径で45～50cm、短径で36～43cmの楕円または隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは16～42cmである。EB 2 では直径8cmのアタリが観察された。EB 7 から須恵器片の破片が出土しており、また、ST3330との位置関係から所属時期は平安時代と推定される。

SB3360(第69図 図版45 第16表)

32・33-372・373区で検出された。ST3350と重複しこれに切られている。南北軸は、ほぼ磁北に平行し、ST3350と軸線が一致する。規模は南北は2間であるが、東西は北辺で2間、南辺で3間と変則的である。柱間の距離は、東西が北辺で各1.9m、南辺で1.24m(西側)、1.03m(中央)、1.53m(東側)、南北が1.7m(北側)、1.97m(南側)を測る。各柱穴の規模、平面形は、長径で約70cm、短径で60～65cmの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは28～33cmと規格性が強いが、南辺中央のEP 4 とEP 5 はひとまわり小さく、一辺50cm前後の隅丸方形プランで、深さ25cm前後とやや浅い。また、配置も南に突出している。各柱穴からアタリは確認されなかったが、底面が平坦で硬くしまり、EB 7 およびEB 9 の底面には柱を据えた痕跡が残る。遺物はEB 2 から須恵器高台付環(396)、EB 6 から土師器環(397)の破片が出土した。所属時期は平安時代と推定される。

SB440(第70図 図版44)

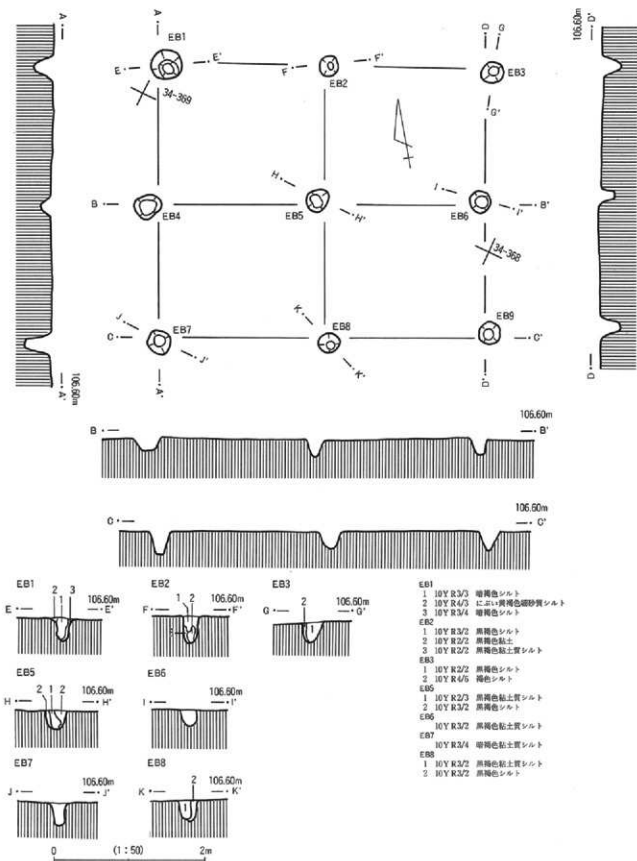
30・31-385・386区で検出された。規模は東西2間×南北1間となる。南北軸は磁北から73度西に傾いている。柱間の距離は、東西が3.15m(西側)、2.42m(東側)、南北3.84mを測る。各柱穴の規模、平面形は、径30～35cmの円形を呈する。確認面からの深さは平面の規模に比較して深く、45～62cmを測る。また、EB 1 からは直径16cmのアタリが検出されている。遺物の出土はなく所属時期は不明であるが、検出地点や構造、軸方向などから中世以降の所産となる可能性が高い。

SB430(第71図 図版44)

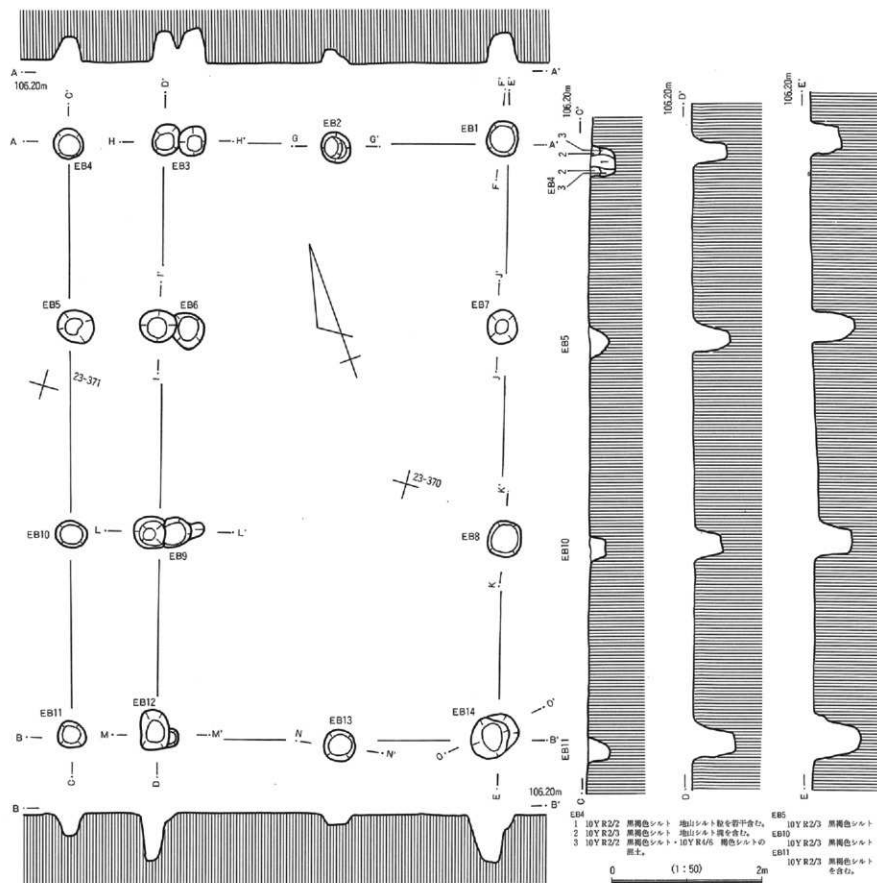
25～26-386・387区で検出された。規模は東西1間×南北3間である。南北軸は磁北から27度東に傾いている。柱間の距離は、東西が4.2m、南北が2.4m(北側)、2.03m(中央)、2.08m(南側)を測る。各柱穴の規模、平面形は、長径35～68cm、短径34～50cmの円または楕円形を呈する。確認面からの深さは37～64cmを測る。遺物は出土せず、所属時期は不明であるが、検出地点や柱穴の構造などから中世以降の所産と推定される。

SB560(第72図 図版44)

29・30-391・392区で検出された。規模は東西1間×南北3間である。南北軸は磁北から30度東に傾いている。柱間の距離は、東西が3.9m、南北がそれぞれ2.6mを測る。各柱穴の規模、平面形は、長径50～95cm、短径42～65cmの円または不整楕円形を呈する。確認面からの深さは50～67cmを測る。EB 2 とEB 3 からは、それぞれ径17cmと14cmのアタリが検出されている。遺物の出土はなく所属時期は不明であるが、検出地点や柱穴の構造などから中世以降の所産と推定される。



第66図 S B577



EB1



- 1 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を多量に含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山シロト襦を多量に含む。

EB3



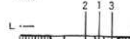
- 1 10Y R2/1 黒褐色シロト 地山シロト襦を若干含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シロト・10Y R4/6 褐色シロトの混入。
- 3 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。
- 4 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を多量、粗砂を含む。

EB7



- 1 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山粗砂襦を含む。
- 2 10Y R2/2 暗褐色粗砂 地山シロト襦を多量に含む。
- 3 10Y R3/3 暗褐色シロト・10Y R2/2 黒褐色シロトの混入。

EB9



- 1 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山シロト襦を若干多く含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色シロト・10Y R4/6 褐色シロトの混入。
- 4 10Y R2/2 黒褐色シロト・10Y R4/6 褐色シロトの混入。
- 5 10Y R3/3 暗褐色粗砂・黒褐色シロト 地山シロト襦を多量、粗砂を含む。

EB13



- 1 10Y R1.7/1 黒褐色シロト 地山シロト襦を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シロト 黒褐色シロト襦を含む。

EB2



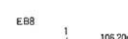
- 1 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。

EB6



- 1 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シロト・10Y R4/6 褐色シロトの混入。

EB8



- 1 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山粗砂襦を含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山粗砂襦を若干含む。
- 3 10Y R3/3 暗褐色粗砂・10Y R2/2 黒褐色シロトの混入。

EB12



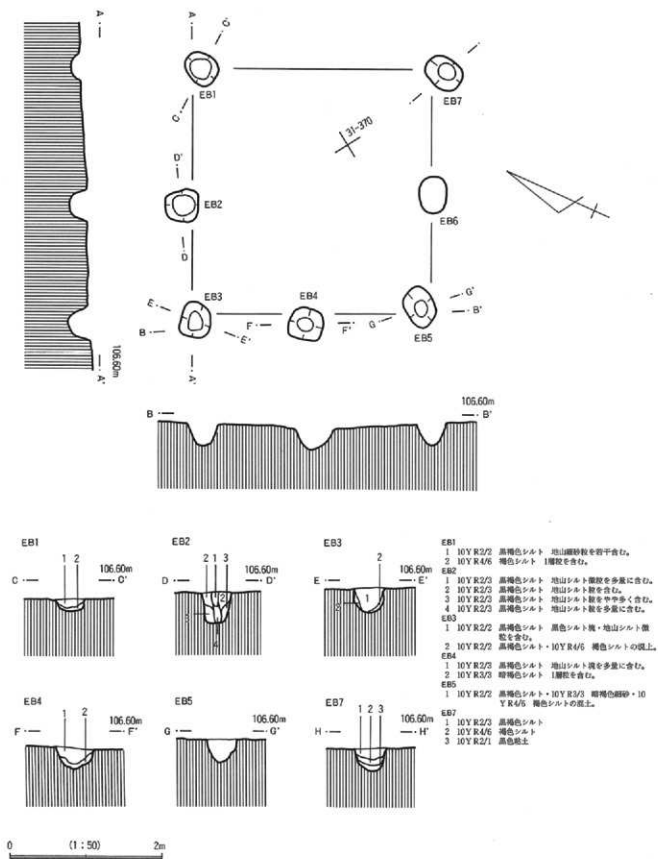
- 1 10Y R2/3 黒褐色シロト・10Y R4/6 褐色シロトの混入。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。

EB14



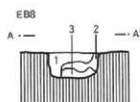
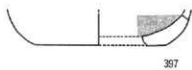
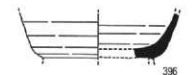
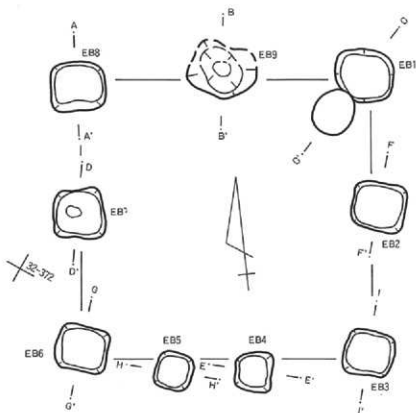
- 1 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山粗砂襦を若干多く含む。
- 2 10Y R2/1 黒褐色シロト 地山シロト襦を含む。
- 3 10Y R2/1 黒褐色シロト
- 4 10Y R2/2 黒褐色シロト 地山シロト襦を若干含む。

第67図 S B 3238

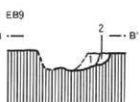


第68図 SB578

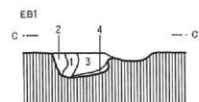
遺構と遺物



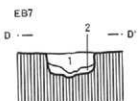
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの混土。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。



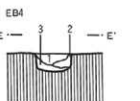
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト
- 2 10Y R4/6 褐色シルト



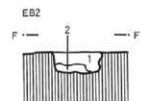
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を多量に含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色シルト 炭化物を若干含む。
- 4 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒を含む。



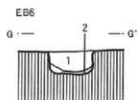
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。



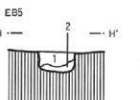
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの混土。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒を含む。



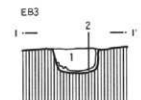
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。



- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。



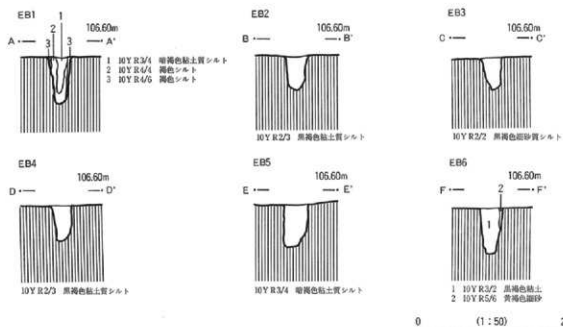
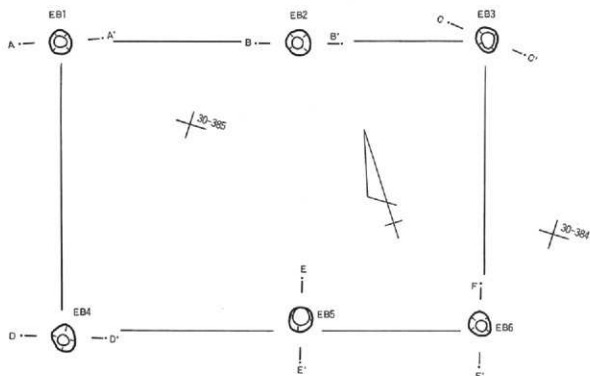
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。



- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト粒を若干含む。
- 2 10Y R4/6 褐色シルト 黒褐色シルト粒をやや多く含む。

0 (1:50) 2m

第69図 S B3360

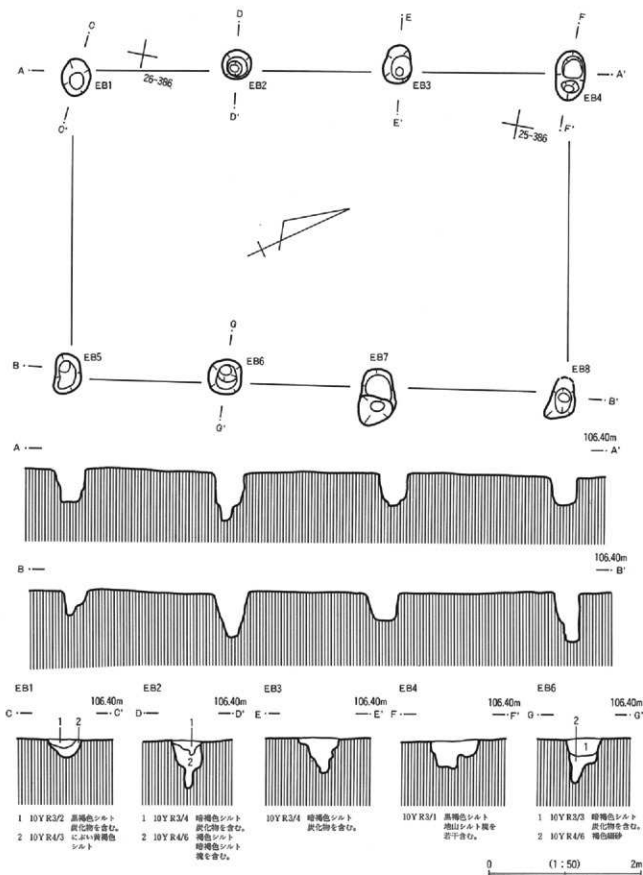


第70図 S B40

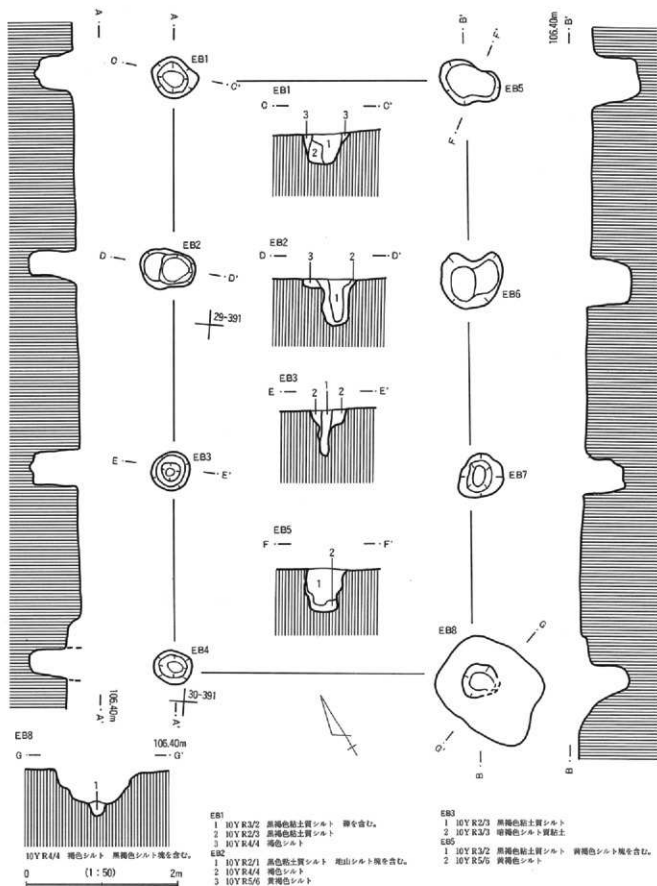
番号	層位	層名	地区	遺物番号	種別	母種	数量				調査		形状・特徴	備考	分類	
							口縁	底縁	胴部	器底	外周	内面				
306	09	5B 3060 EB 2	31 - 372		須磨器	高台付杯	-	-	[122]	[36]	ロクロナデ	ロクロナデ			骨針	I B
307	09	5B 3060 EB 5	32 - 372		土師器	杯	-	(101)	[130]	[24]	ケズリ	内底・ミガキ			骨針	II A
323	71	5B 578 EB 7	31・32 - 370		須磨器	杯	-	-	-	[33]	ロクロナデ	ロクロナデ			骨針	I E

第16表 掘立柱建物跡出土土器観察表

遺構と遺物



第71図 S B430



第72図 S B560

3 井戸跡

井戸跡は8基検出された。その内訳は、素掘り井戸6基、石組井戸2基である。これらは、東西の各段に1基ずつ分布するほかは中央の段にあり、特にD区では4基が集中して検出されている。以下ではこれらの井戸跡について個別の概要を述べる。

SE640(第73・74・79・80図 図版45 第17表)

37・38-344・345区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は長軸5.8m、短軸4.78mの楕円形を呈する。確認面からの深さは2.8mを測る。壁の立上がりは急であり、北半では確認面から底面まで5段の階段状の段差が検出された。底面は長軸2m、短軸1.8mの卵形で平坦であるがやや丸みを帯びる。さらに北半では長軸1m、短軸0.6mの楕円形に一段(約45cm)低くなる。

堆積土は11層に分けられた。粘性が強い暗褐色シルトを主体として縞状に堆積がみられ、自然埋没と判断された。底面は砂礫層であり調査時には湧水は認められなかった。

出土遺物は第79図・80図に掲載した。1～3層を主体に平安時代の遺物がまぎれまぎれに出土している。供膳形態では、底部切り離しが回転施切りと底径の大きな回転糸切りの須恵器坏が拮抗し、これに回転糸切りの高台付坏、蓋が伴う(398～425)。貯蔵形態では縞描波状文のある甕の頸部破片と長頸壺の肩部破片が得られている(426・427)。煮沸形態もすべて破片資料であるが底部に回転糸切り痕のある小形の土師器甕、内外面にハケメ調整の施された大形の甕の体部破片が出土した(428～441)。

SE3150(第74・81図 図版46 第17・22表)

26-359区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は径約3mの不整形円形を呈する。湧水と崩落のため正確な底面の確認はおこなえなかったが、確認面からの深さは2.4m以上となる。壁の立上がりは急である。確認面下80cm付近までは垂直に掘り込まれ、地山が砂礫層となるそれ以下の壁面には傾斜がつく。

堆積土は10層に分けられた。黒褐色シルトを主体としてレンズ状あるいはちぎれ状の堆積がみられ、埋没過程で水の影響を強く受けていることをうかがわせる。また、壁面の崩落土の流れ込みも顕著にみられた。図中の11層は縦方向に細かなクラックが入った地山細砂であり、12層は同じ状況の砂礫層である。

出土遺物は第81図に掲載した(442～447)。5点の平安時代の遺物とともに竜泉窯系とみられる青磁の破片(447)が出土している。本井戸跡の所属時期は中世以降と考えられる。

SE240(第75図 図版46 第17表)

31・32-366・367区で検出された石組井戸である。掘り方の規模および平面形は、長軸3.8m、短軸2.6mの楕円形を呈する。立上がりは急であり、特に南半部分では垂直に近く掘り込まれている。堆積土は6層に分けられた。礫を多量に含む黒褐色シルトを主体としており、硬くつきかためられている。

石組部は掘り方の東寄りに配置される。石組は長さ30cm、幅15cm、厚さ10cm前後の礫を主体として放射状に積み重ねられている。上部は完全に埋没する以前に崩れていたが、残存分

で27段の積み上げが確認された。石組の内壁は、下半部がやや広くなるもののほぼ垂直で、内径60～70cmを測る。石組内の堆積土は、黒褐色シルトの単一層で下部ほどグライ化と粘質化が顕著である。確認面から底面までの深さは3.1mを測る。底面は砂礫層下約2.2mにあり、石組最下部よりさらに10cm掘り下げられている。底面から上30cm付近までは、現在でも湧水が確認された。

遺物は外面に平行タタキ、内面に青海波アテが施された須恵器甕の体部破片(448)が1点出土した。本井戸跡の所属時期はその構造から中世以降と考えられる。

SE3380(第76・81図 図版46 第22表)

24・25-381・382区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は長軸2.6m、短軸2.3mの不整楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは2.0mとなる。壁の立ち上がりは垂直に近いが、確認面下80cm以下では傾斜がつく。底面は砂礫層下約1.2mにあり、径約1.1mの不整形で平坦となる。また、底面付近には若干の湧水が確認された。堆積土は11層に分けられる。1・2層は礫層を多量に含む黒褐色シルトであるが、それ以下では地山崩落土と黒褐色シルトの互層となり、レンズ状、ちぎれ状の堆積がみられる。遺物は珠洲系陶器の播鉢の破片が出土した(449・450)。本井戸跡の所属時期は中世以降と考えられる。

SE3388(第76・81図 図版46 第22・23表)

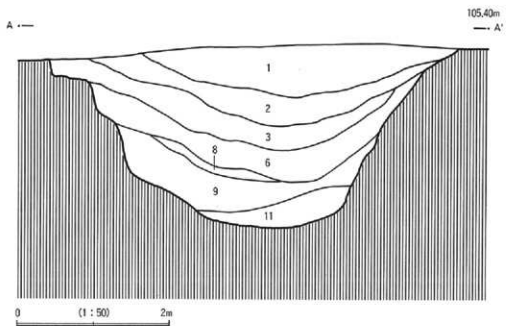
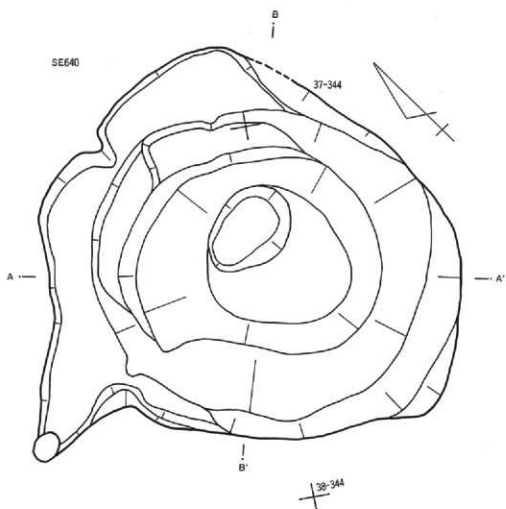
21・22-384区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は一辺約2.8mの隅丸方形を呈する。確認面から底面までの深さは2.05mとなる。壁の立ち上がりは急である。底面は砂礫層下約0.9mにあり、径約2mの円形となる。現在でも豊富な湧水がある。堆積土は14層に分けられた。地山砂礫の崩落は認められないが、基本的にはSE3380と同様の堆積状況が確認された。11層以下はグライ化が顕著である。遺物は石甕が1点(455)のほか、珠洲系陶器の播鉢の破片(451)出土している。本井戸跡の所属時期は中世以降と考えられる。

SE3400(第77・78図 図版48 第17表)

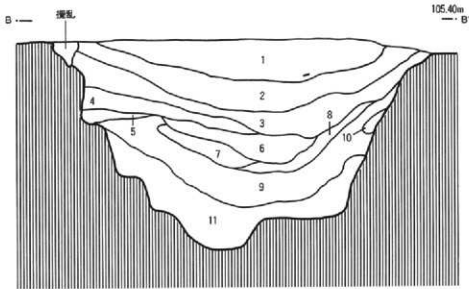
24・25-384・385区で検出された石組井戸である。掘り方の規模および平面形は、長軸5.4m、短軸4.5mの楕円形を呈する。立ち上がりは急であり、北半部分では垂直に近く掘り込まれている。堆積土は4層に分けられた。礫を含む暗褐色粘土質シルトを主体としており、硬くつきかためられている。

石組部は掘り方の北東壁に隣接して設置されている。石組はSE240と同様の構築方法をとるが、使用された礫の大きさにばらつきがあり、積み方がかなり粗雑な印象を受けた。確認面から40cm付近までは石組が崩落し、残存部分で14～17段の積み上げが確認された。石組の内壁はほぼ垂直で、内径90cmを測る。石組内の堆積土は3層に分けられた。細かな礫を含む黒褐色のシルトと粘土を主体とし、下層ほど粘質化が顕著にみられる。確認面から底面までの深さは2.3mを測る。底面は砂礫層を約1.2m掘り込んだところにあり、礫の敷設が認められた。湧水は底面付近で豊富にみられる。

遺物は底部に回転糸切り痕のある小形の土師器甕の体部破片(452)が1点出土した。本井戸跡の所属時期はその構造から中世以降と考えられる。



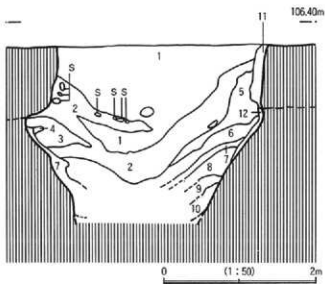
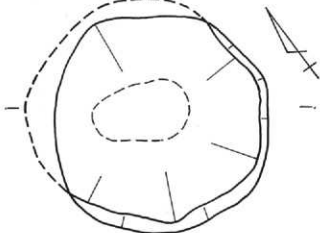
第73図 SE640



SE640

- 1 10Y R3/2 暗褐色シルト
- 2 10Y R3/4 暗褐色粘土質シルト 門跡を若干含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色シルト・同細砂の互層
- 4 10Y R5/3 におい・黄褐色粘土質シルト 黄褐色粘土塊を含む。
- 5 10Y R3/4 暗褐色粗砂
- 6 10Y R2/3 暗褐色粘土質シルト
- 7 10Y R4/4 褐色粗砂・同細砂の互層
- 8 10Y R1.7/1 黒色粘土質シルト
- 9 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト 門跡を若干含む。
- 10 10Y R5/6 黄褐色粘土 地山崩落土。
- 11 10Y R3/4 暗褐色シルト 地山粘土質・粗砂を含む。

SE3150

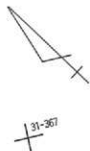


SE3150

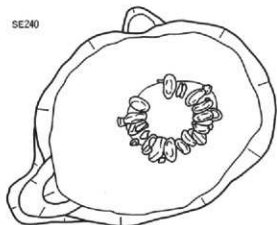
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 粗砂・風化層・地山シルト層を含む。炭化物を若干含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 粗砂・礫多量。地山シルト殻を含む。
- 3 10Y R4/6 褐色シルト 地山崩落土・土層を露出を含む。
- 4 10Y R3/3 暗褐色砂
- 5 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの互層
- 6 10Y R4/6 褐色シルト 地山崩落土・土層を含む。
- 7 10Y R2/3 黒褐色シルト 礫を含む。
- 8 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの互層
- 9 10Y R2/3 黒褐色シルト 砂・地山シルト殻を多量に含む。
- 10 10Y R4/6 褐色細砂質シルト 黒褐色シルト・砂・風化層を多量に含む。

第74図 SE640・SE3150

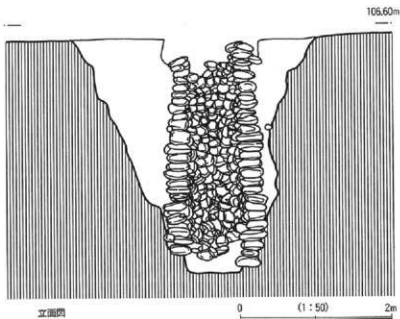
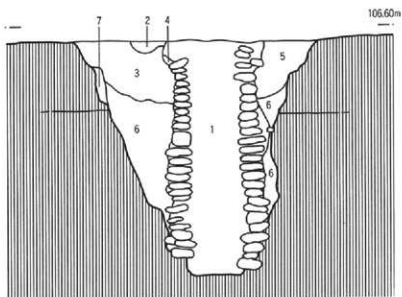
遺構と遺物



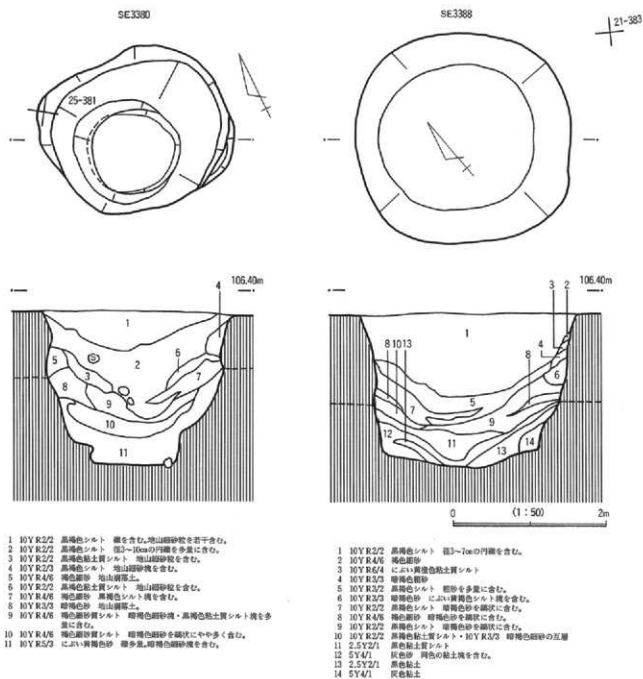
SE240



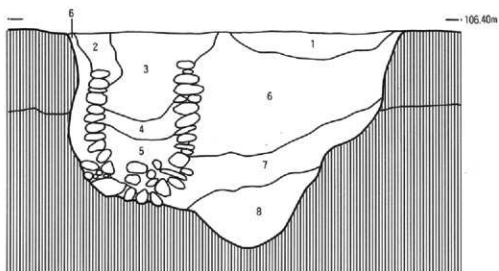
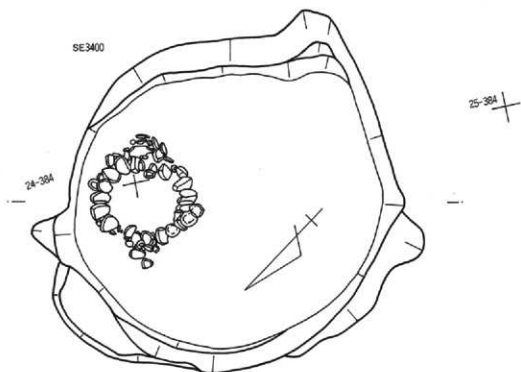
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 径3cm以下の小礫を多量に含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト
- 3 10Y R3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルトをほぼ完全に含む。径3cm以下の礫を多量に含む。
- 4 10Y R3/2 黒褐色シルト
- 5 10Y R2/2 黒褐色シルト 黒褐色シルト塊・礫を含む。
- 6 10Y R3/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの互層。礫を多量に含む。
- 7 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの互層。



第75図 SE240

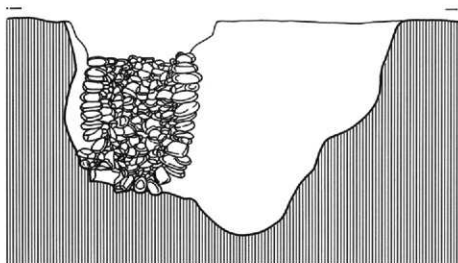


第76図 SE3380・SE3388

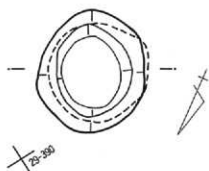


- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 細砂・小礫多量。地山崩砂粒やや多く含む。礫を含む。炭化物を若干含む。
- 2 10Y R3/3 暗褐色砂 黒褐色シルト多量。礫をやや多く含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色シルト 細砂・礫を含む。
- 4 10Y R2/1 黒色粘土
- 5 10Y R3/2 黒褐色粘土 小礫を含む。
- 6 10Y R3/3 暗褐色粘土質シルト 礫を含む。
- 7 10Y R5/4 濃い黄褐色細砂 礫を多量に含む。
- 8 5G Y5/1 オリーブ灰色粘土

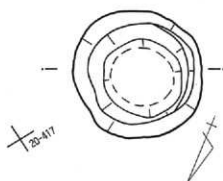
0 (1:50) 2m



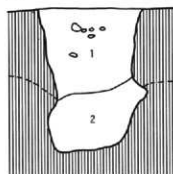
SE550



SE3002

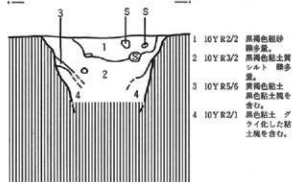


106.40m



1 10Y R3/2 黒褐色シルト
2 10Y R2/2 黒褐色粘土・10Y R6/5 明黄褐色シルトの互層

106.40m



1 10Y R2/2 黒褐色粗砂
 膠多量。
2 10Y R3/2 黒褐色粘土質
シルト 膠多
量。
3 10Y R5/5 黄褐色粘土
黒色粘土塊を
含む。
黒色粘土 グ
ライ化した粘
土塊を含む。

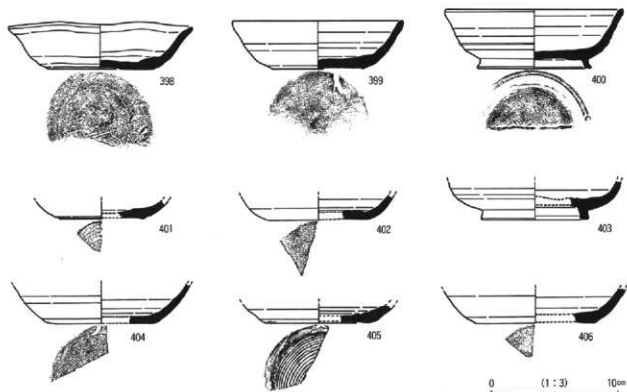
第78図 SE3400・SE550・SE3002

SE550(第78図 図版46)

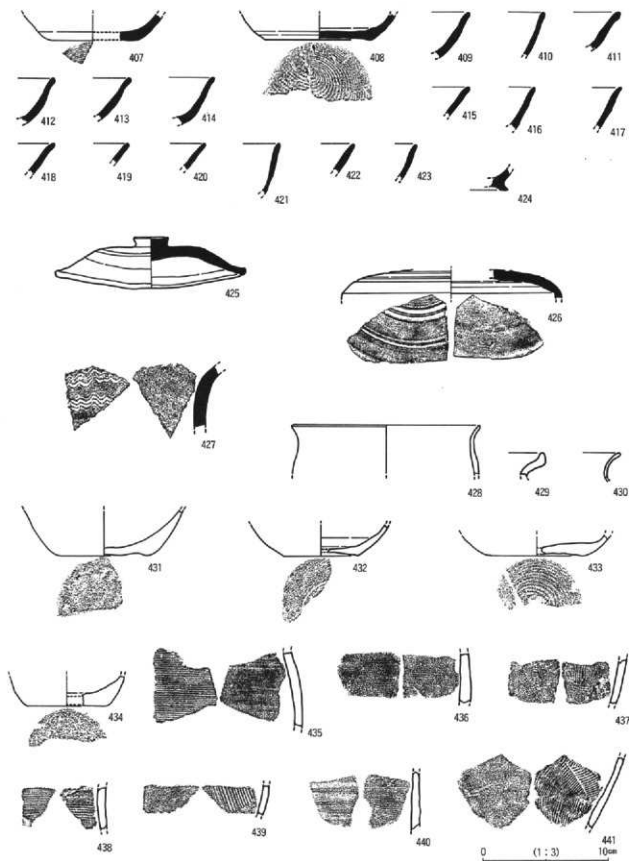
30-390・391区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は長軸1.6m、短軸1.4mの不整楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは1.9mを測る。壁は急で、ほぼ垂直に近く立上がる。底面は砂礫層下約75cmにあり、長軸94cm、短軸76cmの楕円形を呈する。また、底面は平坦であるが北東に向かって緩く傾斜している。砂礫層中からは現在も湧水していることが確認された。堆積土は2層に分けられる。1層は礫を含む黒褐色シルト、2層は地山シルトの崩落土と黒褐色粘土の互層となる。なお、2層は砂礫層が壁面となるところに堆積し、この部分は崩落のためかオーバーハングが顕著であるが、砂礫の流れ込みはほとんど認められなかった。遺物は出土しておらず、所属時期は不明である。

SE3002(第78・81図 図版46 第17・22表)

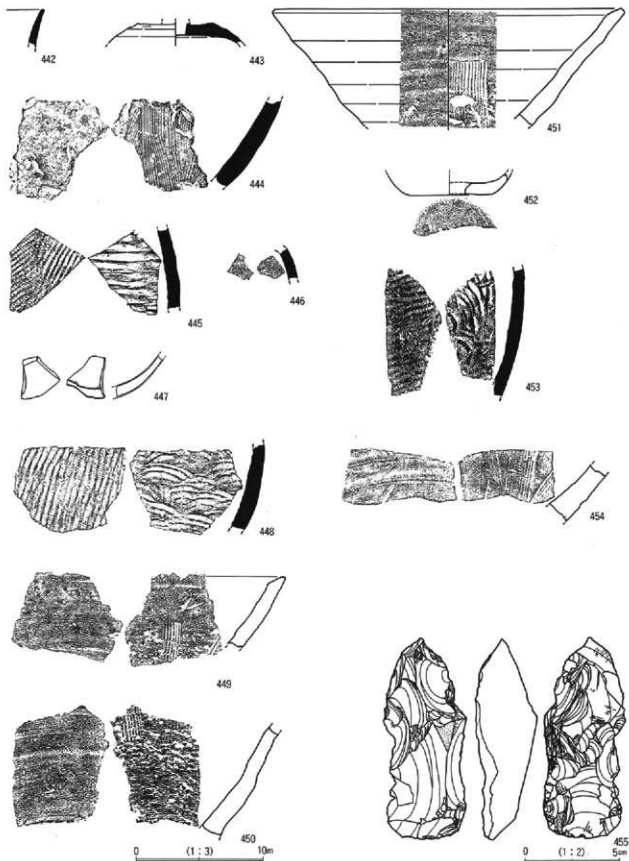
今回の調査ではもともと西となるA区の21-417・418区で検出された素掘り井戸である。規模および平面形は径1.7~1.8mの不整円形を呈する。湧水のため正確な底面の確認はおこなえなかったが、確認面からの深さは0.9m以上となる。壁の立上りは急である。確認面下40cm付近から豊富な湧水がみられた。堆積土は4層に分けられる。色調は黒褐色を主体とし、1・2層は礫を多量に含んだ粗砂とシルトであり、それ以下は粘性のきわめて強い粘土となる。なお、4層以下ではグライ化が顕著に観察された。遺物は外面に平行タタキ、内面に青海波アテが施された須恵器壺の体部破片(453)、内面に卸目が残る珠洲系陶器播鉢の破片(454)が出土した。本井戸跡の所属時期は中世以降と考えられる。



第79図 井戸跡出土遺物(1)



第80図 井戸跡出土遺物(2)



第81図 井戸跡出土遺物(3)

番号	坪田	支数	遺構	地区	遺物番号	種類	面積	造 度			開 削		底部・切階	備考	分類
								口径	底径	脚径	外 面	内 面			
398	79	60	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(145)	84	37	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切・ナデ	骨針	I A1
399	79	60	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(135)	(71)	38	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切・ナデ	骨針	I A1
400	79	61	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	高合付井	-	(142)	(90)	47	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切・ナデ	骨針	I B4
401	79	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(88)	(87)	(13)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A2
402	79	68	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(80)	(117)	(18)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A1
403	79	68	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	高合付井	-	(86)	(136)	(29)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I B
404	79	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(85)	(138)	(30)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A1
405	79	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(82)	(113)	(14)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A2
406	79	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(94)	(143)	(26)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A1
407	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(64)	(105)	(20)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A3
408	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	(83)	(119)	(20)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	I A2
409	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(36)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
410	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(34)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
411	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(28)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
412	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(34)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
413	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(33)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
414	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(36)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
415	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(22)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
416	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(32)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
417	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(31)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
418	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(23)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
419	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(14)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
420	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(19)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
421	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(38)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
422	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(21)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
423	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	井	-	-	-	(27)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
424	80	69	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	高合付井	-	-	-	(17)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I B
425	80	62	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	蓋	151	-	-	41	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ			I D2a
426	80	94	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	蓋	-	-	(176)	22	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I F1
427	80	94	SE 640	37・38 - 344・345	環壕跡	蓋	-	-	-	-	ナデ・環壕底状文	ナデ		骨針	I F1
428	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	(150)	-	(148)	38	ナデ	ナデ		被焼	B C1
429	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	(18)	ナデ	ナデ		被焼	B C1
430	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	(20)				被焼	B C1
431	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	(70)	(122)	35			被焼	B C
432	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	(59)	(106)	24		ハケメ	被焼	骨針 I C1
433	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	井	-	-	(78)	(113)	16	ナデ	内面・ヒガキ	被焼	骨針 I C1
434	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	井	-	-	(85)	(90)	25		ロクロナデ?	被焼	B C1
435	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ハケメ	ナデ		骨針	B C
436	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ハケメ	ナデ		被焼	骨針 B C
437	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ナデ	ハケメ		被焼	骨針 B C
438	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ハケメ	ハケメ		被焼	B C
439	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ナデ	ハケメ		被焼	B C
440	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ナデ・ハケメ	ハケメ		被焼	B C
441	80	88	SE 640	37・38 - 344・345	土師器	甕	-	-	-	-	ナデ	ハケメ		被焼	骨針 I E
442	81	69	SE 3150 F 1	25 - 359	環壕跡	井	-	-	-	(28)	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I E
443	81	62	SE 3150 F 1	25 - 359	環壕跡	甕	-	-	(102)	14	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ		骨針	I D2
444	81	94	SE 3150	25 - 359	環壕跡	甕?	-	-	-	-	ナデ	ナデ		骨針	I F1
445	81	94	SE 3150 F 1	25 - 359	環壕跡	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ		骨針	I F
446	81	94	SE 3150 F 1	25 - 359	環壕跡	甕?	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		骨針	I F
448	81	94	SE 240	31・32 - 366・367	環壕跡	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ		骨針	I F
452	81	SE 3400	24・25 - 394・395	土師器	甕	-	-	(69)	(92)	15	ロクロナデ	ロクロナデ	回転裏切	骨針	B C1
453	81	94	SE 3002 F 1	21 - 417・418	環壕跡	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ		骨針	I F

第17表 井戸跡出土土器観察表

4 溝跡

調査区内からは多くの溝跡が検出された。その大半は幅15～30cm、深さ5～15cm程度の小規模なものである。これらは畑の畝跡や、スプリンクラーの道管埋設の痕跡と考えられる。それらと明らかに区別可能な構造をもつもの、あるいは遺物が出土した溝跡は、6条検出されている。以下ではこの6条の溝跡についてその概要を述べる。

SD3010(第82・83・89・90図 図版49 第18・22・23表)

32～39-325～342区でほぼ東西方向に直線的に88mにわたって検出された。東西両端は調査区外に続く。東半部では、幅2.3～4.1m、確認面からの深さ55～84cmを測る。西半部では、幅1.6～2.5m、確認面からの深さ88～102cmとなる。以上のように、幅は西に向かって狭くなり、深さは深くなる傾向がみられた。壁の立上りは比較的急で、西に向かって傾斜が強くなる。底面は、東半部では丸みをもって立上がるが、西半部では平坦部分がほとんどなくなり、断面の形状はV字形に近くなる。

土層の堆積状況は、観察した地点によって差があるものの、地山土を小ブロック状に含んだ黒褐色の砂っぽいシルトを主体としている。

遺物は出土数量は少ないが、多様なものが得られている。456は節理割れをおこした頁岩の原石から剥片剥離を試みた石核、457は磨製石斧の基部で、ともに縄文時代の所産と考えられる。そのほか、平安時代とみられる外面平行タタキ、内面青海波アテ痕のある須恵器壺破片(461)、近世の染付の小形の蓋の破片(462)などが出土した。本溝跡の構築時期は判然としないものの、埋没は近世以降と考えられる。

SD3035(第84・90図 図版49 第18・22表)

25～27-338～339区でほぼ南北方向に8.3mにわたって検出された。北端は調査区外に続き、南端は東の段への傾斜変換線付近で消滅する。幅1.4～3.0m、確認面からの深さ20～25cmを測る。溝の両辺は南半部でかなり出入りがあるが、全体としては緩くS字状に蛇行している。壁の立上りは比較的急である。底面は広くつくられているが、細かな起伏が多く平坦部分がほとんどない。堆積土は地山シルト・細砂と炭化物を粒状に含んだ黒褐色シルトで、下部は粘性がかなり強い。遺物は平安時代とみられる外面平行タタキのある須恵器壺破片(463)、中世陶器挿鉢の破片(464)などが出土した。本溝跡の構築時期は判然としないものの、埋没は中世以降と考えられる。

SD3055(第85図 図版49)

25～32-353～355区で38.7mにわたって検出された。北端は調査区外に続き、南端は東の段への傾斜変換線付近で消滅する。ほぼ直線的に走行するが、北から32m付近でわずかに蛇行する。走行の軸は直線部分で磁北から約25度東に傾く。北半部では、幅80～90cm、確認面からの深さ40cm前後を測る。南半部では幅、深さともに漸移的に小規模化し、蛇行部分では幅30～40cmとなる。壁の立上りは急である。底面は平坦である。堆積土は最大3層に分かれるが、主体となる1層の黒褐色シルトは全域にみられ、2・3層は南半部では消滅する。遺物は磨滅した土器片が2点出土したのみである。構築時期、性格ともに不明である。

SD3271(第86・90図 図版49 第18表)

20~29-388~394区で直線的に63.5mにわたって検出された。南北両端は調査区外となる。走行の軸は磁北から約60度東に傾いている。幅2.4~3.0m、確認面からの深さ160cm前後を測る。壁の立上りは急であり、特に上半部に比べて下半部の傾斜がより急となっている。壁面は確認面から90cmより下では砂礫層となっており、全域で豊富な湧水が確認されている。底面はV字に近いが、堆積土の最下層が硬くしまった粘土層となっており、その上面では幅1m前後の平坦な面となる。

堆積土は観察地点によって差がある。第86図では21-389区に設定したベルトの断面を掲載した。この地点では15層に分けられた。堆積土の主体は黒褐色シルトで、全体的には、中央がくぼんだ縞状の互層となる。5層以下ではグライ化が顕著に認められ、下層に向かうにしたがって土質の粘性が強まる傾向がみられた。こうした水の影響を強く受けた埋没の状況は、本溝跡が水路として機能していた可能性を示唆するものである。

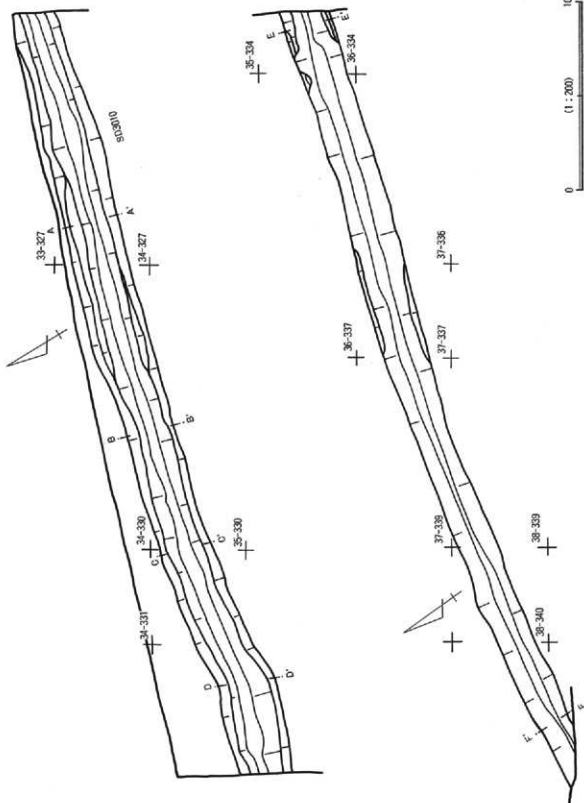
遺物は、平安時代と思われる厚手の須恵器甕体部破片(466)が1点出土した。埋没時の流れ込みと考えられる。本溝跡の構築時期および埋没時期は判然としないが、いずれも中世以降となる可能性が高い。

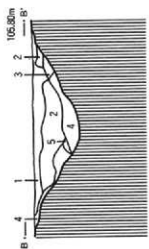
SD110(第87・90図 図版49 第18表)

32~34-3354~359区で、ほぼ東西方向に25mにわたって検出された。中央の段から東の段へ下がる傾斜変換線に沿ったかたちで位置している。溝の周囲は浅い落ち込みに囲まれており、本体の縁辺も出入りが大きく、幅30~100cmとばらつきがある。確認面からの深さは20~35cmを測る。溝の走行は、東西両端と東端から約2mの地点で2箇所、南方向にほぼ直角に折れ曲がる。この南北走する部分はいずれも短く、最も長いSD111で3.9mである。また、本溝跡はSB418と重複し、これに切られている。遺物は、底部切り離しが回転糸切りとなる須恵器坏(465)が出土した。本溝跡の所属時期および機能は判然としないが、SB418との重複関係や出土遺物から、平安時代に遡る可能性もある。

SD3272(第88・89図 図版49 第23表)

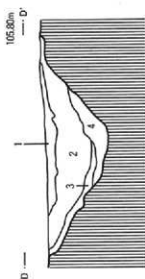
D区中央部をL字形に囲むかたちで検出された溝跡である。南北走する部分は25~30-400-401区で直線的に23.7mにわたって検出された。南端は調査区外となる。走行の軸線は磁北から25度東に傾いている。東西走する部分は、25-26-401区で東方向に折れ、20~26-384~401区の間、92.5mにわたって直線的に検出された。東端は調査区外となる。溝の折れ曲がりの角度は、内角で98度を測る。幅1.7~3.2m、確認面からの深さ7~18cmを測る。22-23-390-391区では、溝の幅が70cm前後にせばまり、掘り込みがほとんどなくなる部分が7.5mにわたって検出されている。また、22-389-390区では、SD3271と重複しこれに切られている。底面はやや丸みをもっており、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。遺物は縄文時代の石器3点(458~460)が出土したが、埋没時の流れ込みと考えられる。堆積土は黒褐色シルトの単一層である。本溝跡はその構造から、なんらかの区画を意図して構築された可能性が高く、巨海院跡との関連を考慮する必要があると考えられる。



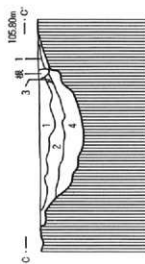


- 1 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫・褐色シルト層を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。
- 4 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト
- 5 10Y R4/4 褐色細砂

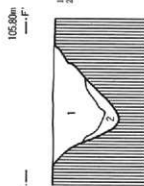
- 1 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫・褐色細砂礫・褐色シルト層を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。



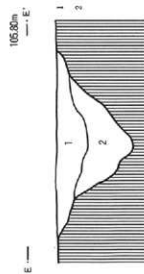
- 1 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・褐色細砂礫を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫・褐色シルト層を含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。
- 4 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・褐色細砂礫を含む。



- 1 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・褐色細砂礫を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫・褐色シルト層を含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩砂礫を含む。
- 4 10Y R2/2 黒褐色細砂質シルト

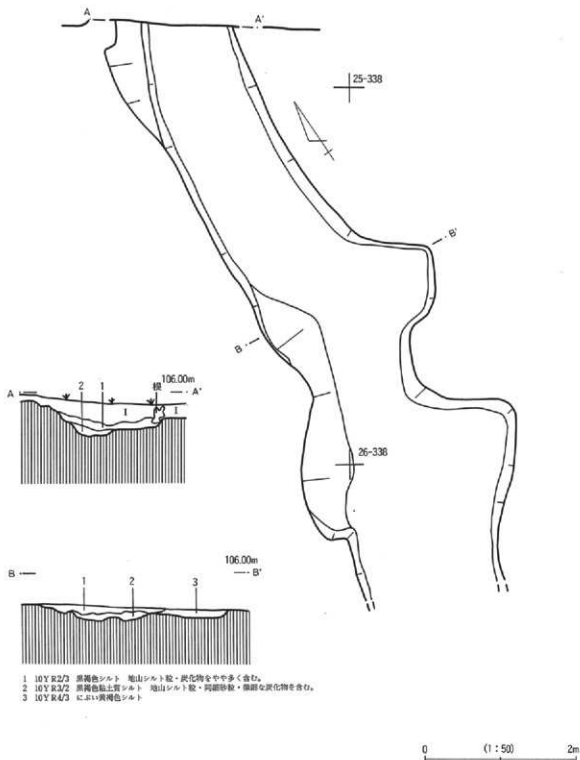


- 1 10Y R2/1 黒褐色細砂質シルト・小礫を多量に含む。
- 2 10Y R2/4 褐色細砂礫・小礫を多量に含む。

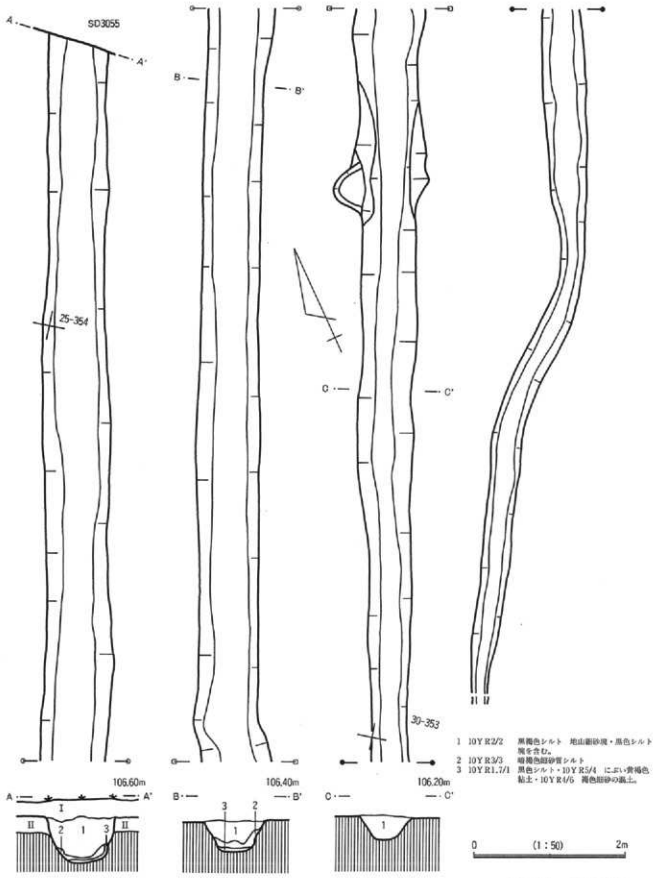


- 1 10Y R2/3 黒褐色細砂質シルト・地山崩土塊・褐色シルト層を含む。
- 2 10Y R3/2 黒褐色細砂質シルト・地山崩土塊・褐色シルト層を含む。小礫を若干含む。

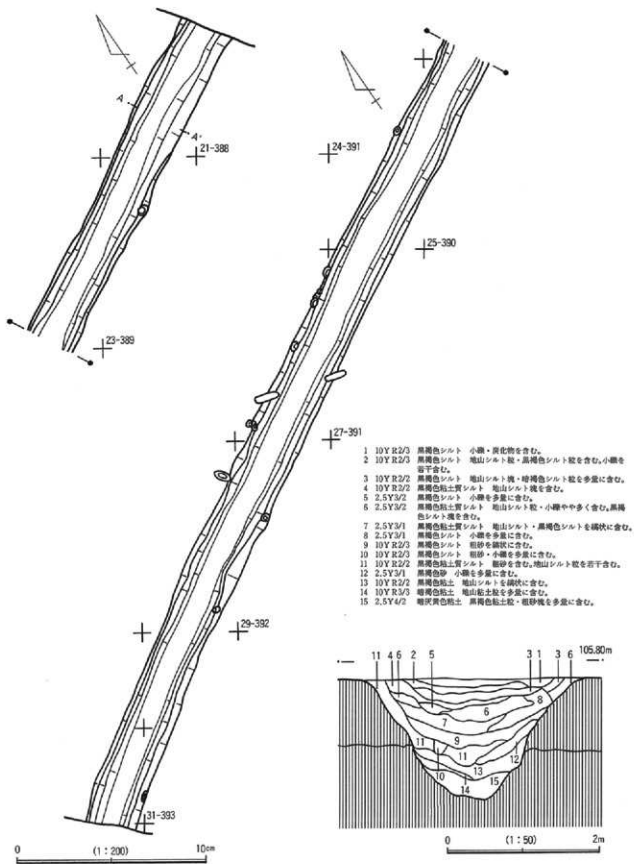




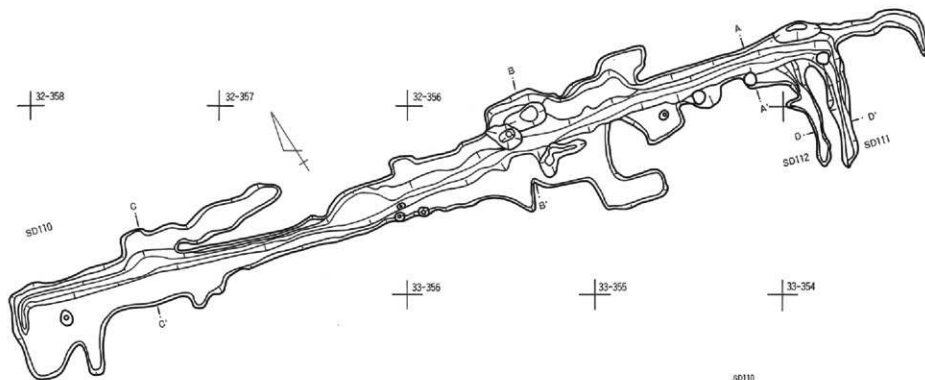
第84図 S D3035



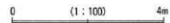
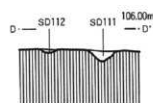
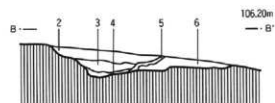
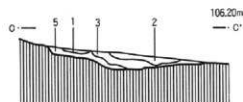
第85図 S D3055



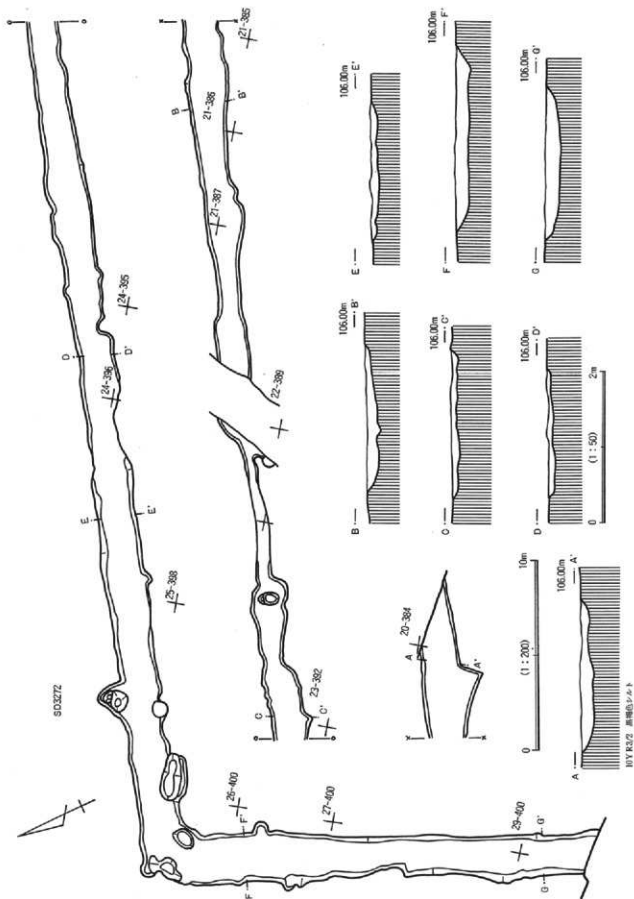
第86図 S D 3271



- SD110
- 1 10Y R3/3 黄褐色シルト 褐色シルト粒を若干含む。
 - 2 10Y R3/2 黄褐色粘土質シルト
 - 3 10Y R3/3 に赤・黄褐色細砂 褐色シルト粒を含む。
 - 4 10Y R5/3 黄褐色粘土 褐色シルト粒を含む。
 - 5 10Y R5/4 赤・黄褐色シルト
 - 6 10Y R3/3 黄褐色シルト
- SD111
- 10Y R3/3 黄褐色シルト 褐色シルト粒を多量に含む。
- SD112
- 10Y R3/3 黄褐色シルト 褐色シルト塊・円形細砂を含む。

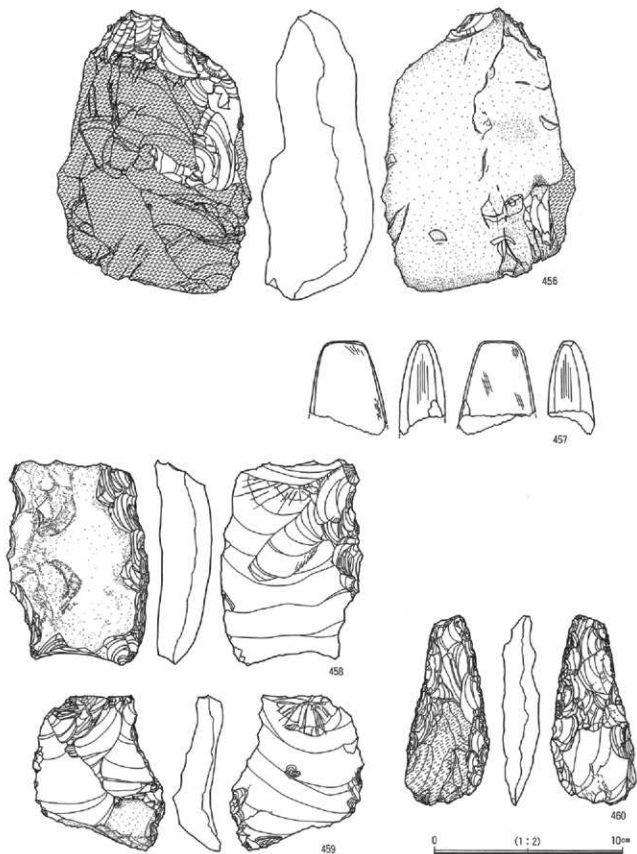


第87図 SD110



803272

第88図 S D 3272



第89図 溝跡出土遺物(1)

5 陥穴状遺構

陥穴状遺構は、C区27～38・346・347区で9基、D区18～20・399～402区で2基が検出された(第91図)。それぞれの分布状況はIV章2でふれたため、以下では各配列における陥穴状遺構の構造的な特徴について概括する。

27～38・346・347区(第92・93図 図版50・51 第19表)

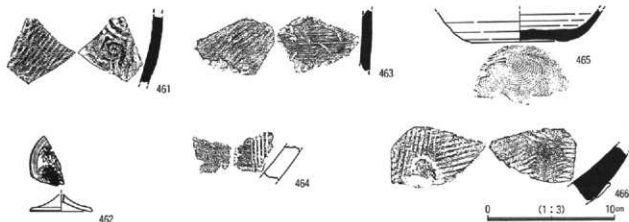
この区域で検出された陥穴状遺構は、北から順に、SK3043・73・35・423・33・32・19・34・620の9基である。これらの平面形および規模は、長軸が0.95～1.34m、短軸が0.46～0.87mの楕円形または隅丸長方形を呈する。長軸の方向は個別にみると振れはあるが、概ね南東から北西方向となる。壁の立上がりは急であり、いずれも垂直に近く掘り込まれ、SK3043では南東および北西の壁面がオーバーハングしている。確認面からの深さは0.75～1.14mを測る。底面は長軸0.57～0.9m、短軸0.21～0.42mの規模で平坦に造り出されている。また、SK3043・73・35・423・34・620の底面中央付近からは、径10～19cm、底面からの深さ15～50cmのピットが各1基ずつ検出された。これらは逆茂木の痕跡と考えられる。特に、SK620では、逆茂木が堆積土内で立ち腐れた痕跡が土層断面で観察された。堆積土は2～6層に分けられた。黒色から黒褐色のシルトまたは粘土質シルトを主体とし、地山の土色とはまったく異なるが、いずれの陥穴状遺構でも検出面ではプランの輪郭が不明確であった。

18～20・399～402区(第93図 図版51 第19表)

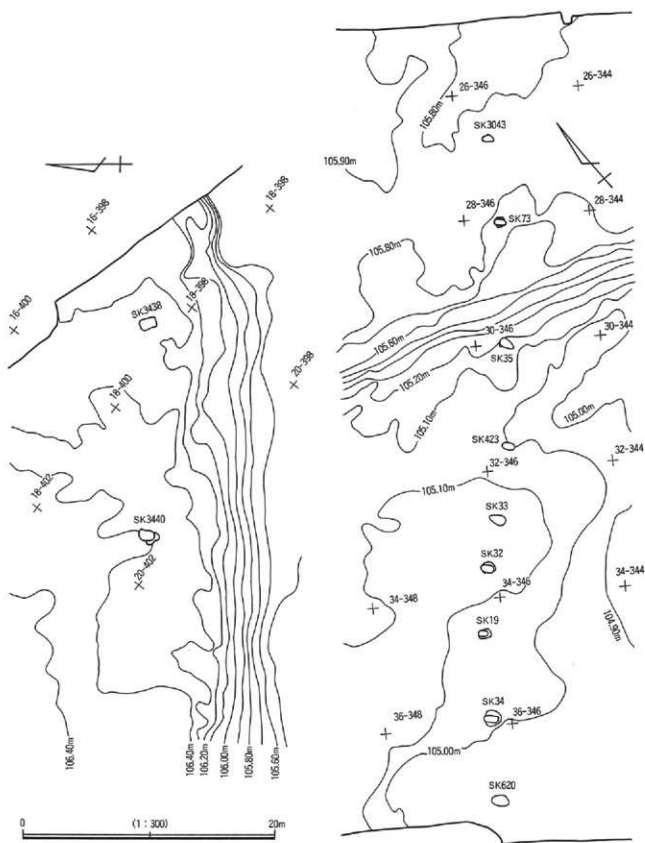
この区域ではSK3438とSK3440の2基が検出された。構造的にはC区で検出されたものと同じであるが、平面形および規模は若干大きく、特に底面の規模は、長軸1.08～1.3m、短軸0.61～0.7mと広く、形も整った隅丸長方形を呈する。長軸の方向は概ね南北方向となる。逆に深さは0.51～0.65mと浅くなっている。

図号	発掘回	発掘	地区	遺物番号	種類	数量	法 量				調 査		発掘・切取	備考	分類		
							口径	唇径	胴径	底径	外 径	内 径					
461	90	95	39110	F1	33～36	335～333	磁器類	器	-	-	-	-	自然釉・タタキ・赤キメ	アサ		管鉢	1F
462	90	95	39205		35～27	338～339	磁器類	器	-	-	-	-	タタキ・タタキ	アサ		管鉢	1F
463	90	95	39119		32～34	354～359	磁器類	器	-	(79)	(126)	(24)	タタキ	アサ	田舎系切	管鉢	1A2
464	90	95	39327		21～22	388～394	磁器類	器	-	-	-	-	タタキ	アサ		管鉢	1F

第18表 溝跡出土土器観察表

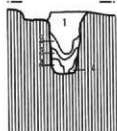
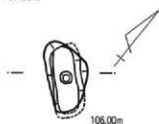


第90図 溝跡出土遺物(2)



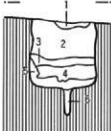
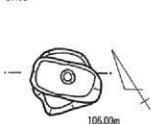
第91図 陥穴状遺構分布図

SK3043



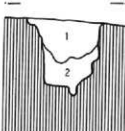
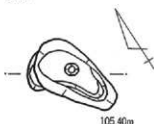
- 1 10Y R1.7/1 黒色シルト
- 2 10Y R2/1 黒色粘土質シルト
- 3 10Y R1.2/1 黒色粘土質シルト 地山細砂塊を含む。
- 4 10Y R2/1 黒色シルト 3層を輪状に含む。

SK73



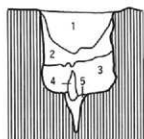
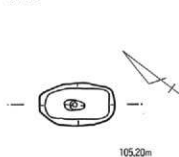
- 1 10Y R3/4 暗褐色シルト
- 2 10Y R2/1 黒色シルト
- 3 10Y R1.7/1 黒色シルト 地山シルト塊を含む。
- 4 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト
- 5 10Y R2/1 黒色粘土質シルト
- 6 10Y R5/6 黄褐色シルト

SK35



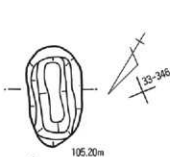
- 1 10Y R2/1 黒色シルト
- 2 10Y R2/2 黒褐色粘土 地山細砂塊を含む。

SK423



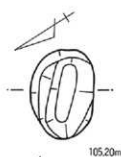
- 1 10Y R2/1 黒色シルト
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト
- 3 10Y R3/3 暗褐色粘土質シルト 地山シルト塊状に混入。
- 4 10Y R2/1 黒色粘土
- 5 10Y R6/4 濃い黄褐色細砂

SK33



- 1 10Y R2/1 黒色シルト 炭化層を若干含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト
- 3 10Y R4/4 褐色細砂 2層を輪状に含む。
- 4 10Y R4/4 褐色シルト

SK32



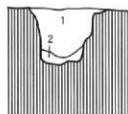
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト 炭化層を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色粘土
- 3 10Y R4/4 褐色粘土 地山細砂塊を含む。
- 4 10Y R4/6 褐色粘土質シルト

0 (1:50) 2m

第92図 陥穴状遺構(1)

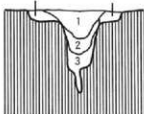
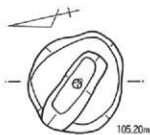
遺構と遺物

SK19



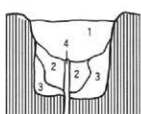
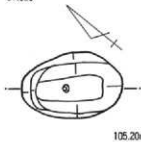
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト
- 2 10Y R3/2 黒褐色粘土質シルト 地山細砂を含む。

SK34



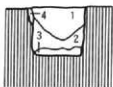
- 1 10Y R2/2 黒褐色シルト
- 2 10Y R2/3 黒褐色粘土
- 3 10Y R4/4 褐色粘土 2層を塊状に混入。
- 4 10Y R4/6 褐色粘土質シルト

SK620



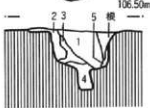
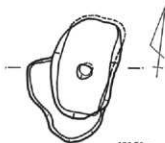
- 1 10Y R1.7/1 黒色粘土質シルト
- 2 10Y R3/2 黒褐色粘土
- 3 10Y R5/3 黄褐色粘土 地山粘土塊状に混入。
- 4 10Y R3/2 黒褐色粘土

SK3438



- 1 7.5Y R2/2 黒褐色粘土質シルト 礫を含む。
- 2 7.5Y R2/2 黒褐色シルト 地山細砂を多量を含む。
- 3 7.5Y R3/3 暗褐色粘土質シルト
- 4 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト塊を含む。

SK3440



- 1 7.5Y R2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト塊を含む。
- 2 7.5Y R4/4 褐色シルト 地山細砂を含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト 地山シルト塊を含む。
- 4 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト塊を若干含む。
- 5 7.5Y R3/4 暗褐色シルト 地山シルト塊を含む。

第93図 陥穴状遺構(2)

6 土坑

今回の調査で検出・登録された土坑は276基を数える。これらの構築時期については、縄文時代から現代にいたる幅広い時間幅をもっているものと考えられる。しかし、土坑内からの遺物出土状況や構造、周囲にある他の遺構との位置関係などを考慮しても、その所属時期や機能を推定できるものは非常に少ない。今後より一層の検討が必要である。全体的にみると土坑の分布は調査区全域におよぶが、中央の段に密に分布し、東側の段およびD区のSD3272以西ではやや希薄となる傾向がみられた。さらに中央の段では、厳密な線引きはできないが、土坑・ピットの集中する区域が8箇所認められた。以下では中央の段の集中区域と、東側と西側の各段で検出されたおもな土坑について、その概要を述べる。

東側の段の土坑(第94・115図 付図 図版51 第19・21~23表)

SK3017は長軸方向がほぼ東西方向となる不整隅丸長方形を呈する土坑である。底面は若干の起伏があり、長軸線に沿って中央部のラインががややくぼむ。壁の立上りは緩やかである。堆積土は炭化物と地山細砂を粒状に含む。周囲の状況から東西走する溝跡の名残りとも考えられる。堆積土内からは須恵器甕の破片(467)が出土しているが、埋没時の流れ込みの可能性が高い。所属時期、機能などの詳細は不明である。

SK17は、南北方向に長軸をとる長楕円形を呈する土坑である。底面は平坦な面がせまく、短軸方向からの断面形は緩い「U」字形を呈する。壁の立上りは緩やかである。堆積土内からは自然礫をそのまま使用した砥石(471)が1点出土した。

SK15は東西方向に長い不整楕円形プランをもつ土坑である。底面は起伏があり、壁の立上りは比較的急である。堆積土は4層に分けられた。暗褐色の細砂および粘土が主体となり、3層では水に起因するとみられる縞状の堆積が観察された。堆積土内からは須恵器環(468・469)、須恵器蓋(470)のほか、図化し得なかったものも含め、平安時代の遺物がややまとまって出土している。機能は判然としないが、検出状況やSE640との位置関係から、本土坑の所属時期は平安時代に遡る可能性がある。

以上のほか、28~32-329~332区では一辺1.2~1.5m、深さ15~30cmを測る隅丸方形を呈する6基の土坑が8~11mの間隔で規則的に配置され(付図)、このうちSK3014・SK3018からは近世の肥前系染付の破片(536・537)が出土している。

25~31-344~352区(第95・96図 図版51・52 第19・21・22表)

SK84は長軸方向が東西方向となる長楕円形を呈する土坑である。底面は平坦につくられ、壁の立上りは急である。単体で検出されたが構造的には陥凹状遺構に類似する。SK72はいわゆる袋状土坑の形態をもつ。開口部は崩落もあり、0.97×0.78mとなるが、底面は一辺1.1m前後の隅丸方形を呈する。底面中央は縁辺よりやや深くなっており、径20cm、深さ5cmのピット1基を伴う。両者ともに遺物は出土していないが、構造の特徴から、所属時期は縄文時代となる可能性がある。

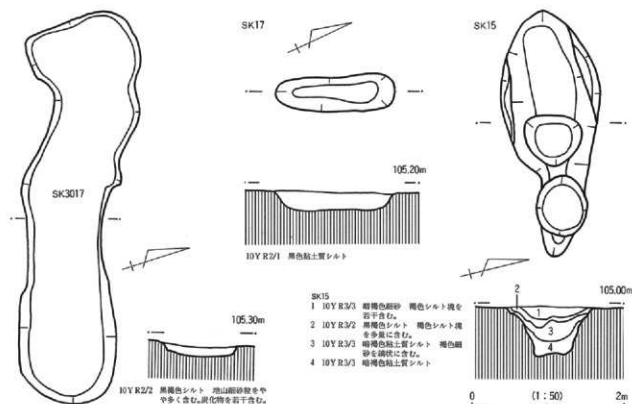
SK3039~3042は26・27-347・348区、SK3046~3049は26・27-350・351区でそれぞれまとまって検出された。これらの規模は、長辺1.02~2.52m、短辺0.94~1.72m、確認面からの深さ

0.21~0.73mとばらつきがあるが、平面形はいずれも隅丸長方形を呈し、平坦な底面と立上りの急な壁面をもつ。また、堆積土は黒褐色シルトと地山の細砂・シルトがブロック状に混じり合った層を主体とし、人為的な堆積状況が観察された。出土遺物はなく、土坑の機能や所属時期についての詳細は不明であるが、構造的な特徴はV章1項で取り上げたST3369と共通するものである。

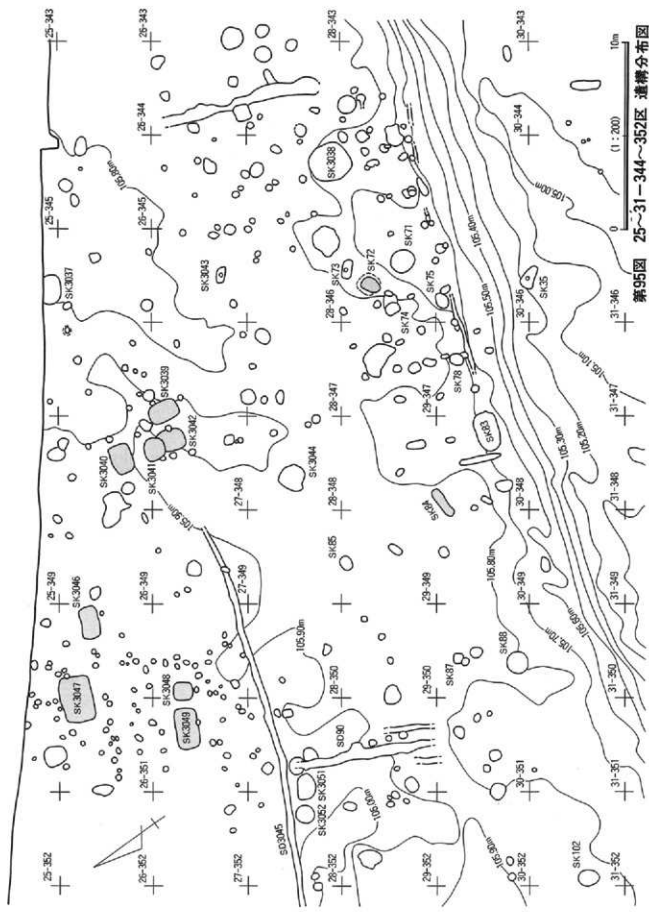
24~31-356~365区(第97~99・115図 図版52・53 第19・21・23表)

第98・99図に掲載した土坑のうち、SK194~196を除く15基は、長辺0.95~2.18m、短辺0.91~1.89m、確認面からの深さ0.22~0.65mを測る。平面形は隅丸長方形または円形を呈し、平坦な底面と立上りの急な壁面をもつ。また、堆積土は黒褐色シルトと地山の細砂・シルトがブロック状に混じり合った層を主体とする。特に堆積土の状況については、前述のSK3039~3042、SK3046~3049と同様の特徴が認められた。SK194~196は平面形、底面、壁の立上りがほかの土坑と一致するものの、堆積土がブロック状ではなく、均質な黒褐色または褐色シルトが主体となっている。

縄文時代の遺物はSK3157から磨石(473)が出土している。平安時代ではSK3065とSK3188から須恵器杯の口縁部破片(525・526)、SK3174・SP154・SP193から須恵器甕の破片(472・479・480)が出土したほか、SK3173からは須恵器蓋・甕・壺の破片(474~476)が得られた。また、SK3082・SK3096では近世陶磁器の破片(544・547)、SK187から砥石(477)が出土している。

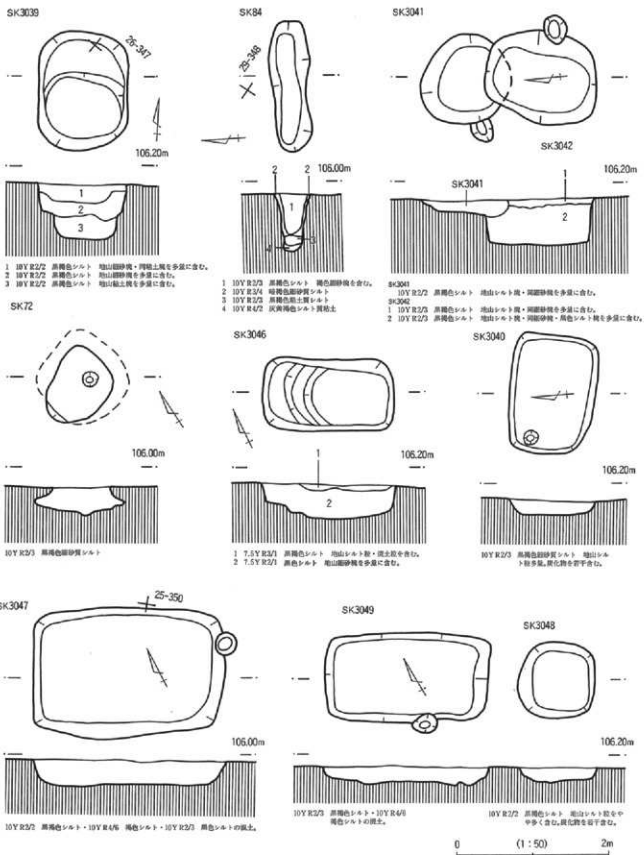


第94図 SK15・SK17・SK3017

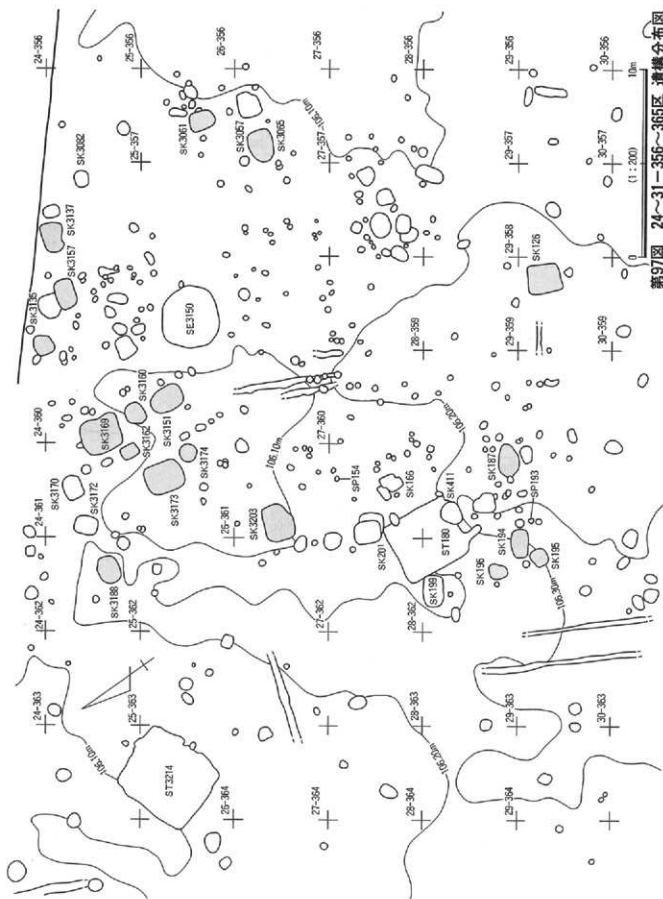


第95图 25~31-344~352区 道標分布图

遺構と遺物

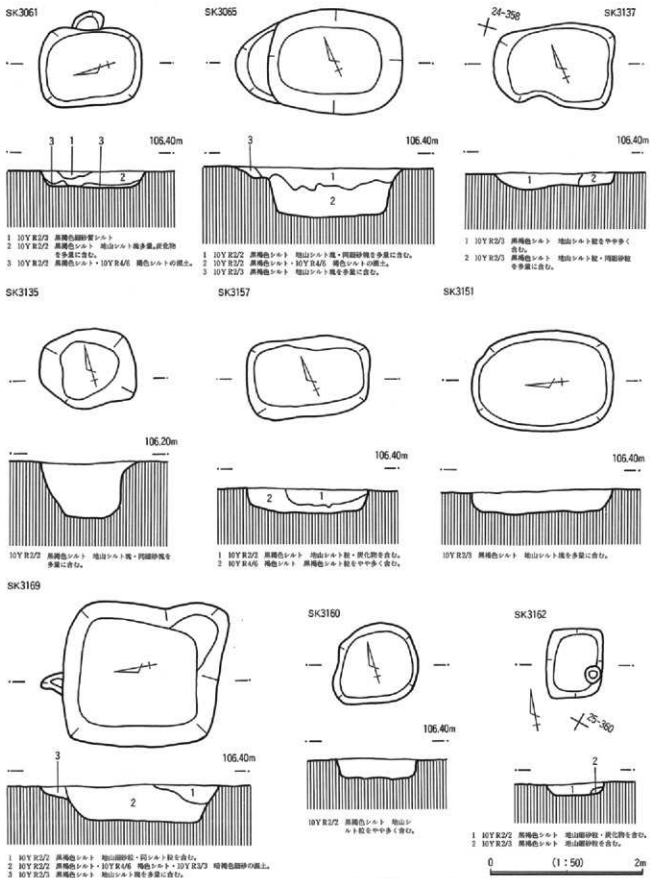


第96図 25-31-344~352区 検出土坑



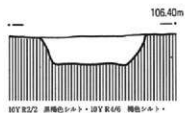
第97図 24~31-356~365区 遺構分布図

遺構と遺物



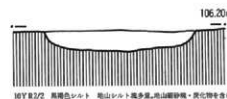
第98図 24~31-356~365区 検出土坑(1)

SK3188



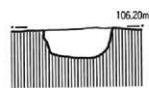
10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルト・
10Y R3/3 暗褐色腐植の黄土。

SK3203



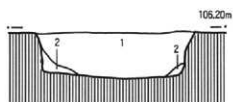
10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト・残多量・地山腐植層・炭化物を含む。

SK3174



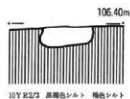
10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト層・腐植層
残多量・炭化物を含む。

SK3173



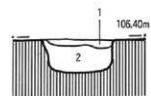
1 10Y R2/2 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルト・10Y R3/3 暗褐色腐植の黄土。
2 10Y R2/2 黒褐色シルト 地山シルト層・腐植層を含む。

SK196



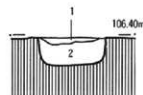
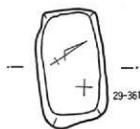
10Y R2/2 黒褐色シルト 褐色シルト
小塊を含む。

SK195



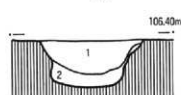
1 10Y R4/1 褐色シルト
2 10Y R4/5 褐色シルト

SK194



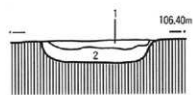
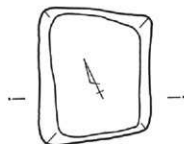
1 10Y R2/2 黒褐色シルト
2 10Y R4/1 褐色シルト

SK187



1 10Y R2/2 黒褐色シルト 炭化物・褐色シルト塊を含む。
2 10Y R3/3 暗褐色粘土質シルト

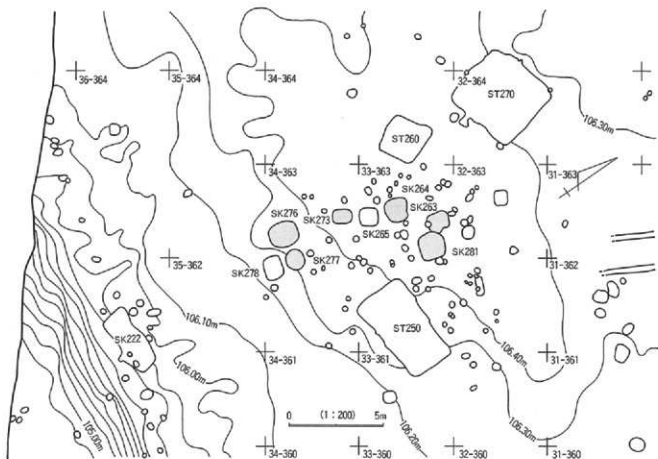
SK126



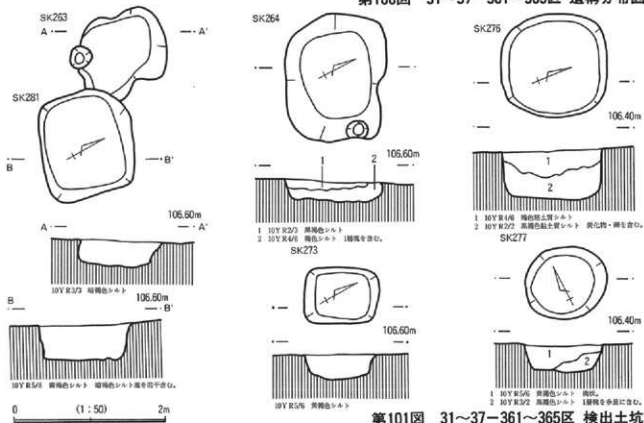
1 10Y R3/3 暗褐色シルト 地山シルト層・礫を若干含む。
2 10Y R2/2 黒褐色シルト

0 (1:50) 2m

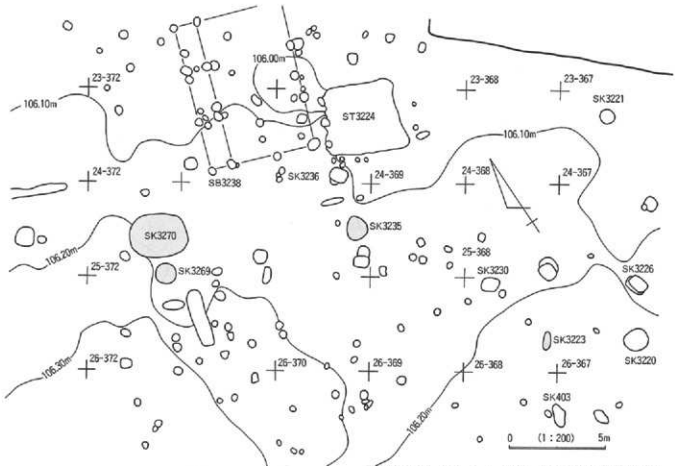
第99図 24~31-356~365区 検出土坑(2)



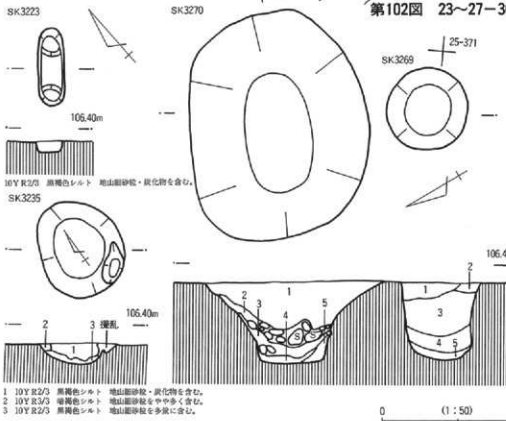
第100図 31~37-361~365区 遺構分布図



第101図 31~37-361~365区 検出土坑



第102図 23~27-367~373区 遺構分布図



SK3270

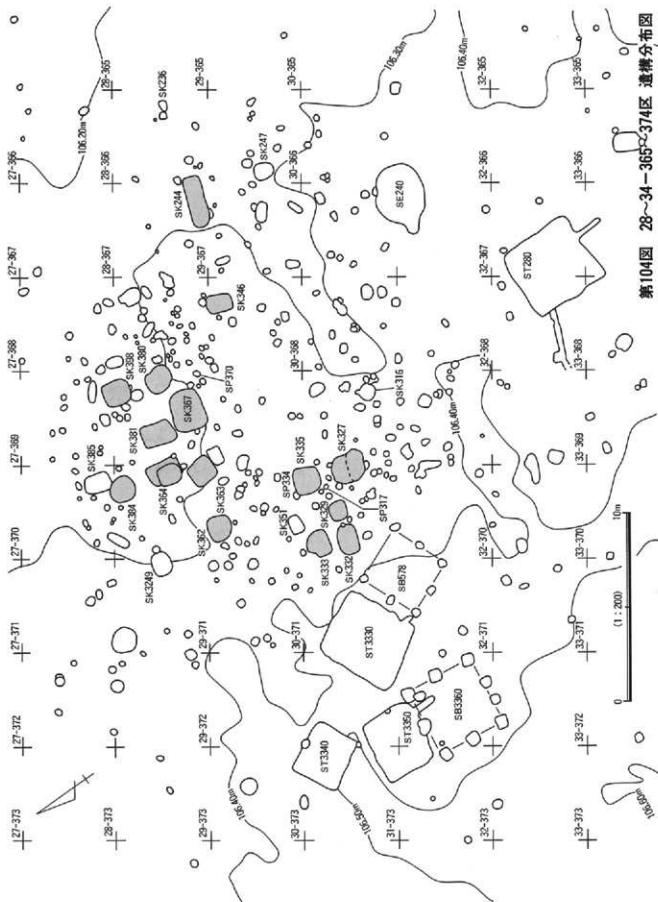
- 1 10Y R1.7/1 黒色シルト 地山シルト塊を若干含む。
- 2 10Y R2/2 黒褐色腐砕質シルト 腐砂・礫を多量に含む。
- 3 10Y R2/2 黒褐色粘土質シルト 腐砂・礫を含む。
- 4 10Y R4/3 濃い黄褐色粘土 腐砂多量・3層塊を含む。
- 5 10Y R2/3 黒褐色砂

SK3269

- 1 10Y R1.7/1 黒色シルト 礫を含む。
- 2 10Y R1.7/1 黒色シルト 腐砂礫。
- 3 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト 地山粘土塊を多く含む。
- 4 10Y R2/2 黒褐色粘土 地山粘土塊を含む。
- 5 10Y R4/3 濃い黄褐色粘土 黒褐色粘土を細粒に含む。

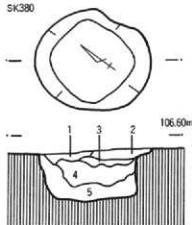
- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山腐砕砂・炭化物を含む。
- 2 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山腐砕砂を多く含む。
- 3 10Y R2/3 黒褐色シルト 地山腐砕砂を多量に含む。

第103図 23~27-367~373区 検出土坑



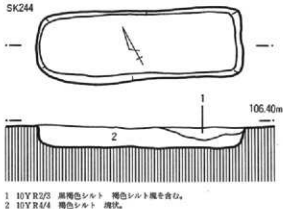
第104図 28~34-365-374区 遺構分布図

SK380



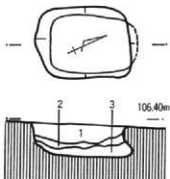
- 1 10Y R5/6 黄褐色シルト
- 2 10Y R3/4 暗褐色シルト 1層を
形状に含む。
- 3 10Y R3/2 高褐色シルト
- 4 10Y R2/3 高褐色シルト
塊状を含む。
- 5 10Y R4/6 褐色シルト 1層を塊
状に多量を含む。

SK244



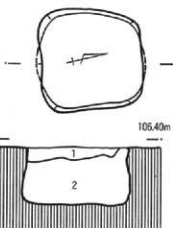
- 1 10Y R2/3 高褐色シルト 褐色シルト塊を含む。
- 2 10Y R4/4 褐色シルト 塊状。

SK346



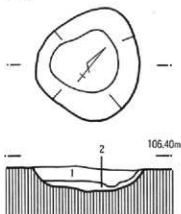
- 1 10Y R4/4 褐色シルト
- 2 10Y R2/3 高褐色シルト 塊状。
- 3 10Y R3/4 暗褐色シルト 小塊状。

SK388



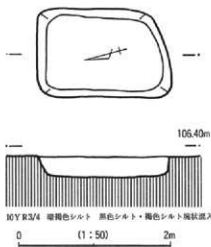
- 1 10Y R2/3 高褐色シルト
- 2 10Y R4/4 褐色シルト 塊状。

SK384



- 1 10Y R3/4 暗褐色シルト 小塊状。
- 2 10Y R4/4 褐色シルト 塊状。

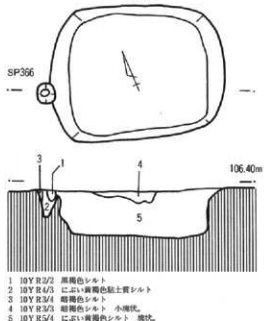
SK381



10Y R3/4 暗褐色シルト 褐色シルト・褐色シルト塊状混入。

0 (1:50) 2m

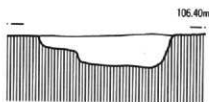
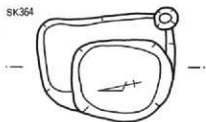
SK357



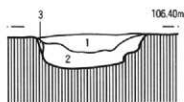
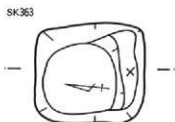
- 1 10Y R2/2 高褐色シルト
- 2 10Y R4/3 におい黄褐色粘土質シルト
- 3 10Y R3/4 暗褐色シルト
- 4 10Y R3/3 暗褐色シルト 小塊状。
- 5 10Y R5/4 におい黄褐色シルト 塊状。

第105図 28~34-365~374区 検出土坑(1)

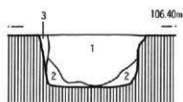
遺構と遺物



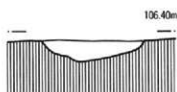
10Y R2/2 黒褐色シルト 炭化物を若干含む。



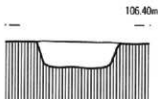
1 10Y R3/3 暗褐色シルト
2 10Y R3/2 黒褐色シルト 褐色土塊を含む。
3 10Y R3/4 暗褐色細砂



1 10Y R3/1 黒褐色シルト 炭化物を含む。
2 10Y R3/5 暗褐色細砂 炭化物を若干含む。
3 10Y R3/3 暗褐色細砂



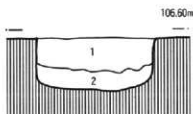
10Y R3/3 暗褐色シルト 炭化物を含む。



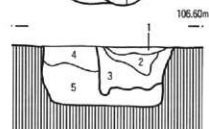
10Y R4/4 褐色シルト 塊状。



10Y R3/3 暗褐色シルト



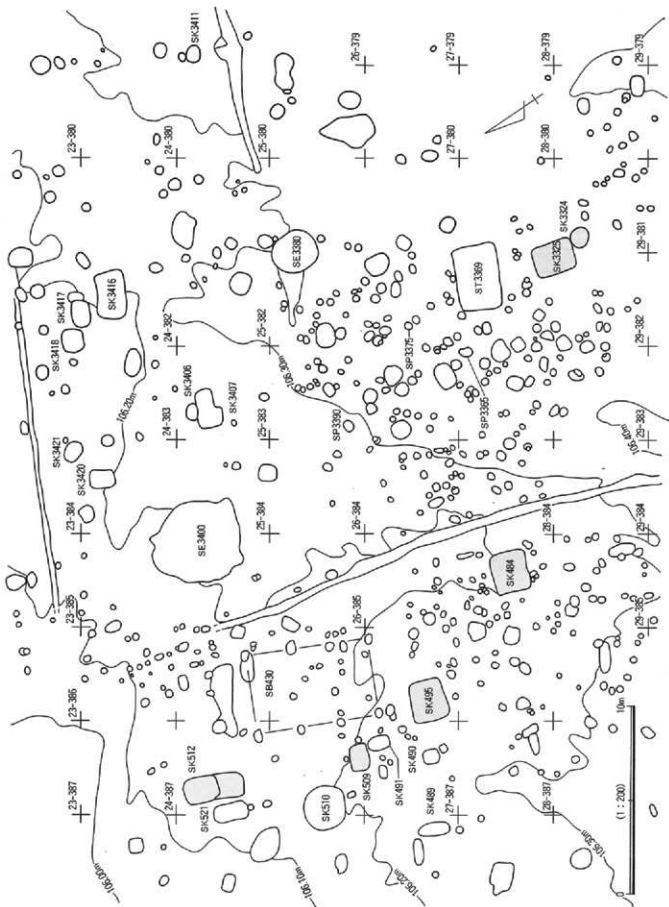
1 10Y R3/2 黒褐色シルト 炭化物多量。
2 10Y R4/5 褐色粘土



1 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト 炭化物を若干含む。
2 10Y R3/2 黒褐色粘土 炭化物多量。
3 10Y R3/4 暗褐色粘土 褐色粘土塊・炭化物を含む。
4 10Y R5/6 黄褐色シルト 暗褐色シルト塊状流入・河礫を多数に含む。
5 10Y R4/4 褐色シルト 炭化物を若干含む。

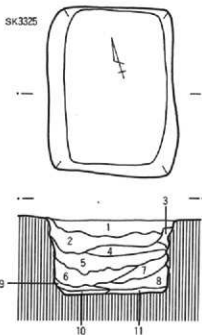
0 (1:50) 2m

第106図 28~34-365~374区 検出土坑(2)



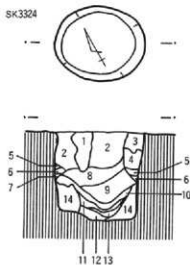
第107図 23~29-379~388区 遺構分布図

遺構と遺物

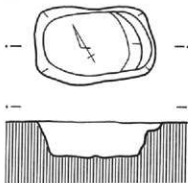


- SK3325
- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 炭化物を含む。
 - 2 10Y R2/3 黒褐色シルト・10Y R4/6 褐色シルトの混土。
 - 3 10Y R2/3 黒褐色シルト・10Y R3/3 暗褐色シルトの混土。
 - 4 10Y R3/3 暗褐色細砂・2層の混土。
 - 5 同上。暗褐色細砂混雑層。
 - 6 同上。暗褐色細砂混雑に腐葉。
 - 7 同上。黒褐色シルト層・に白い黄色シルト層を含む。
 - 8 同上。黒褐色シルト層・に白い黄色シルト層をやや多く含む。
 - 9 10Y R4/3 褐色細砂 白い黄色細砂層を含む。
 - 10 2.5Y5/3 黄褐色細砂 白い黄色細砂位を若干含む。
 - 11 10Y R5/3 黄褐色細砂質シルト 黒褐色シルト層を含む。

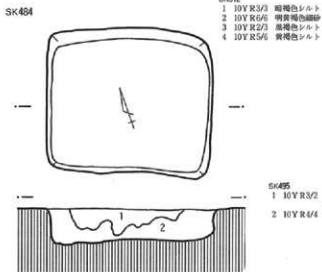
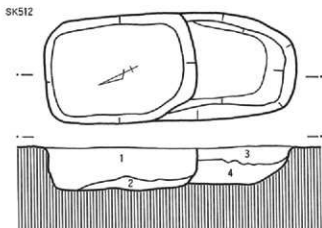
- SK3324
- 1 10Y R2/3 黒褐色シルト 堆山細砂粒を含む。
 - 2 10Y R2/2 黒褐色シルト
 - 3 10Y R4/6 褐色細砂 黒褐色シルト層を含む。
 - 4 10Y R4/6 褐色細砂
 - 5 10Y R3/3 暗褐色細砂
 - 6 2.5Y5/3 白い黄色シルト
 - 7 10Y R3/3 暗褐色細砂
 - 8 10Y R2/2 黒褐色シルト 堆山細砂りぼれ状混入。
 - 9 10Y R1.7/1 黒色シルト
 - 10 10Y R1.7/1 黒色シルト 堆山細砂りぼれ状混入。
 - 11 10Y R4/6 褐色細砂 黒色シルト縞状混入。
 - 12 10Y R1.7/1 黒色シルト
 - 13 2.5Y4/1 黄褐色細砂・10Y R6/6 明黄褐色シルトの混土。
 - 14 2.5Y6/3 黄褐色シルト・2.5Y5/3 黄褐色シルトの混土。



SK509

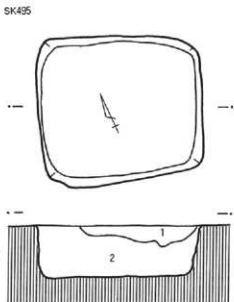


10Y R4/4 褐色シルト 表状。



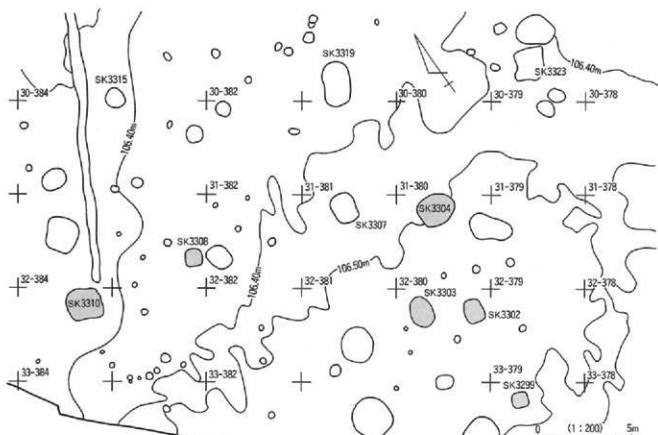
- SK512
- 1 10Y R3/3 暗褐色シルト
 - 2 10Y R6/6 明黄褐色細砂
 - 3 10Y R2/3 黒褐色シルト
 - 4 10Y R5/6 黄褐色シルト

- SK484
- 1 10Y R4/3 白い黄褐色シルト
 - 2 10Y R4/6 褐色シルト 黄褐色粘土層を多量に含む。

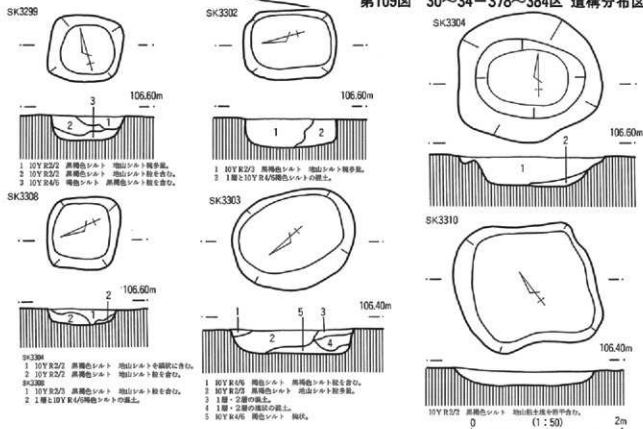


- SK495
- 1 10Y R3/2 黒褐色シルト 炭化物を多量に含む。
 - 2 10Y R4/4 褐色シルト 混状。

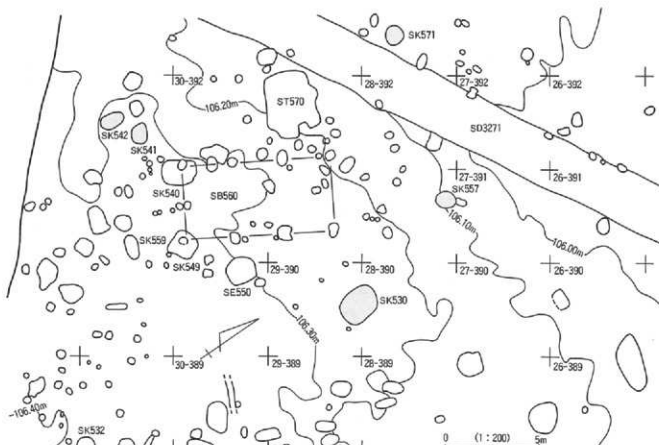
0 (1:50) 2m



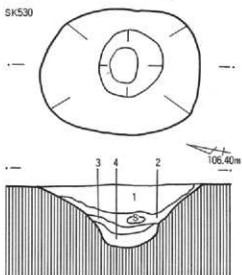
第109図 30~34-378~384区 遺構分布図



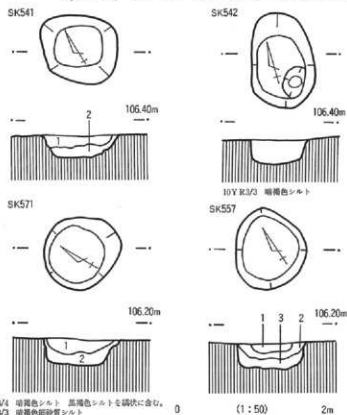
第110図 30~34-378~384区 検出土坑



第111図 26~32-389~393区 遺構分布図

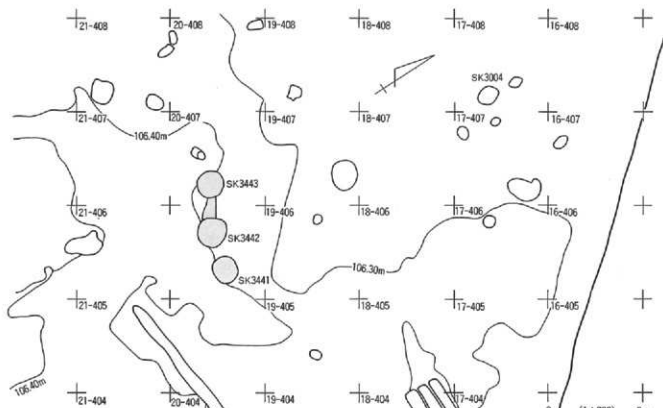


- SK530
 1 10Y R2/3 黒褐色シルト
 2 10Y R3/2 黒褐色シルト 跡を含む。
 3 10Y R4/3 濃い黄褐色シルト
 4 10Y R2/3 黒褐色シルト黄粘土 跡を含む。
- SK541
 1 10Y R3/3 暗褐色シルト
 2 10Y R3/4 暗褐色シルト
- SK557
 1 10Y R3/3 暗褐色シルト
 2 10Y R2/3 黒褐色粘土質シルト
 3 10Y R3/3 暗褐色シルト

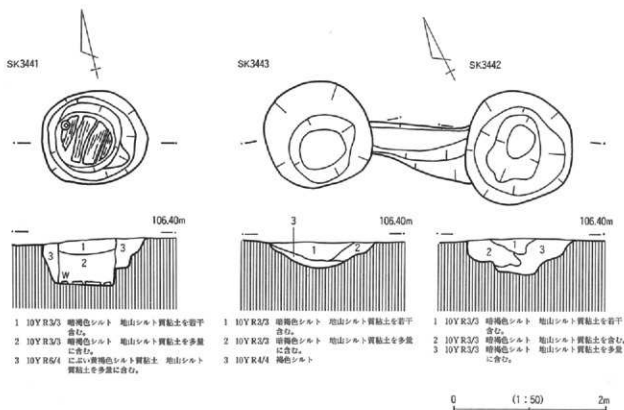


- 1 10Y R3/4 暗褐色シルト 黒褐色シルトを礫状に含む。
 2 10Y R3/3 暗褐色細砂質シルト

第112図 26~32-389~393区 検出土坑



第113図 16~22-404~408区 遺構分布図



第114図 16~22-404~408区 検出土坑

31～37-361～365区(第100・101・116図 図版53・54 第19・23表)

この区域のなかでも、特にST270・260とST250の間にはさまれた32～34-362・363区では、土坑とピットが集中して検出されている。第101図に掲載した6基はこの集中地点にある。規模および平面形は、長辺1.0～1.7m、短辺0.73～1.38m、確認面からの深さ0.28～0.64mを測り、隅丸長方形または円形プランを呈する。底面はSK264には若干の起伏が認められたが、ほかの土坑では概ね平坦であり、壁面の立上がりは急である。また、堆積土はいずれも黒褐色シルト、褐色シルト、地山のシルトがブロック状に混じり合った層を主体とする。遺物はSK277から北宋銭を主体に8枚の銭貨が出土した。

23～27-367～373区(第102・103・115・116図 図版54 第19～21・23表)

この区域は、ほかの集中区域に比べて土坑・ピットの分布密度がやや疎である。

SK3270は、長軸方向が東南東から西北西方向で平面形が楕円形を呈する大形の土坑である。底面は平坦で、長径1.6m、短径0.9mの楕円形となる。壁は底面から垂直に近く立上がり、掘り込みの中央付近で傾斜が緩くなり、朝顔形に開く。堆積土は黒褐色シルトを主体とし、下部ほど粘性が強まる。また、2層以下では10～30cm大の円礫の混入が目立つ。遺物は縄文時代の頁岩製の石核あるいは打製石斧(482)が1点出土している。

SK3269は、SK3270の南約20cmの位置に検出された、平面形が円形を呈する土坑である。底面はやや丸みをもち、径0.60～0.67mの円形となる。壁は底面から垂直に近く立上がる。堆積土は5層に分けられた。黒褐色シルトを主体とし、下層ほど粘性が強まる。1層は礫含みであるが、それ以下では礫は混入せず、また、5層では地山粘土と黒褐色粘土の縞状の堆積が観察された。遺物は出土していない。

そのほか、この区域ではSK3223・SK3235から須恵器壺の破片(478・481) SK403から磁胎の乗馬姿をかたどった人形(492)が出土している。

28～34-365～374区(第104～106・116図 図版54～56 第20～23表)

この区域ではST3330、ST280など堅穴住居域の北、27～31-367～370区内で、特に土坑・ピットの分布密度が高くなる。第105・106図に掲載した土坑は、いずれもこの集中域で検出されている。これらの規模および平面形は、長辺1.09～2.71m、短辺0.94～1.78m、確認面からの深さ0.25～0.78mを測り、隅丸長方形または不整隅丸方形プランを呈する。底面はSK333およびSK384は丸みを帯びるが、ほかの土坑では概ね平坦である。壁面は、SK333、SK384、SK332が緩やかに立上がるほかは急であり、SK346、SK398では一部の壁面がオーバーハングしている。土層の堆積状況は、いずれも黒褐色シルト、褐色シルト、地山のシルトがブロック状に混じり合った層を主体とする。

遺物はSK335から須恵器壺破片(493)、SK380から中世陶器破片(494)が出土し、SK327からは須恵器破片(496～500)と中世陶器破片(501・502)が出土した。そのほかこの区域では、平安時代の遺物ではSP317・334・370の各ピットから須恵器破片(503～505)が各1点出土し、SK316からは中世陶器破片(495)が1点、SK351からは、破損のため銘は不明であるが、銭貨(491)が1点出土した。

遺構と遺物

押田	図版	遺構番号	地区	長径	短径	深さ	遺物			備考
							押田	図版	番号	
92	50	SK 3043	27-346	0.97	0.64	0.82				陥穴伏遺構 遊茂木痕
92	50	SK 73	2829-346	0.95	0.48	0.90				陥穴伏遺構 遊茂木痕
92	50	SK 35	3031-346	1.25	0.69	0.87				陥穴伏遺構 遊茂木痕
92	50	SK 423	32-346	0.99	0.56	1.06				陥穴伏遺構 遊茂木痕
92	50	SK 33	33-346347	1.34	0.72	0.93				陥穴伏遺構 遊茂木痕
92	50	SK 32	34-347	1.18	0.85	1.13				陥穴伏遺構
93	50	SK 19	35-347	1.02	0.70	0.75				陥穴伏遺構
93	50	SK 34	3637-347	1.15	0.46	0.80				陥穴伏遺構 遊茂木痕
93	51	SK 620	38-347	1.31	0.87	1.14				陥穴伏遺構 遊茂木痕
93		SK 3438	18-396	1.35	0.84	0.65				陥穴伏遺構 遊茂木痕
93	51	SK 3440	20-402	1.33	0.82	0.51				陥穴伏遺構 遊茂木痕
94	51	SK 3017	30-332・333	5.21	1.27	0.13	115	95	467	
94		SK 17	33-347	1.58	0.49	0.26	115	104	471	
94		SK 15	36-344	3.26	1.32	0.67	115	70	468-470	
95		SK 3044	28-348	1.44	1.33	0.15		99	539・540	
95		SK 74	29-346	1.28	0.76	0.41		99	546	
96	51	SK 3039	26-27-347・348	1.57	1.14	0.73				2基の土坑の重複
96	51	SK 84	29-30-348・349	1.73	0.54	0.76				
96	51	SK 3041	26-27-348	1.22	1.19	0.18				SK3042を切る
96	51	SK 3042	27-348	1.47	1.25	0.62				SK3041に切られる
96	51	SK 72	29-346	0.97	0.78	0.40				竪状土坑
96	51	SK 3046	26-350	1.72	0.94	0.44				
96	52	SK 3040	26-348	1.58	1.13	0.21				
96	52	SK 3047	26-350・351	2.52	1.72	0.36				
96	52	SK 3049	27-351	2.16	1.19	0.23				
96	52	SK 3048	27-350・351	1.02	1.00	0.21				
97		SP 154	28-361	0.28	0.25	0.99	115	95	479	
97		SP 163	30-361	0.32	0.28	0.39	115	95	480	
97		SK 3082	25-356	0.89	0.77	0.22		99	544	
97		SK 166	28-361	1.11	0.93	0.04		99	547	
98	52	SK 3061	26-357	1.36	1.06	0.22				
98	52	SK 3065	27-357	2.18	1.38	0.65		71	525	
98		SK 3137	24・25-358	1.53	1.10	0.23				
98	52	SK 3135	24・25-359	1.28	1.05	0.74				
98	52	SK 3157	25-359	1.61	1.06	0.33	115	100	473	
98	52	SK 3151	26-360	1.85	1.33	0.29				
98	52	SK 3169	25-260・361	2.07	1.89	0.50				
98	53	SK 3160	25・26-360	1.24	1.06	0.28				
98	53	SK 3162	25-361	0.91	0.74	0.15				
99	53	SK 3188	25-362	1.43	1.09	0.39		71	526	
99	53	SK 3174	26-361	0.95	0.91	0.39	115		472	
99	53	SK 3173	26-361	2.04	1.70	0.61	115	96	474-476	
99	53	SK 3203	27-361・362	2.03	1.57	0.30				
99		SK 196	29-362	0.94	0.72	0.25				
99		SK 195	30-362	1.02	0.93	0.44				
99		SK 194	29・30-361・362	1.55	0.89	0.36				
99	53	SK 187	29・30-361	1.88	1.36	0.61	115	103	477	
99		SK 126	30-359	1.81	0.98	0.29				
101		SK 263	33-363	1.26	1.10	0.33				
101	53	SK 281	33-362・363	1.38	1.22	0.47				
101		SK 294	33-363	1.70	1.30	0.28				
101	54	SK 276	34-363	1.40	1.38	0.64				
101	54	SK 273	34-363	1.00	0.73	0.32				
101	54	SK 277	34-362・363	1.10	0.97	0.37	116	105	483-490	
102		SK 403	27-367・368	1.30	0.64	0.16	116		492	
103		SK 3223	28-368	1.03	0.33	0.21	115	96	478	
103	54	SK 3235	28-382	1.03	1.11	0.29	115	96	481	

第19表 土坑・ピット観察表(1)

遺構と遺物

押洞	図版	遺構番号	地区	長径	短径	深さ	遺物			備考
							押洞	図版	番号	
103	54	SK 3270	25 - 371・372	2.95	2.36	1.08				
103	54	SK 3269	25・26 - 371・372	1.10	1.07	1.03	116	102	482	表面より井戸か
104		SK 351	30 - 370	0.99	0.75	0.13	116		491	
104		SK 316	31 - 369	0.94	0.88	0.12	116	97	495	
104		SP 317	31 - 370	0.30	0.27	0.20	116	70	503	
104		SP 334	30 - 370	0.40	0.35	0.17	116	96	504	
104		SP 370	29 - 369	0.40	0.33	0.18	116		505	
104		SK 236	29 - 366	0.56	0.37	0.19		99	549	
105	54	SK 380	29 - 369	1.47	1.29	0.68	116		494	
105		SK 244	29・30 - 366・367	2.71	0.97	0.29				
105		SK 346	29・30 - 368	1.25	0.94	0.42				
105		SK 398	28・29 - 369	1.36	1.34	0.77				
105	54	SK 384	28・29 - 370	1.45	1.37	0.33				
105	55	SK 381	29 - 369	1.77	1.15	0.27				
105	55	SK 367	29 - 369	2.30	1.78	0.62				
105	55	SK 364	29 - 369・370	1.44	1.15	0.36				
105	55	SK 383	30 - 370	1.14	1.06	0.36				
105	55	SK 362	29・30 - 370	1.10	1.04	0.55				
105	55	SK 333	31 - 370	1.38	1.27	0.27				
105	55	SK 329	31 - 370	1.09	1.01	0.33				
105	55	SK 332	31 - 370	1.57	1.07	0.25				
105	56	SK 335	30・31 - 370	1.42	1.35	0.72	116	60	493	
105	56	SK 327	31 - 369・370	1.78	1.02	0.63	116	70・96・98	496~502	新 目
105	56	SK 327	31 - 369・370	1.67	1.45	0.78				
107		SK 491	27 - 387	1.25	0.78	0.38	117		507・509	
107		SP 3365	28 - 383	0.74	0.45	0.34	117	95	510	
107		SK 3411	25 - 379	0.91	0.72	0.62	117		508	
107		SP 3375	27 - 382	0.45	0.42	0.57	117	96	511	
107		SP 3369	28 - 382	0.39	0.30	0.71	117	71	513	
108	56	SK 3325	28・29 - 381・382	2.26	1.71	0.97	117	70	506	
108	56	SK 3324	29 - 381	1.19	1.00	1.18				
108	56	SK 512	25 - 387	2.00	1.42	0.55				新 目
108	56	SK 512	25 - 387	1.43	1.40	0.50				
108	56	SK 509	25・27 - 387	1.59	1.02	0.47				
108	57	SK 484	28 - 385	2.18	1.90	0.47				
108	57	SK 485	27 - 386・387	2.17	1.98	0.66				
109		SK 3319	30 - 381	2.37	1.39	0.19	117	96	514	
110	57	SK 3259	34 - 379	0.93	0.89	0.32				
110	57	SK 3302	33 - 380	1.21	0.91	0.38				
110	57	SK 3304	31・32 - 380	1.88	1.73	0.38				
110	57	SK 3308	32 - 383	0.95	0.93	0.21				
110	57	SK 3303	33 - 380	1.62	1.27	0.33	117	70	512	
110	57	SK 3310	33 - 384	1.83	1.68	0.19				
111		SK 532	31・32 - 388・389	1.04	0.94	0.22		99	553	
112	58	SK 530	28・29 - 390	2.11	1.67	0.82				
112	58	SK 541	31 - 392	1.10	1.00	0.28				
112	58	SK 542	31 - 392	1.27	0.83	0.32				
112	58	SK 571	28 - 393	1.03	0.95	0.34				
112		SK 557	28 - 391	1.07	0.92	0.35		99	554	
113		SK 3004	17 - 408	1.25	0.93	0.38	117	98	515・516	
114	58	SK 3441	20 - 406	1.41	1.22	0.60	118	100	517	編席板残存
114		SK 3443	20 - 407	1.47	1.40	0.33				
114		SK 3442	20 - 406	1.50	1.40	0.48				
付図		SP 287	36 - 366	0.44	0.43	0.07		71	528	
付図		SK 3014	32 - 332	1.44	1.28	0.18		99	536	
付図		SK 3018	31 - 329・330	1.38	1.23	0.31		99	537	
付図		SK 582	30 - 394・395	0.75	0.72	0.23		99	555	

第20表 土坑・ピット観察表(2)

SK3017



457

SK15



468



469



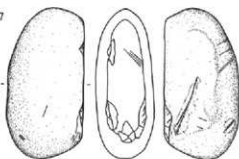
470

SK3174



472

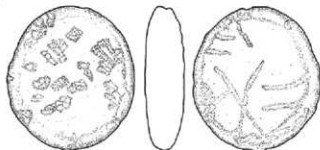
SK17



471

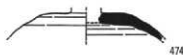


SK3157

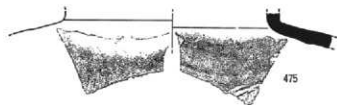


473

SK3173



474

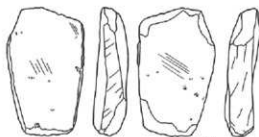


475



476

SK187



477

SK3223



478

SP154



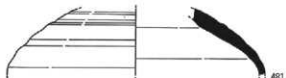
479

SP193



480

SK3235



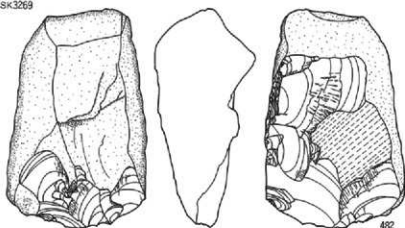
481

0 (1:3) 10cm

第115図 土坑・ピット出土遺物(1)

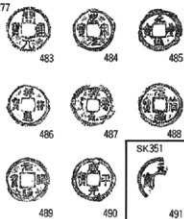
遺構と遺物

SK3269



0 (1:2) 5cm

SK277



SK351



SK403



482

SK335



493

SK316



495

SK380



494

SP317



503

SK327



496



497



499



498



500

SP334



504

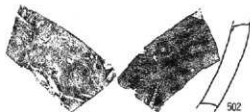
SP370



505



501



502

0 (1:3) 10cm

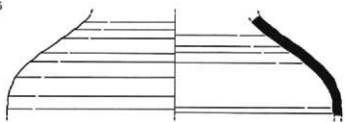
第116図 土坑・ピット出土遺物(2)

SK3325



506

SP3365



510

SP3390



507

SK3411



508

SK491



509

SP3375



511

SK3303



512

SP3389



513

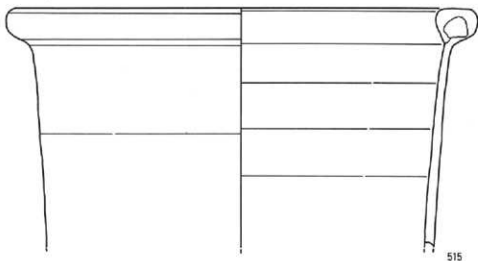
SK3319



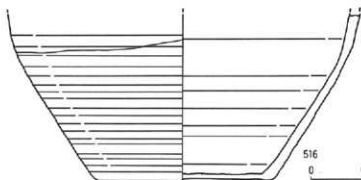
514

0 (1:3) 10cm

SK3004



515



516

0 (1:6) 20cm

第117図 土坑・ピット出土遺物(3)

23～29-379～388区(第107・108・117図 図版56・57第20～22)

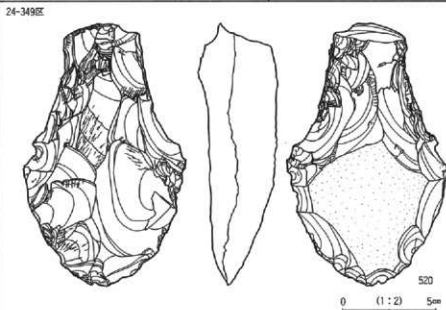
SK3325・484・495・509・512は長辺1.59～2.26m、短辺1.02～1.98m、確認面からの深さ0.47～1.18mを測る隅丸長方形プランをもつ土坑である。いずれも床面は平坦であり、壁の立上がりは急である。土層の堆積状況は、いずれも黒褐色シルト、褐色シルト、地山のシルトがブロック状に混じり合った層を主体とする。SK3325は堆積土が11層に分けられたが、基本的にブロックを構成する土質の比率の違いによるものである。同様の規模および特徴は、この区域北半に分布するSK3047・3416～3418・3420・3421にもみられる。

SK3324はSK3325の南に接して検出された、円形プランをもつ土坑である。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立上がる。土層には水の影響を受けた縞状、ちぎれ状の堆積がみられることから、小形の井戸の可能性がある。

遺物はSK3325から須恵器蓋の破片(506)が出土したほか、SK3411で土師器のミニチュア(508)、SP3390・3365・3375・3389から須恵器の破片資料(507・510・511・513)が得られた。また、SK491からは龍泉窯系とみられる青磁碗の底部破片が出土している。

30～34-378～384区(第109・110・117図 図版57 第20・21表)

SK3299・3302・3308は隅丸方形、SK3310不整隅丸長方形、SK3304・3303は不整楕円形を呈する土坑である。底面は平坦であり、壁の立上がりはSK3304・3310以外は急である。平面形と規模に差はあるが、土層の堆積状況はいずれもブロック状を呈する。遺物はSK3303から須恵器杯の破片(512)が出土したほか、北部のSK3319からは須恵器壺の破片(514)が得られている。



第118図 土坑・グリッド出土遺物

26~32-389~393区(第111・112図 図版58 第20・22表)

SK530は、平面形が楕円形を呈する大形の土坑である。底面は丸みを帯び、壁は垂直に近く立上がり、底面から20cm付近から朝顔形に開く。堆積土は黒褐色シルトを主体とし、下部ほど粘性が強まる。また、2層以下では10~30cm大の円礫の混入が目立つなど、SK3270とほぼ同様の特徴をもつ。SK541・542・571・557は長径1.03~1.27m、短径0.83~1.0m、確認面からの深さ0.28~0.35mの不整だ円形を呈する土坑である。底面は平坦で、壁の立上がりは急である。これらの堆積土は、暗褐色シルトを主体とし、地山のブロックをほとんど含まない。遺物はSK532・557から陶磁器破片(553・554)が出土した。

16~22-404~408区(第113・114・117・118図 図版58 第20・22表)

SK3441は、平面形が楕円形を呈する土坑である。底面には、北西寄りに直径約0.75mの桶の底板が残存する。土層は3層に分けられた。このうち1・2層が桶内の堆積土、3層が桶埋設に伴う掘り方である。底板の5cm上から染付皿(517)が出土している。SK3442・3443は、ほぼ同じ規模をもち、平面形が円形を呈する土坑である。機能、所属時期ともに不明である。また、SK3004では近世陶器壺(515・516)の埋設が確認されている。

番号	坪田	図版	遺構	地区	遺物番号	種類	副産	土 量				調査		底部・切取	調査号	分類		
								口径	底径	胴径	深さ	内 径	内 深					
467	115	95	SK 3017	30 - 332 - 333		埋設竈	壁	-	-	-	タタキ	アテ				IF		
468	115	70	SK 15	36 - 344		埋設竈	坪	(129)	-	(128)	ロクロナダ	ロクロナダ				IE		
469	115	70	SK 15	F 1 36 - 344		埋設竈	坪	-	(76)	(90)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器	骨針		IA1		
470	115	70	SK 15	36 - 344		埋設竈	壁	134	-	(32)	ロクロナダ	ロクロナダ				ID3		
472	115		SK 3174	25 - 361		埋設竈	壁	-	-	-						IF		
474	115		SK 3173	25 - 361		埋設竈	壁	-	(120)	(21)	ロクロナダ・ナダ	ロクロナダ				ID2		
475	115	95	SK 3173	25 - 361		埋設竈	壁	-	(251)	(26)	自然物・タタキ	ナダ・アテ				IF		
476	115	95	SK 3173	25 - 361		埋設竈	壁	-	-	-	自然物・タタキ	ナダ			517(染付皿?)	骨針	IF	
478	115	95	SK 3223	25 - 360		埋設竈	壁?	-	-	-	タタキ	タタキ					IF	
479	115	95	SP 154	25 - 361		埋設竈	壁	-	-	-	タタキ	アテ					IF	
480	115	95	SP 190	30 - 361		埋設竈	壁?	-	-	-	タタキ	ナダ					IF	
481	115	95	SK 3235	38 - 382		埋設竈	壁	-	(206)	(52)	ナダ	ナダ					IG2	
482	116	40	SK 335	30・31 - 370		埋設竈	坪	(152)	(60)	-	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器				IA2	
526		71	SK 335	30・31 - 370		埋設竈	坪	-	-	(17)	ロクロナダ	ロクロナダ					IE	
531		71	SK 335	30・31 - 370		埋設竈	坪	-	-	(16)	ロクロナダ	ロクロナダ					IE	
532		71	SK 335	30・31 - 370		埋設竈	坪	-	-	(17)	ロクロナダ	ロクロナダ					IE	
496	116	70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	壁	(144)	-	(36)	ロクロナダ	ロクロナダ					IE	
497	116	70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	高合付杯	-	64	(74)	(18)	ロクロナダ	ロクロナダ				骨針	IB
498	116	70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	壁	-	(70)	(105)	(14)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器				IA1
499	116	70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	壁	-	-	-	(12)	ロクロナダ						ID4
523		70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	坪	-	-	(58)	ロクロナダ	ロクロナダ					IE	
524		70	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	坪	-	-	(54)	ロクロナダ	ロクロナダ					骨針	IE
500	116	95	SK 327	31 - 359・370		埋設竈	壁	-	-	-	タタキ	アテ					IF	
503	116	70	SP 317	31 - 370		埋設竈	坪	-	(96)	(90)	(13)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器				IA2
504	116	95	SP 334	30 - 370		埋設竈	壁	-	-	-	タタキ	アテ					IF	
505	116	SP 370	29 - 369			埋設竈	壁	-	(109)	(13)	ロクロナダ・ナダ	ロクロナダ					骨針	ID2
506	117	70	SK 3325	38・29 - 361・382		埋設竈	壁	(137)	-	(26)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器					ID1
507	117	71	SP 3390	25 - 383		埋設竈	壁	-	-	-	(16)							ID5
508	117		SK 3411	25 - 379		土壟	小野土壟	-	35	(49)	(35)	ナダ	内底・1.0x1	ナダ			字野丸	II
510	117	95	SP 3365	29 - 383		埋設竈	壁	-	(264)	(78)	ロクロナダ	ロクロナダ					IG2	
511	117	95	SP 3375	27 - 382		埋設竈	壁	(85)	(172)	(43)	ロクロナダ	ロクロナダ					IG2	
512	117	70	SK 3303	33 - 380		埋設竈	坪	(140)	(70)	-	32	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器				IA1
513	117	71	SP 3389	28 - 382		埋設竈	坪	(78)	(94)	(11)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器					IA1
514	117	95	SK 3319	30 - 381		埋設竈	壁?	-	-	-								IF
515	118	71		28 - 407		埋設竈	坪	(56)	(86)	(14)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器					IA3
525		71	SK 3065	27 - 357		埋設竈	坪	-	-	(32)	ロクロナダ	ロクロナダ						IF
526		71	SK 3188	25 - 362		埋設竈	坪	-	-	(20)	ロクロナダ	ロクロナダ						IF
528		71	SP 287	36 - 366		埋設竈	高合付杯	(80)	(80)	(15)	ロクロナダ	ロクロナダ	陶磁器					IB4
529		71	SP 578	E 7 21 - 32 - 370		埋設竈	坪	-	-	(23)	ロクロナダ	ロクロナダ						IE

第21表 土坑・ピット出土土器観察表

VI 調査のまとめ

I 平安時代の遺構と遺物について

a 土器の分類

I 須恵器 還元焰により焼成された土器を須恵器とした。

A 坏 坏は底部切り離しの相違によって以下の3類に分けられる。

1類 底部が回転篋切りによって切り離されたもの。なお、本類と同様の技法により製作され、酸化焰焼成となるもの(5・260・356)が出土しているが、個体数が僅少であり、酸化焰焼成を意図して製作されたものとは考え難い。よって今回はこれらも本類に分類した。

2類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が65mm以上となるもの。

3類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が65mm未満となるもの。

B 高台付坏 底部切り離しの相違および法量によって以下の5類に分けられる。

1類 底部切り離しが回転篋切りによるもので、底径が70mm以上となり、坏身の法量が坏Aに近似するもの。

2類 底部切り離しが回転篋切りによるもので、底径が70mm以上となり、坏身の深さが深く法量が大きくなるもの。

3類 底部切り離しが回転篋切りで、底径が70mm未満で小形の器形となるもの。

4類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が70mm以上となるもの。

5類 底部切り離しが回転糸切りによるもので、底径が70mm未満の小形のもの。

C 双耳坏 器形が推定できるものはないが、耳が2点(158・245)出土している。

D 蓋 天井部の整形技法等により以下のように分類される。

1類 天井部が無調整あるいは調整が天井部全面におよばず、ロクロからの切り離しの際の回転篋切り痕を残すもの。

2類 天井部に回転ヘラケズリが施されるもの。

3類 天井部がナデ整形され、切り離し痕を残さないもの。

1～3類はつまみ上部の形状により、周辺部が縁よりくぼみ、中央部が高くなるaと、全体がくぼむbに細分される。

4類 3段につくられたつまみ部をもつもの。334の1点が出土した。金属製仏具の模倣と考えられる。

E A～C類の坏身部分およびD類の体部破片を一括する。

F 甕 法量の大小により以下の2類に分けられる。

1類 胴部最大径が40cm未満になると思われる比較的小型のもの。

2類 胴部最大径が40cm以上の大型のもの。

G 壺 法量および器形により以下のように分類される。

1類 胴部最大径20cm、器高20cm未満となるもの。

2類 胴部最大径20cm、器高20cm以上となる大形のもの。

H 横瓶 体部破片が1点(278)出土した。

I 器種の区別の困難な貯蔵形態の破片資料を一括する。

II 土師器 酸化焰により焼成された土器を土師器とした。

A 坏 非ロクロ成形で内面黒色処理が施され、平底の器形となるものが2点(73・397)出土した。

B 鉢 ロクロ成形無調整で底部に回転糸切り痕を残すものが1点(30)出土している。

C 甕 法量および器形により以下のように分類される。被熱により成整形技法が不明のものが多いが、基本的にロクロ成形が主体となると考えられる。

1類 胴部最大径が15cm未満または器高が15cm未満となる小型のもの。

2類 胴部最大径が15~20cmで器高が15~30cmの中型の器形となるもの。胴部の張る a と細身の b に細分される。

3類 胴部最大径が15~20cmで器高30cm以上の長胴の器形となるもの。

4類 胴部最大径が20cmを超える大型のもの。すべて長胴の器形となる。

5類 把手付の甕が1点(357)出土している。被熱の状況から甕となる可能性もある。

6類 明らかに非ロクロ成形と認められる底部資料が1点(121)出土している。

E 埴 大形の器形となるものが1点(109)出土している。

番号	発掘地区	遺構	地区	遺物番号	種類	器種	造 量				調 査		器部・切痕	備 考	
							口径	底径	胴径	器高	外 面	内 面			
447	91	91 SE 3190	26	359	磁器	青磁碗	-	-	-	-	-	-	-	甕底	
449	91	91 SE 3390	26	381-382	陶器	磁鉢	-	-	[56]	ロクロナデ	20cmで8本の脚目	-	-	珠洲系陶器	
450	91	91 SE 3390	26	381-382	陶器	磁鉢	-	-	-	-	20cmで8本の脚目	-	-	珠洲系陶器	
451	91	91 SE 3398	22	384	陶器	磁鉢	[280]	-	-	[92]	ロクロナデ	30cmで12本の脚目	-	珠洲系陶器	
454	91	91 SE 3002 P 2	21	417-418	陶器	磁鉢	-	-	-	-	ロクロナデ	25cmで11本の脚目	-	珠洲系陶器	
452	90	90 SD 3010	33~29	325-323	磁器	金付蓋 (50)	-	-	-	[113]	長柄蓋付	陶鉢・口突	-	-	
454	90	91 SE 3038	29~27	338-339	磁器	磁鉢	-	-	-	-	ロクロナデ	15cmで6本の脚目	-	-	
494	110	SE 390	29	369	陶器	鉢	[100]	[194]	[70]	-	ロクロナデ	ロクロナデ・横溝	-	珠洲系陶器類? 2	
495	110	97 SE 316	31	369	陶器	鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	珠洲系陶器	
500	110	98 SE 327	31	369・370	陶器	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	骨針	
500	110	98 SE 327	31	369・370	陶器	甕	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	201陶一器体 骨針	
500	117	SE 491	27	387	磁器	青磁碗	-	[60]	[72]	[20]	-	-	-	長付蓋付	甕底
515	117	98 SE 3004	17	408	陶器	甕	790	-	706	[374]	-	-	-	-	
516	117	98 SE 3004	17	408	陶器	甕	-	276	[550]	[262]	-	-	-	-	
517	118	100 SE 3441	20	406	磁器	鉢	106	51	25	-	高台輪昇縁	磨給	高台内執拗	-	
518	118	99	34	341	磁器	青磁碗	[166]	-	-	[59]	-	-	-	甕底	
536	99	99 SE 3014	32	332	磁器	金付蓋	-	-	-	[13]	高台輪昇縁	コンニャク印押	長付蓋付	肥前	
537	99	99 SE 3018	31	329・330	磁器	金付蓋	-	-	-	[10]	口縁下昇縁	-	-	肥前	
539	99	99 SE 3025	25~27	338-336	陶器	陶磁器	-	-	-	-	陶胎	陶胎	-	-	
539	99	99 SE 3044	29	348	磁器	金付蓋	-	-	-	[28]	-	-	-	長付蓋付	肥前
540	99	99 SE 3044	29	348	磁器	磁鉢蓋	-	-	-	-	-	-	-	見込給付	長付蓋付
541	99	99 SE 3045	27	349-353	陶器	陶磁器	-	-	-	[18]	-	-	-	骨目	肥前
542	99	99 SE 3053 (アソコ)	27	353	磁器	金付蓋	-	-	-	[15]	-	-	-	長付蓋付	肥前
543	99	99 SE 3071 (アソコ)	26	357	陶器	磁鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	-
544	99	99 SE 3082	26	358	磁器	金付蓋?	-	-	-	-	-	-	-	汚損	-
545	99	99 SE 3389	27	381-382	陶器	灰物甕?	-	-	-	-	-	-	-	-	-
546	99	99 SE 74	39	346	磁器	金付蓋	-	-	-	[21]	給付	-	-	肥前	
547	99	99 SE 166	26	361	陶器	灰物甕?	-	-	-	-	-	-	-	-	-
548	99	99 SE 186 (甕鉢)	29	361	陶器	志野甕?	-	-	-	[10]	-	-	-	高台内輪取	瀬戸・美濃
549	99	99 SE 236	29	366	磁器	白磁碗	-	[40]	-	[17]	高台輪昇縁	見込給取	高台・覆胎	瀬戸・美濃	
550	99	99 SD 271 (磨給鉢)	32~34	361-363	土器	磨給	-	-	-	-	ミガキ	磨胎	-	通風磨胎片?	
551	99	99 SD 271 (磨給鉢)	32~34	361-363	磁器	磨給	-	-	-	-	磨胎	磨胎	-	-	
552	99	99 SE 411	29	361	陶器	鉢	-	-	-	[20]	買入	買入	-	-	
553	99	99 SE 532	31	381-389	磁器	金付蓋	-	-	-	[28]	磨胎	-	-	-	
554	99	99 SE 557	28	391	陶器	灰物甕?	-	-	-	-	-	-	-	下半磨胎	磨胎
555	99	99 SE 562	30	394-395	陶器	白磁鉢	-	-	-	[57]	-	-	-	白化粧土・下半磨胎	-

第22表 陶磁器観察表

b 竪穴住居跡の所属時期について

本項では、今回の調査で検出された竪穴住居跡の土器組成とその所属時期について、さきにおこなった分類に従って若干の検討を試みる。

供膳形態 須恵器環の各類型の出現比率は、ST3214・3219・3340で回転寛切りの坏 I A 1 類のみで構成され、ST610では、I A 1 類を主体としてこれに回転糸切りで底径の大きな I A 2 類が伴う。ST270・3330では、I A 1 類と I A 2 類の比率が拮抗し、ST3370でも I A 1 類と I A 2 類の比率が拮抗するが、回転糸切りで底径の小さな I A 3 類が伴う。ST280・ST3350では I A 2 類のみが出土している。

高台付坏は数量的に限られるが、全体の傾向では底部切り離しが回転寛切りで大型の器形となる I B 1 類・I B 2 類が主体となる。ST280では、回転寛切りで小形の I B 3 類が出土し、回転糸切りで大型の器形となる I B 4 類は ST3370 および ST3350 で得られている。また、ST3350には回転糸切りで小形の I B 5 類が伴う。

蓋は ST3340 を除く各竪穴住居跡で比較的良好な資料が得られた。各住居跡ごとの変化は坏

番号	押印	図版	産 跡	地 区	遺物番号	類別	器種	長さ	幅	厚さ	備 考
455	81	191	SE 3388	22 - 384		石器	石鏡	108	45	30	磨材質物
456	89	100	SB 3010	33-36 - 325-333		石器	石鏡	152	103	50	磨材質物
457	89	100	SB 3010 F 1	33-36 - 325-333		石器	磨研石押	[50]	[41]	[24]	磨材質物
468	88	102	SB 3272	21-21 - 384-401		石器	磨研石	100	75	27	磨材質物
469	89		SB 3272	21-21 - 384-401		石器	磨研石	83	70	20	磨材質物・芳原光沢
460	89	101	SB 3272	21-21 - 384-401		石器	石鏡	101	44	18	磨材質物
472	115	100	SK 3152	25 - 359		石器	磨研石	115	101	33	磨材質物・鉄垢
485	116	102	SK 3289	28 - 38 - 372		石器	石鏡	118	73	41	磨材質物
520	118	101		24 - 349		石器	打研石押	139	85	40	磨材質物・芳原磨研
556	102	SB 271 (磨研石)		22-24 - 384-383		石器	ノコギリ	53	34	12	磨材質物
72	15	100	ST 180 EP 5	29 - 364	陶 60	石製品	磁石	362	182	159	磨材質物
131	24	103	ST 270 EP 2	32 - 364		石製品	磁石	95	46	27	磨材質物・砥石面
567	100	ST 3214 F 2		28 - 38 - 364		石製品	磁石	[19]	[15]	[5]	磨材質物・砥石面
312	45	103	ST 3320 EK 8	36 - 370		石製品	磁石	[49]	31	20	磨材質物・砥石面
313	45	103	ST 3320 EL 1	37 - 370		石製品	磁石	63	36	11	磨材質物・砥石面
314	45	103	ST 3320 EL 1	37 - 370		石製品	磁石	30	20	12	磨材質物・砥石面
471	115	104	SK 17	33 - 347		石製品	磁石	120	45	60	磨材質物・砥石面
477	115	103	SK 167	29 - 30 - 361		石製品	磁石	102	61	20	磨材質物・砥石面・鉄垢
44	10	104	ST 610	37 - 38 - 347-349		鉄製品	磨研石	[19]	38	2	輪造物
190	21	104	ST 3219	28 - 366	陶 11	鉄製品	針金	50		2	
230	26	104	ST 280 EP 5	34 - 362	陶 60	鉄製品	刀子	[106]	43	4	
231	26	104	ST 280	33 - 34 - 361 - 368		鉄製品	刀子	[41]	20	2	
315	45	104	ST 3320 EK 7	37 - 370	陶 44	鉄製品	刀子	[70]	22	3	
316	45	104	ST 3320 EK 7	37 - 370	陶 44	鉄製品	刀子	[41]	17	2	木片付
317	45	104	ST 3320 EK 7	37 - 370	陶 44	鉄製品	刀子	[26]	16	5	木片付
351	50	104	ST 3330	31 - 32 - 371 - 372		鉄製品	釘?	[50]	6	5	
352	50	105	ST 3330	31 - 33 - 371 - 373		鉄製品	刀子	27	16	2	
492	116		SK 405	27 - 367 - 368		陶磁製品	人形	[42]	[35]	20	
568	105	ST 3320 EK 7		37 - 370		鉄製品	針金	[41]		4	
569	105	ST 3321 EK 7		37 - 370		鉄製品	針金	[46]		3	
560	105	ST 3309		30 - 31 - 372 - 373		鉄製品	針金	[30]		4	
561	105	ST 3309		30 - 31 - 372 - 373		鉄製品	針金	[50]		2	
562	105	SK 3150		25 - 359		鉄製品	釘	[71]	13	11	
563	105	ST 3214		28 - 384		スラッ		36	44	31	
564	105	ST 3320		38 - 38 - 370 - 371		スラッ		34	26	25	
565	105	SK 3150		25 - 359		スラッ		66	83	44	
							鉄				押印年
483	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	圓光通宝	24			周 武徳4年(921)
484	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	聖元光宝	22			北宋道中端光元年(1101)
485	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	元豊通宝	23			北宋元豊元年(1076)
486	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	祥符通宝	23			北宋大中祥符元年(1006)
487	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	祥符通宝	23			北宋大中祥符元年(1006)
488	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	元符通宝	24			北宋元符元年(1088)
489	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	元符通宝	23			北宋元符元年(1088)
490	116	105	SK 277	34 - 362 - 363		鉄貨	咸平光宝	23			北宋咸平元年(996)
491	116		SK 351	30 - 370		鉄貨	元亨通宝	[24]			

第23表 石器・石製品・陶磁製品・金属製品観察表

類ほど顕著ではなく、天井部に回転ヘラケズリが施されるID2類が主体となる。

煮沸形態 煮沸形態は被熱による器面の損傷が著しく、成整形技法の観察が困難なものが大半であったが、ロクロ成形の土師器壺が主体になるものと推定される。各堅穴住居跡内では、特にカマド付近からの出土が目立ち、大小の法量をもつものが混在する状況がうかがえた。小形および中形のII C 1類・II C 2類では、ロクロ成形無調整で平底の器形となり、底部に回転系切り痕を残すものが多い。大形で長胴の器形となるII C 3類・II C 4類では、外面が上半ナデまたはハケメ、下半縦方向のケズリ、内面がナデまたはハケメ整形となる。また、外面にタタキの痕跡が認められるものもある。底部は小さく、丸底風の平底となる。

貯蔵形態 出土数量が少なく、全体の器形が把握できる資料は得られなかった。破片資料からの推定となるが、須恵器壺IFでは大形の器形となるものは少なく、また、壺IGでは胴部最大径が20cmをこえるIG2類が主体となる。

これらの各堅穴住居跡を従来の研究成果からみた所属時期は、概ね9世紀前半の範疇で捉えられる。このなかで、須恵器帯が回転篋切りとなるIA1類のみで構成されるST3214・3219・3340は古手の様相を示し、すべて回転系切りとなるIA2類で構成されるST280・3350は、より新しい要素をもつものと推定される。なお、ST180・250の所属時期も、概ねこの時間幅での把握が可能と考えられる。

2 調査のまとめ

東北横断自動車道酒田線(寒河江～西川間)建設工事に伴う落衣長者屋敷遺跡第1次～第3次緊急発掘調査の結果を要約するとつぎようになる。

- (1) 縄文時代の遺物は、井戸跡・溝跡などから若干量の石器が出土した。いずれも堆積土内への流れ込みと考えられる。また、調査区内の2箇所から、陥穴状遺構の列が検出された。これらは縄文時代の所産とみられるが、土器が出土しておらず所属時期の詳細は不明である。
- (2) 平安時代の遺構は堅穴住居跡が11棟、陥穴状遺構が1基検出された。このほか、堅穴住居跡と軸線が一致する掘立柱建物跡、当該期の土器がまとまって出土した井戸跡などが検出され、これらも平安時代に構築された可能性がある。堅穴住居跡は、出土した遺物から概ね平安時代前期の9世紀前半代に比定される。
- (3) 中世・近世では、D区の南に隣接する巨海院跡との関連から、区画的な様相をもつSD3272が目目される。この溝跡に囲まれた部分には、陥穴状遺構、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などが検出され、珠洲系陶器、青磁などが小破片で出土した。また、近世の陶磁器も一部の土坑・ピットから出土しているが、これらの詳細な検討は今後の課題となる。

参考文献

- 山形県教育委員会(1990)『分布調査報告書(17)』山形県埋蔵文化財調査報告書第148集
 須賀井新入・黒坂広美(1992)『平野山古窯跡群第12地点遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第178集
 山形県教育委員会(1995)『分布調査報告書(22)』山形県埋蔵文化財調査報告書第195集
 山形県埋蔵文化財センター(1995)『予備調査報告書』
 佐藤庄一・須賀井明子(1998)『平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第52集
 丸山晶子(2000)『高瀬山遺跡(2期)第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第80集

報告書抄録

ふりがな	おともちようじゃやしきいせきはつちつちようさほうこくしよ							
書名	落衣長者屋敷遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第79集							
編集者名	黒坂雅人・伊藤元・須賀井明子							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL0236-72-5301							
発行年月日	2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (㎡)	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
おともちようじゃやしきいせきいせきはつちつちようさほうこくしよ 落衣長者屋敷	やまがたけん 山形県 さかたし 寒河江市 あかあそごう 大字築橋 あかあそごう 字金谷他	6206	433	38度 21分 56秒	140度 15分 14秒	19941024 ～ 19960709	32,500	東北横断自 道車道酒田 線(寒河江 ～西川間) 建設工事
種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡	平安時代 (9世紀)	竪穴住居	15	土師器(坏・甕等)	最上川左岸の河岸段丘に 立地する平安時代の集落 跡である。調査区の南西に 室町時代創建と伝えられ る巨海院跡があり、また、 調査区の南200mには中世 の居館跡にかかわる土塁 が残る。			
	中世	掘立柱建物	11	須恵器(坏・蓋・甕等)				
		井戸	8	珠洲系陶器				
		溝	6	青磁				
(総出土箱数：34)								

图 版



長者屋敷跡（東から）



巨海院跡（南から）

図版2



第1次調査トレンチ設定



重機による表土除去



面整理作業状況



記録作業状況



22トレンチ遺構検出状況（北から）



表土除去前の調査区全景（東から）



表土除去前の調査区全景（西から）



A調査区 表土除去作業状況（東から）



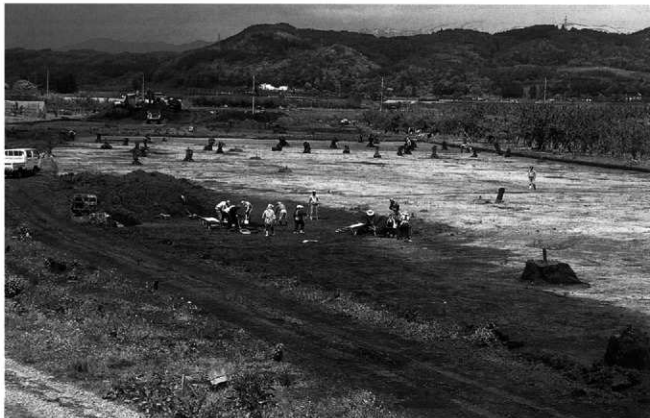
A調査区 作業状況（南西から）



A調査区 遺構検出状況（東から）



D調査区 表土除去作業状況（北西から）



C調査区 面整理作業状況 (南東から)



B調査区 遺構検出状況 (北西から)



C調査区 遺構検出状況 (南東から)



D調査区 遺構検出状況 (南東から)



第2次調査完掘状況（北西から）



第3次調査C区 西半完掘状況 (↑南東)



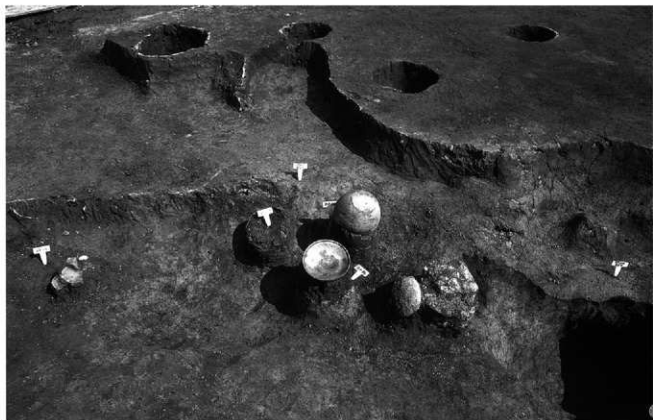
25・26-334区テストビット土層断面（南西から）



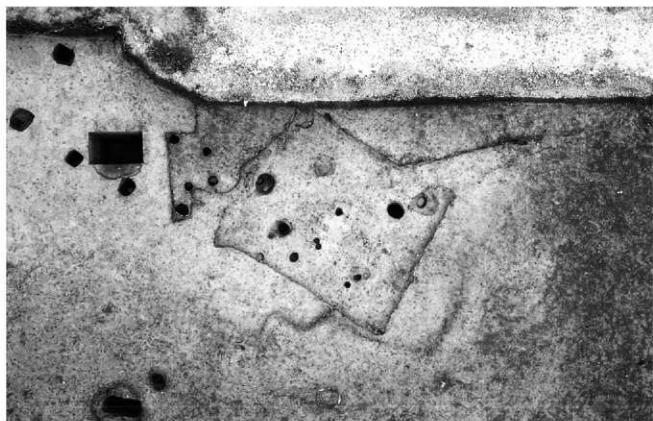
ST610調査状況（北西から）



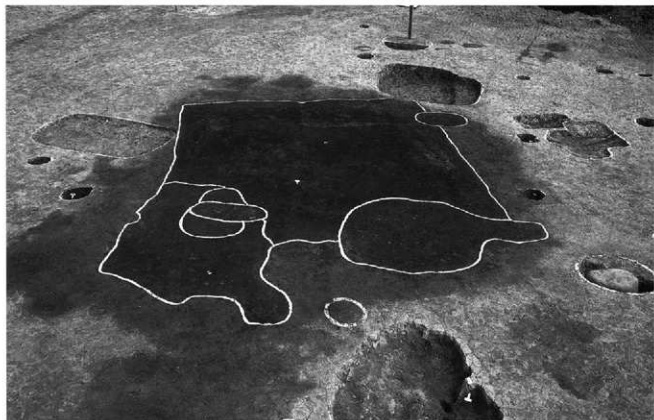
ST610床面検出状況（北西から）



ST610 EL1付近遺物出土状況（西から）



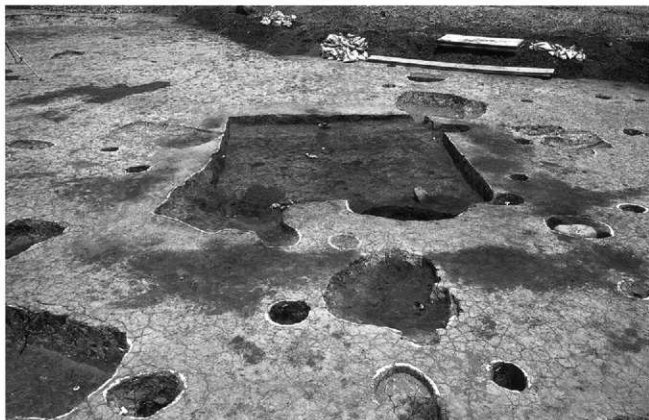
ST610完掘状況（↑南）



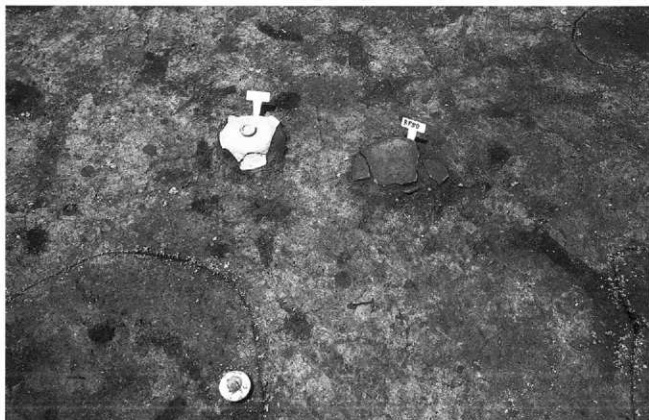
ST180検出状況（南から）



ST180調査状況（南東から）



ST180床面検出状況（南から）



ST180 RP50・51出土状況（南東から）



ST180 RP52・53出土状況（北東から）



ST180完掘状況（北から）



SK411土層断面（南東から）



SK411完掘状況（東から）



ST250調査状況（南西から）



ST250床面検出状況（東から）



ST250 RP54出土状況（北から）



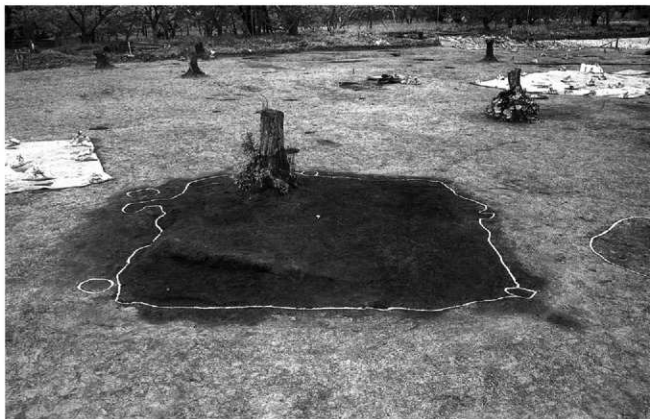
ST250 RP55出土状況（東から）



ST250 EL1・EK6土層断面 (南西から)



ST250完掘状況 (西から)



ST270検出状況（東から）



ST270調査状況（南西から）



ST270 EL1付近遺物出土状況（北から）



ST270 EL1土層断面（北から）



ST270 EL1完掘状況 (南から)



ST270完掘状況 (北から)



ST3214検出状況（南西から）



ST3214調査状況（南西から）



ST3214床面検出状況（南西から）



ST3214 RP1・2出土状況（南西から）



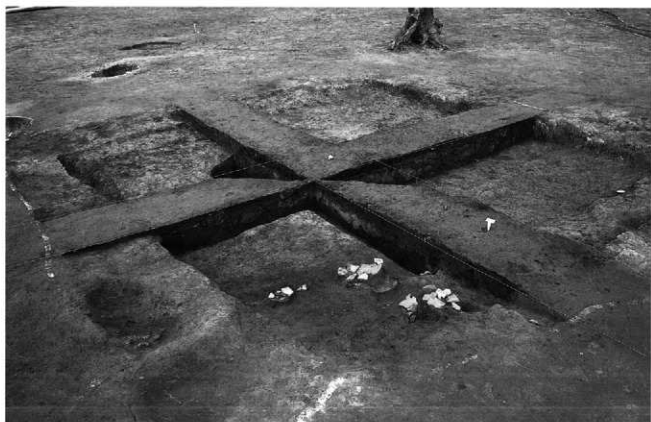
ST3214 RP6・7・9出土状況（南西から）



ST3214完掘状況（南西から）



ST3219検出状況（南から）



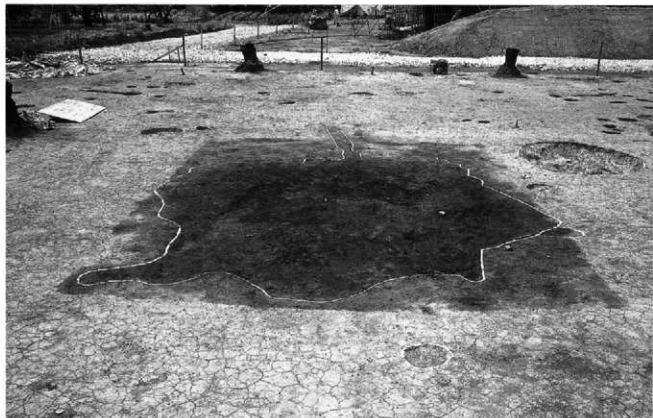
ST3219調査状況（南から）



ST3219調査状況（西から）



ST3219完掘状況（西から）



ST280検出状況（東から）



ST280調査状況（西から）



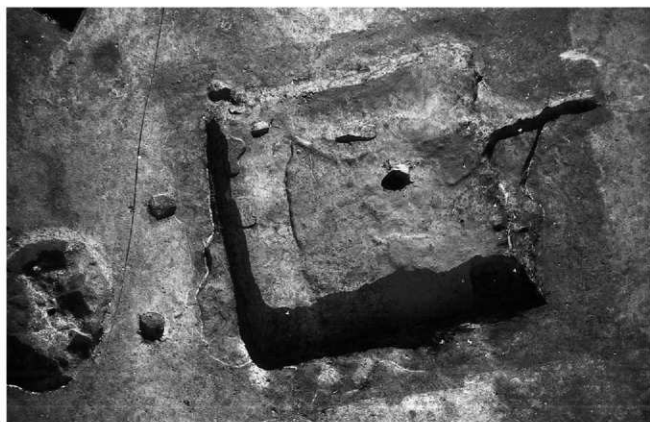
ST280床面検出状況（南から）



ST280 EL1付近遺物出土状況（北から）



ST280 EL1完掘状況（北から）



ST280完掘状況（↑東）



ST3370検出状況（北から）



ST3370調査状況（北西から）



ST3370床面検出状況（北から）



ST3370 EL1・EL9土層断面（北から）



ST3370 RP15出土状況（南西から）



ST3370 RP20~23出土状況（北から）



ST3370 EL1・EL9完掘状況（北から）



ST3370完掘状況（東から）



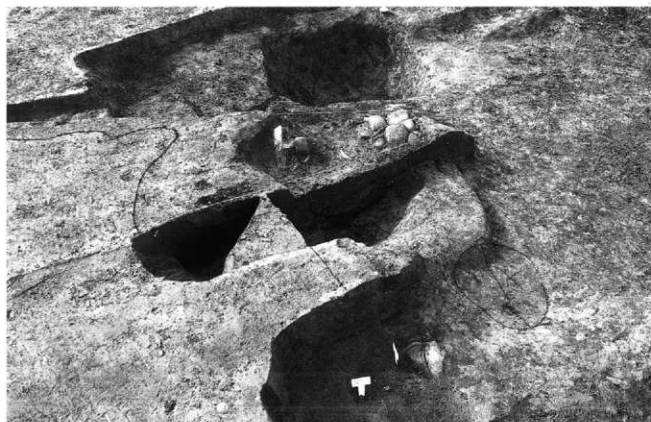
ST3330検出状況（南から）



ST3330調査状況（東から）



ST3330床面検出状況（南から）



ST3330 EL3土層断面（北東から）



ST3330 RP34~37出土状況（東から）



ST3330完掘状況（北東から）



ST3340調査状況（東から）



ST3340 RP12・13出土状況（東から）



ST3340床面検出状況（南西から）



ST3340完掘状況（北東から）



ST3350調査状況（南西から）



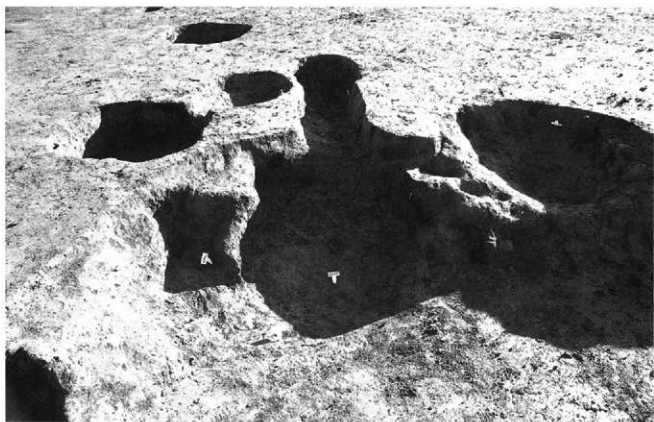
ST3350床面検出状況（東から）



ST3350 RP24~27出土状況（北東から）



ST3350 EL1土層断面（北から）



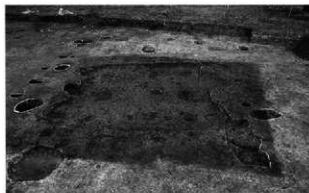
ST3350 EL1完掘状況（北から）



ST3350完掘状況（西から）



ST3224検出状況（南東から）



ST3224床面検出状況（南西から）



ST3224完掘状況（北東から）



ST260土層断面（北西から）



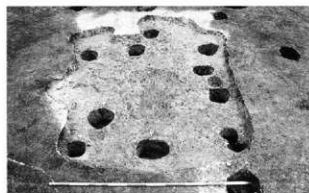
ST3369土層断面（東から）



ST3369完掘状況（西から）



ST570床面検出状況（南から）



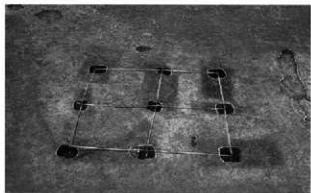
ST570完掘状況（西から）



SB630完掘状況 (南東から)



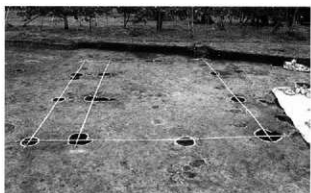
SB18完掘状況 (北から)



SB20完掘状況 (南から)



SB418完掘状況 (西から)



SB3238完掘状況 (南西から)



SB440完掘状況 (西から)



SB430完掘状況 (南西から)



SB560完掘状況 (南から)



SB3360完掘状況（西から）



SE640調査状況（東から）



SE3380土層断面 (南西から)



SE3388完掘状況 (東から)



SE550土層断面 (北から)



SE3002完掘状況 (北から)



SE3150土層断面 (南西から)



SE240上部土層断面 (南西から)



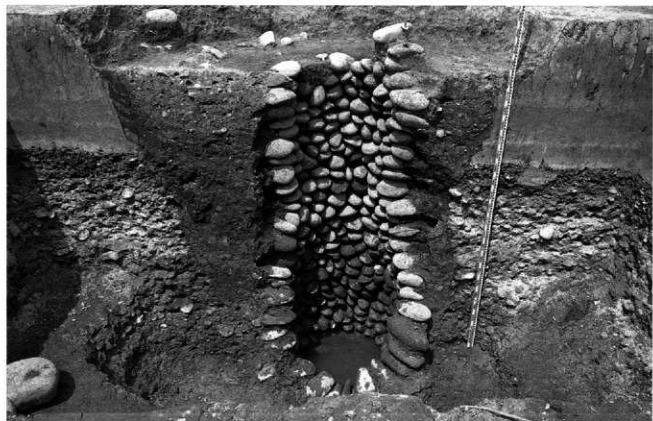
SE240石組検出状況 (南西から)



SE240調査状況 (西から)



SE240土層断面 (西から)



SE240石組内完掘状況 (南西から)



SE3400上部土層断面（南から）



SE3400作業状況（東から）



SE3400石組検出状況（西から）



SE3400土層断面（北西から）



SE3400石組内完掘状況（北西から）



SD3010東半完掘状況（西から）



SD3010西半調査状況（西から）



SD3035完掘状況（北から）



SD3055調査状況（南西から）



SD3271土層断面（西から）



SD3271完掘状況（南西から）



SD110完掘状況（南から）



SD3272屈曲部付近調査状況（西から）



SK3043完掘状況（北西から）



SK73土層断面（南西から）



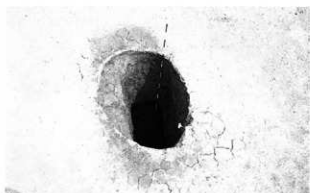
SK35土層断面（南から）



SK423土層断面（南西から）



SK33完掘状況（北西から）



SK32完掘状況（北西から）



SK19完掘状況（北西から）



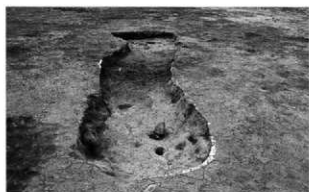
SK34完掘状況（南東から）



SK620土層断面 (南西から)



SK3440土層断面 (南から)



SK3017完掘状況 (東から)



SK3039土層断面 (南から)



SK84完掘状況 (東から)



SK3041・SK3042土層断面 (北西から)



SK72完掘状況 (南から)



SK3046土層断面 (南から)



SK3040土層断面 (西から)



SK3047土層断面 (南から)



SK3048・SK3049完掘状況 (北西から)



SK3061完掘状況 (西から)



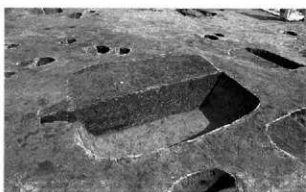
SK3065土層断面 (南西から)



SK3135・SK3157土層断面 (南から)



SK3151完掘状況 (西から)



SK3169土層断面 (北西から)



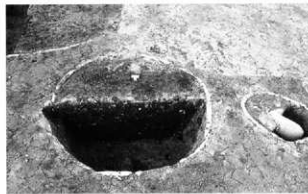
SK3160土層断面 (南から)



SK3162完掘状況 (北から)



SK3188土層断面 (南東から)



SK3174土層断面 (南から)



SK3173土層断面 (西から)



SK3203完掘状況 (北から)



SK187土層断面 (西から)



SK281土層断面 (東から)



SK276土層断面 (北東から)



SK273土層断面 (南東から)



SK277土層断面 (南西から)



SK3235土層断面 (南から)



SK3270土層断面 (北西から)



SK3269・SK3270完掘状況 (北西から)



SK380土層断面 (南西から)



SK384土層断面 (東から)



SK381土層断面 (西から)



SK367土層断面 (南から)



SK364土層断面 (西から)



SK363土層断面 (西から)



SK362土層断面 (南から)



SK333土層断面 (南から)



SK329土層断面 (南から)



SK332土層断面 (南から)



SK335土層断面 (西から)



SK327土層断面 (北西から)



SK3325土層断面 (南から)



SK3325完掘状況 (東から)



SK3324土層断面 (南西から)



SK3324完掘状況 (西から)



SK512土層断面 (北から)



SK509土層断面 (南西から)



SK484土層断面 (南西から)



SK495土層断面 (南西から)



SK3299土層断面 (南西から)



SK3302土層断面 (南西から)



SK3304土層断面 (南から)



SK3308土層断面 (西から)



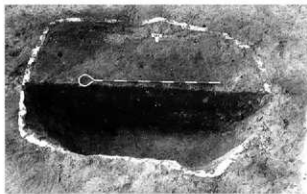
SK3303土層断面 (北から)



SK3310土層断面 (西から)



SK530土層断面（北西から）



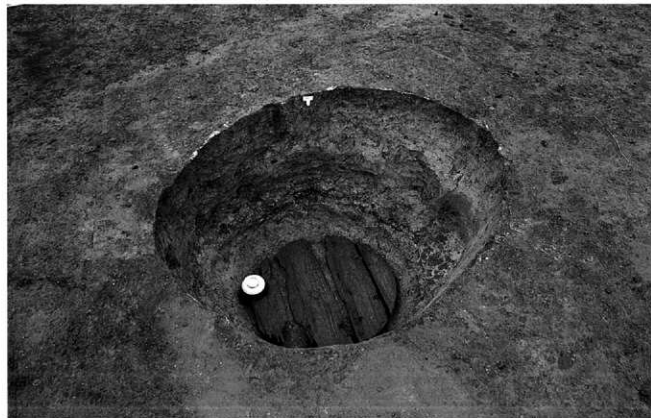
SK541土層断面（南西から）



SK542土層断面（南から）



SK571土層断面（南から）



SK3441完掘状況（南から）



1



2



3



4



5



6



11



92



93



95



132



133



134



136



192



232



239



240



244



318



319



320



321



322



353



354



355



358



359



360



392



73



398



399



465



493



140



206



238



241



323



324



325



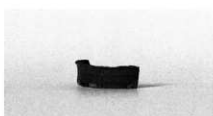
355



361



362



393



400



14



50



51



52



53



159



160



162



163



194



213



261



262



263



264



265



266



267



268



269



334



369



425



443



7



8



9



10



12



13



9



16



15



47



45



46



49



48



52



53



54



74



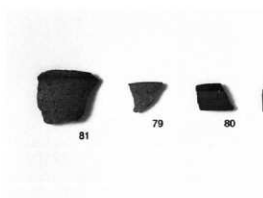
75



76



76



81

79

80

82



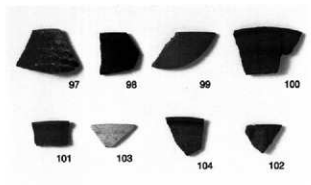
91



94



96



97

98

99

100

101

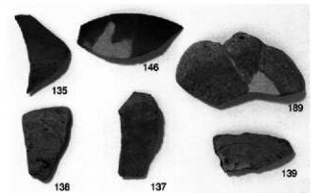
103

104

102



105



135

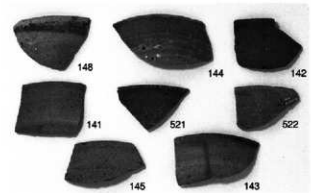
146

189

138

137

139



148

144

142

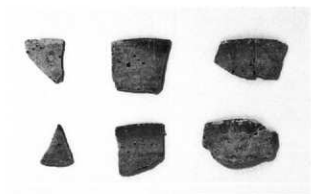
141

521

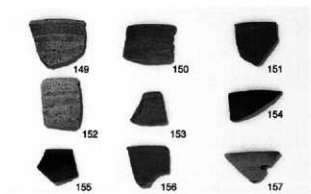
522

145

143



147



149

150

151

152

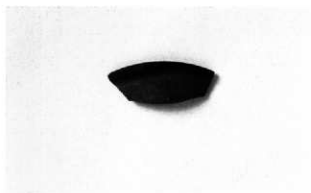
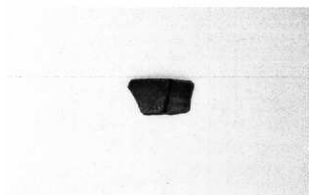
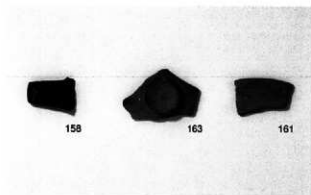
153

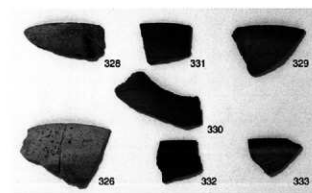
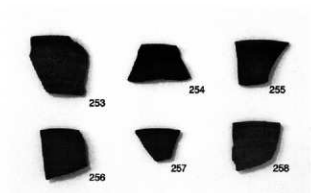
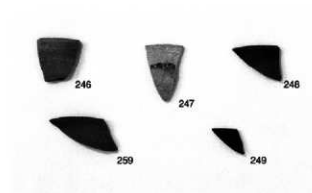
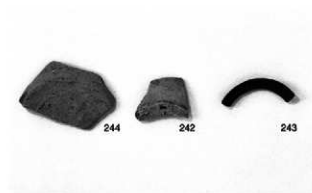
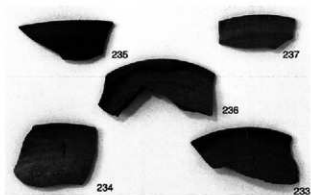
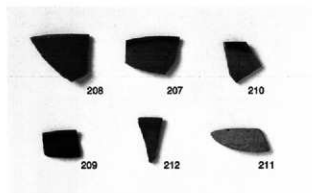
154

155

156

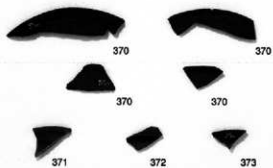
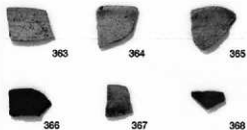
157

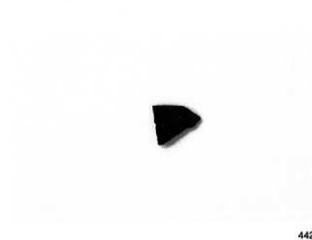
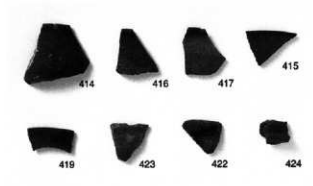
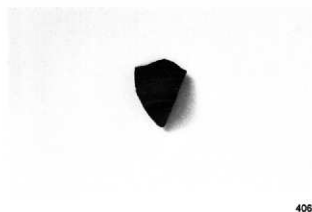


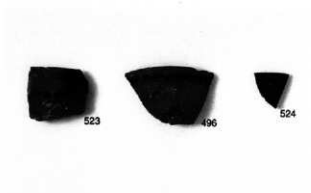
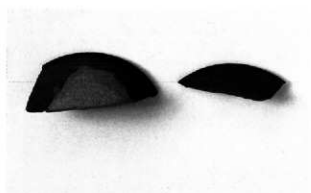
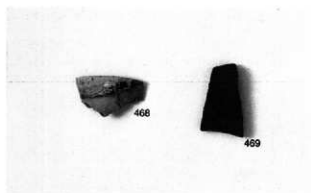


245

327









525



526



513



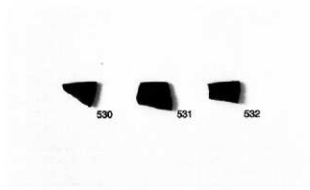
507



528



529



530

531

532

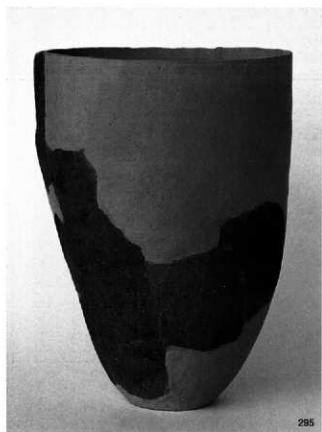


519























24



25



27



32



33



31



34



37



36



35



533



38



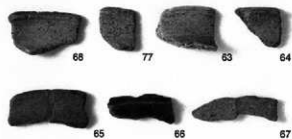
60



61



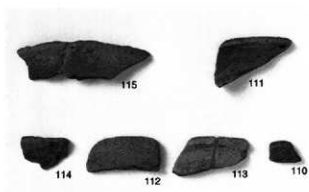
62



69外面



69内面



125



116



127



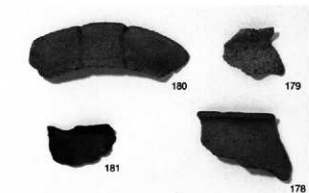
128外面



128内面



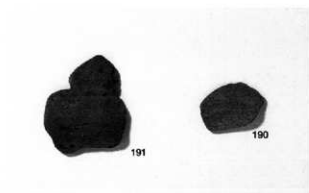
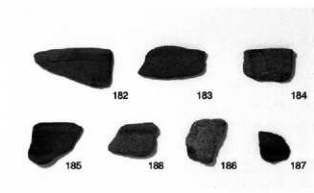
130



177外面

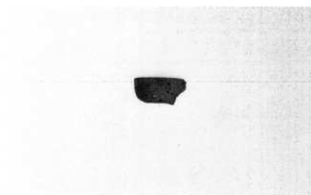


177内面





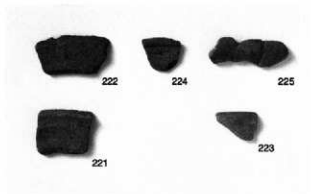
195



196



220



279

279



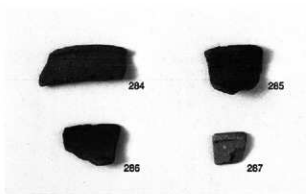
281



282



283



291



292



293



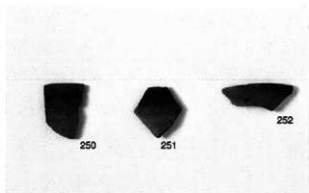
303外面



303内面



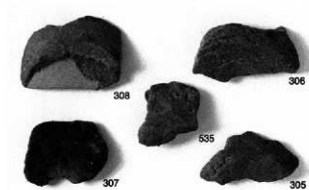
304



250

251

252



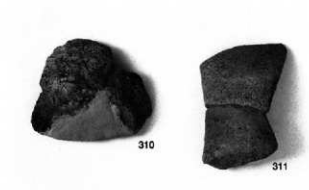
308

306

305

307

305

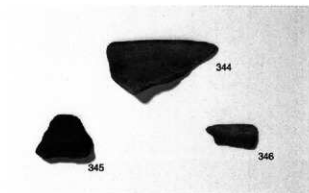


310

311



343



344

345

346

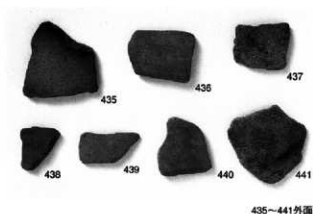
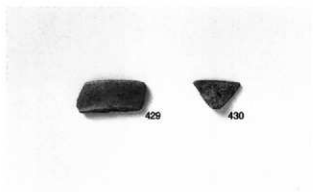
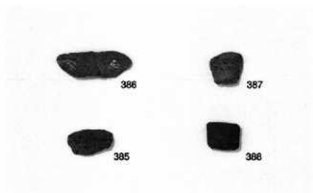


350外面

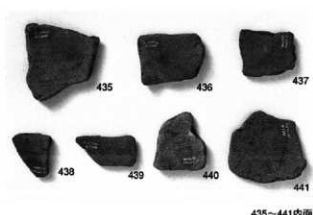
350内面



382

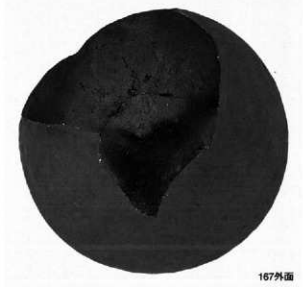


435~441外面

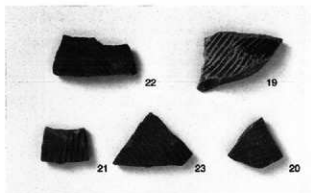


435~441内面

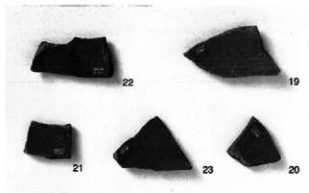




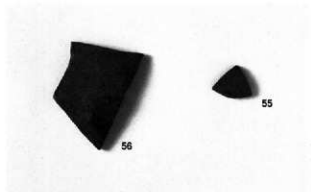
図版90



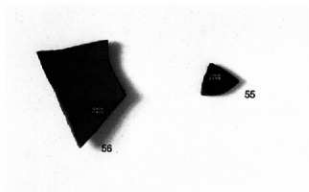
19~23外面



19~23内面



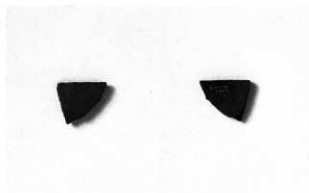
55・56外面



55・56内面

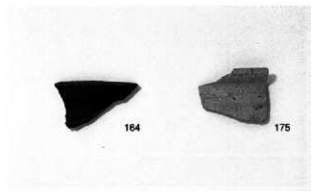


84

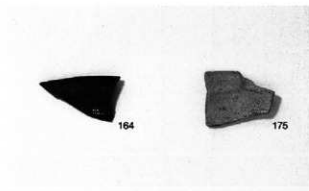


106外面

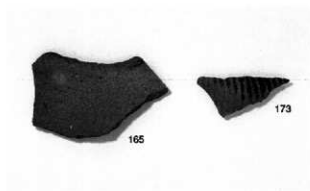
108内面



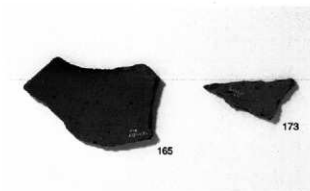
164・175外面



164・175内面



165・173外面



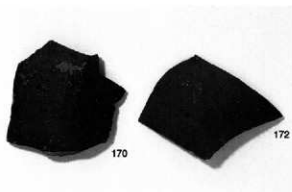
165・173内面



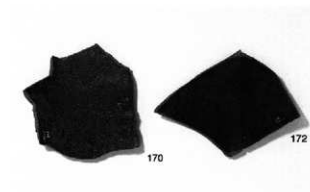
169外面



169内面



170・172外面



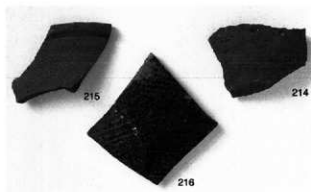
170・172内面



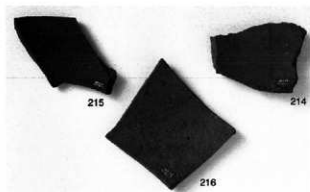
171外面



171内面



214~216外面



214~216内面



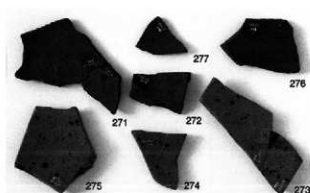
270外面



270内面



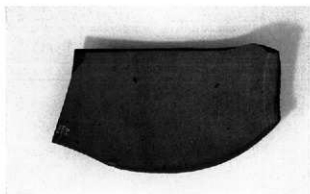
271~277外面



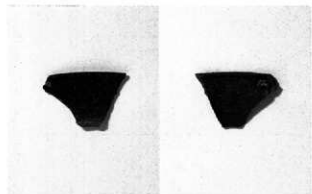
271~277内面



278外面

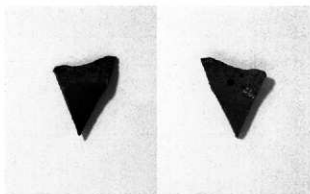


278内面



336外面

336内面



336外面

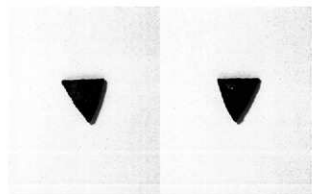
336内面



336外面



336内面



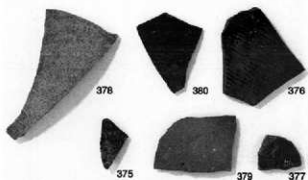
337外面

337内面

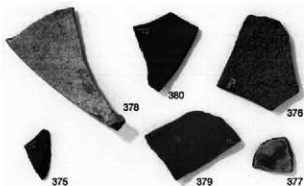


394

図版94



375~380外面



375~380内面



395外面



395内面



426



427



444



445



446

444~446外面



444



445



446

444~446内面



448外面



448内面



453外面



453内面



461外面



461内面



466外面



466内面



467外面



467内面



479外面



479内面



475



476

475・476外面



475



476

475・476内面



480外面



480内面



478外面



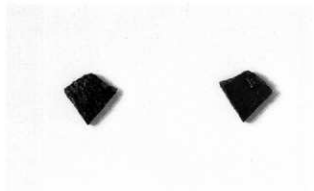
478内面



481外面



481内面



500外面

509外面



504外面

514内面



510外面



510内面



511外面

512外面



514外面

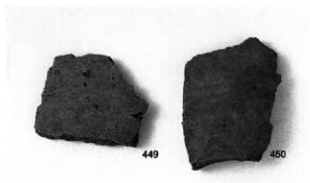
515内面



454外面



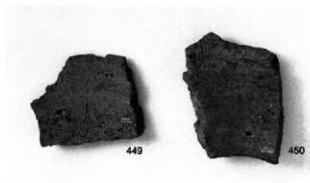
454内面



449

450

449・450外面



449

450

449・450内面



451外面



451内面



464外面

464内面

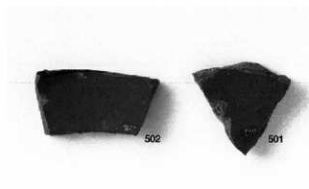


495外面

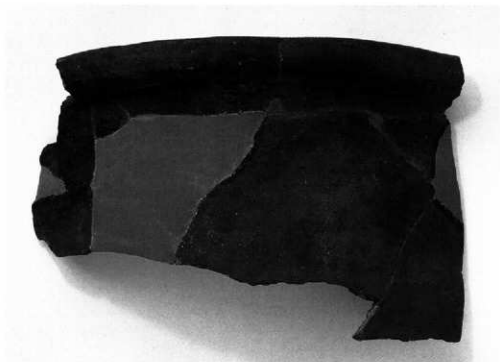
495内面



501・502外面



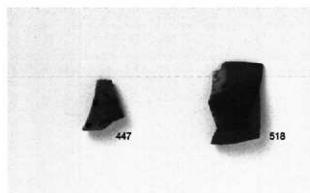
501・502内面



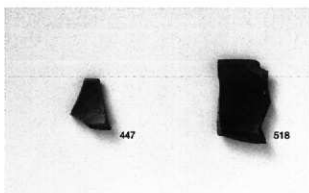
515



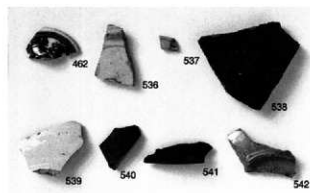
516



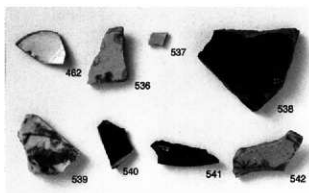
447・518外面



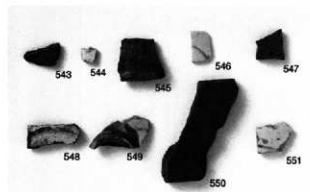
447・518内面



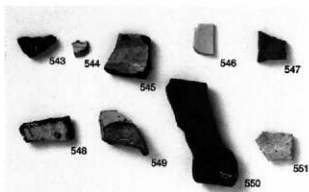
462・536~542外面



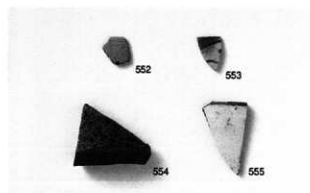
462・536~542内面



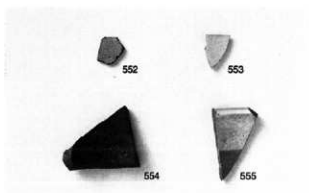
543~551外面



543~551内面



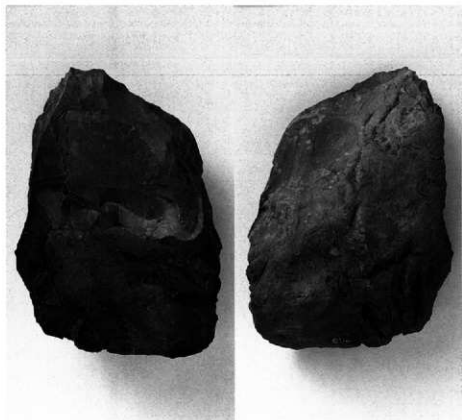
552~555外面



552~555内面



517



456

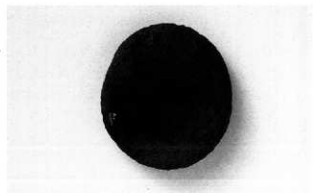
456



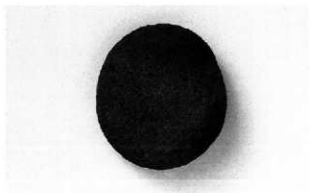
457



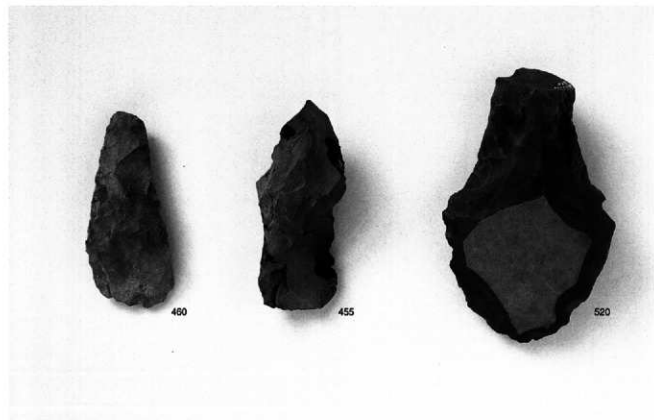
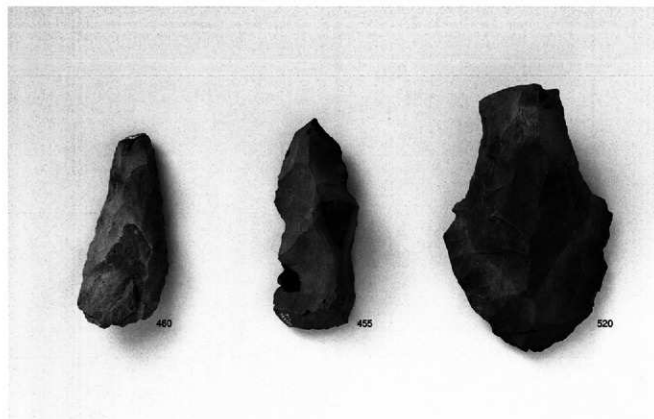
457

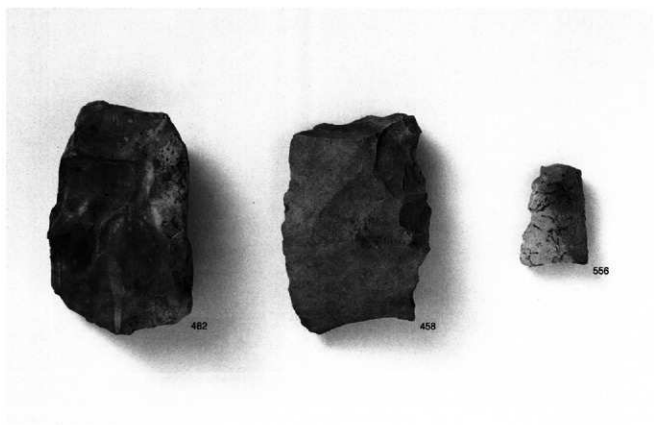
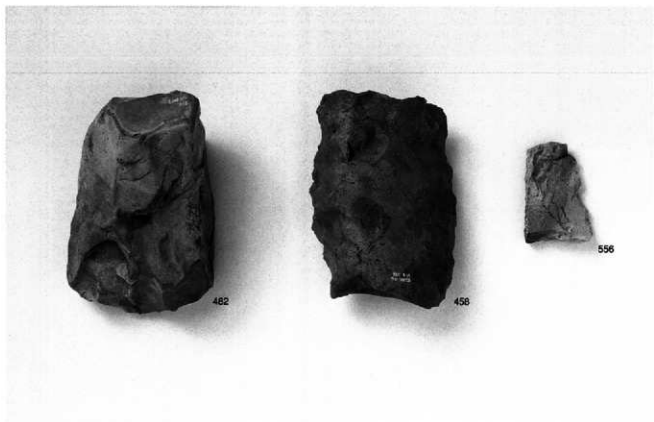


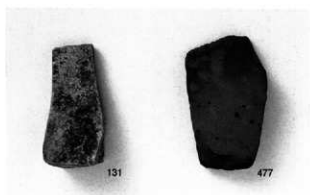
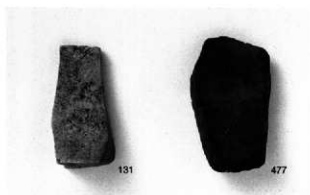
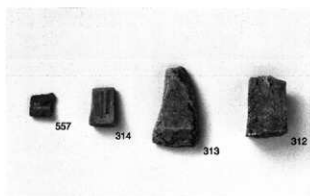
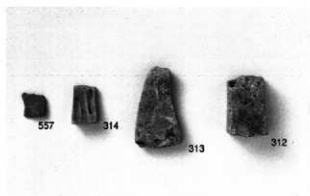
473



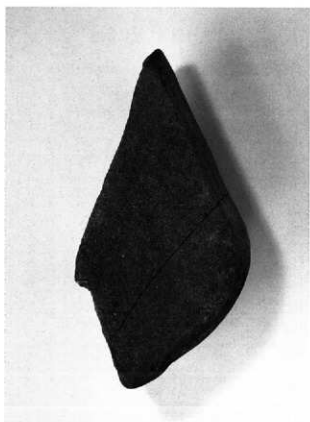
473







72



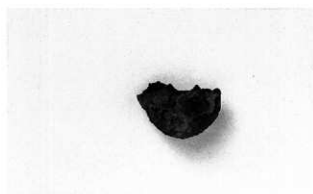
72



471



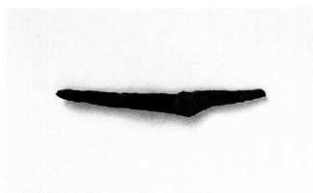
199



44



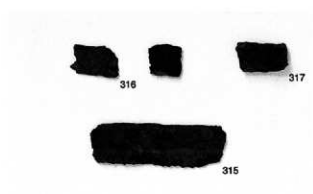
44側面



230



231



316

317

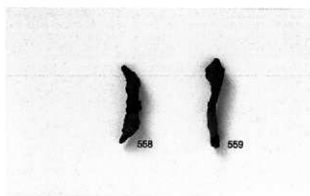
315



351

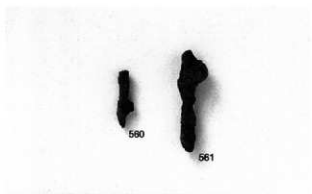


352



558

559

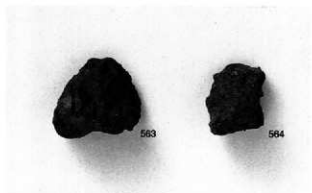


560

561



562

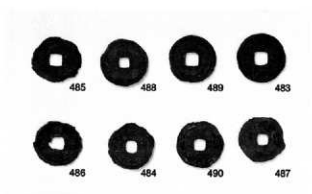


563

564



565



485

488

489

483

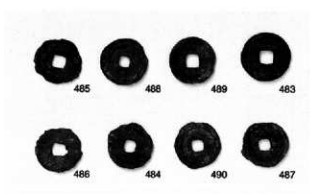
486

484

490

487

483~490裏面



485

488

489

483

486

484

490

487

483~490裏面

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第79集

おともちょうじょかしよ
落衣長者屋敷遺跡遺跡発掘調査報告書

2001年3月31日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号
電話 023-672-5301
印刷 田宮印刷株式会社
